夕刊 滿洲日報 八月十八日

政府とは感情疎隔せず 委員は冷靜に條約審議
伊東精査委員長挨拶
けふ愈よ樞府精査委員會開く

【東京十八日發電通】ロンドン條約に關する第一回樞府精査委員會は既報の如く十八日午後一時より宮城內樞府事務所に開會、倉富、平沼正副議長、伊東委員長以下委員全部、二上書記官長、村上、堀江、武藤各書記官等出席先づ倉富議長より條約御諮詢の經過並答文提示拒絶問題の顛末等につき報告し二上書記官長より條約下審査の經過條約文訂正の顛末審査材料並びに參考書類の整備等につき報告し次で伊東委員長より委員長としての挨拶ありたる後

樞府における精査委員の指名遲延せる爲め樞府政府間に感情の疎隔あるやに傳へらるゝも右の如きことは決してあるべき事にあらず本委員會は最も冷靜嚴肅に案文を審議したい

と述べ次で各委員間に豫じめ政府に對する質問の順序について大體左の如き打合せをなした

一、奉答文提出要求問題については之を後日に保留すること
一、統帥權問題については事將來にも關係あるを以てこの際この點を最も明かになし置くこと、從つて海相と軍部との間に交換されたといふ覺書についてもこれを明かになし置く要あり
一、國防、費用問題は最も重大な審議項目であるから充分の注意を以て審議をなすこと
一、軍縮剩餘金の使途を明かにすること、殊に國民負擔の輕減を圖り得る餘地あるや否やを明かにすること
一、審査資料として政府に提出を要求すべきもの
一、審査委員會に於ける審査分科

右各項目につき打合せ協議をなしたが打合せは大體本日を以て終了し次回よりは政府側を加へたる正式審査委員會を開くことになる模樣で審査委員會の審査分科は財政關係は田、荒井、水町、統帥權問題は金子、久保田、河合大將等がこれに當ることゝなるもの如くである

條約精査と 政府の答辯方針
第二回委員會で會議經過報告

【東京特電十八日發】ロンドン條約に對し政府側では濱口首相を中心に幣原外相、財部海相、江木鐵相、阿部陸相代理、井上藏相等の關係閣僚、加へて樞密院側の質問に對する答辯に萬遺漏なきを期し、又海軍省、外務省、法制局、內閣の聯合協議會も前後十日間に亘つて記錄關係閣僚の決定した答辯の整理その他の事務的準備を爲してゐる、第一回精査委員會には政府側は出席しないけれども廿日開かれる第二回の精査委員會には首相以下出席、樞府側の質問に對し濱口首相は

ロンドン海軍條約提唱以來參加並に調印に至るまでの經過、ロンドン海軍條約に關する回訓案決定の經過及びこれに關して海相事務管理として執つた措置、ロンドン條約の樞府御諮詢までの經過

について報告し幣原外相はロンドン海軍條約調印に至るまでの外交的經過、條約文の概略的說明(條約局長)專門的に觀たるロンドン海軍會議の經過、條約の軍事的意義に關する見解、同條約後同條約の善後措置として開かれた軍事參議會に關する極めて概略的な報告をする筈で政府側で豫想してゐる質疑の主眼點は條約の具體的內容よりも寧ろ手續き及び派生的な問題であるとしてゐる、今その主なるものは

一、請訓案決定當時の財部海相の態度
二、回訓案決定當時の濱口首相海相事務管理對加藤前軍令部長との交渉(所謂統帥權問題)
三、三大原則の主張不貫徹に關する政府の責任問題
四、財部海相に關する責任問題
五、補充計畫並に剩餘財源の使途
六、一九三五年の會議に對するわが國の方針
七、軍事參議會奉答文の內容
八、內閣官制第七條に關する解釋

などでこれに對しては第五十八議會にて論議されたる問題についてはその場合政府委員が答へた答辯を根本としてまたその他の問題についてはその後の對樞府準備の協議會で決定した方針に依りて答辯することになる模樣である

翰長委員長協議

【東京十八日發電通】二上樞府書記官長は十八日午前九時五十分伊東委員長を私邸に訪問し午後一時より開會の第一回精査委員會に關し種々打合せをなした

竣工した天の川發電所

歐亞連絡の 寢臺料値上問題

【ハルビン特電十八日發】ロシヤ交通部から歐亞直通旅客連絡にシベリー線その他ロシヤ鐵道に要する寢臺料は二割五分の値上げをする旨關係鐵道に通知して來たことは既報の如くであるが、實施期を八月十五日からとすることは南滿その他の連絡鐵道で準備ができぬので交渉し九月十五日から改正方を回答したところロシヤでは若し實施ができねば滿洲里、ポグラニーチナヤ間の引上げ率を滿洲里で追加徴收する方針だと頑強に主張してゐる

不足五千萬圓の 補塡財源は何に
明年度豫算編成の難點

【東京十八日發電通】深刻なる不景氣は直接國家財政に反映して五年度實行豫算にて生ずべき六千萬圓の歲入缺陷は加速度的に落込んで六年度歲入缺陷は一億三千萬圓を見込まれ未曾有の財源缺に直面してゐる、即ち節約を要すべき額は

一、歲入缺陷一億三千萬圓

(內譯)租稅收入減一億圓(租稅收入は[illegible]稅を筆頭に織物、砂糖各消費稅、所得稅、營業收益稅等殆んど全稅目に亘り減收が見込まれてゐる)印紙收入並に官業官有財產收入減三千萬圓

二、五、六兩年度追加豫算財源として一般會計より控除すべき額一千五百萬圓
三、當然增として是非共容認すべき額五千萬圓

計一億九千五百萬圓の巨額に上つてゐる、これに對して明年度において得らるべき新規財源は

一、煙草元價拂戾廢止に伴ふ一般會計繰入金一千五百萬圓
二、營繕事務統一に依る經費減五百萬圓
三、官廳用品共同購入に依る經費減四百萬圓
四、官吏旅費削減に依る經費減六十五萬圓

計二千四百六十五萬圓に過ぎず結局差引一億七千萬圓は是非共既定經費節約に依り捻出せねばならぬことゝなるが、大藏省の目論む通り補助金調査費を含む物件費四億圓から天引一割五分を節約して六千萬圓、繼續費二億一千萬圓を三割節約して六千萬圓計一億二千萬圓の經費節約をなすとも尚ほ五千萬圓の歲入不足を見る狀態に在り本年度實行豫算において八千萬圓の所定經費節約が要求されたるに對し僅かに六千萬圓の節約より出來なかつた事實から見て明年度において一億二千萬圓の節約が果して成功するかどうか假りにこの節約が可能なりとしても五千萬圓の財源を何に求めるか、行政整理、恩給法改正は目下のところ不可能である、郵貯利下に依り預金部資金の一般會計は大衆の利益において非難を受くべく減債基金繰入も不可能に在り、何處に歲入缺陷を補塡すべきやは明年度豫算編成の癌とされてゐる

蔣氏主力に對して 天津占領を命令
一部は隴海線方面へ

【濟南特電十八日發】蔣介石氏は韓復榘、李[illegible]、李鼎林氏等へ一路天津を占領するやう命令したが津浦線で大勝した南軍の一部は濟南及黃河南岸を固め一部は山東西部の敵を追擊し一部は鐵路から隴海線の戰ひに參加することになつた

山西軍は德州に 防禦陣地を築く
敗兵の集結を急ぐ

【天津特電十八日發】濟南へ一番先きに入つた南軍は第六十七師濟光甫氏の二ケ旅であるが同軍は山地から徐に南を襲つたものである、界首馬溝に在つた師作義、李生達軍約八萬は退路を失つたので目下肥城の西方へ退却中、濟南から渡河して濟州に逃げ歸つた山西軍は僅かに十四ケ列車一萬四五千であり、膠濟線の王靖國軍は明水へ退却する豫定であつたが大に狼狽して濟城から渡河して退却中であるが目下黃雨のため黃河の水量多く渡河は甚だ困難であるから山西軍は再起不能の損失を被つた譯だ、師作義、李生達兩氏の行方は不明、閻錫山氏は德州で敗兵を收容し同地に最後の防禦陣地を築くやう命令した

敗兵德州輸送

【天津特電十八日發】德州以南の津浦線には山西軍充滿してゐる津浦鐵路局長劉恩承氏は十七個列車で戰時の通列車を編成し敗兵の德州輸送を指揮してゐる

南軍の對邦人態度

【濟南特電十八日發】當地居留邦人は十五日天津へ避難する豫定であつたが山西軍が列車を二十四列車差押へた(內十七列車だけ德州へ逃ぐ)爲め出發不能となつたところへ南軍が入つて來たので少數は學校、庚申俱樂部等へ避難した、南軍の邦人に對する態度は目下のところ何等憂ふべきものがない膠濟線も修理次第近く開通する見込である

走馬燈
荻川

共管(其七)

現在に於ける南北抗爭の勝敗がどちらに決まるも、こちらは双方に何等の贔屓もないが、唯其勝敗の決まつて、少しでも支那の統一に進歩あることを希ふ、此點からすると、現在の抗爭が其進歩の過程と思へば、我慢すべきは我慢もせねばならぬ、されど累々支那の革命擾亂は、其抗爭を南北に、亦東西に、轉々と繼續して極まるところなく、還次の南北抗爭が片附くとしても、相次ぐ抗爭の重ねて起るを恐はしむ。

◇

然り、支那革命の擾亂は、主義問題よりも勢力の消長を競ふと云ふのが先決となる、それで一勢力が頭を擡げば、他の勢力は主義の如何を問はず、力を揃へて之を抑へようとする、此點から觀れば、萬一にも還度び南方が勝つとすると、閻勢力を中心とする汪、汪の合體が解けて、抗將勢力は、湖南の共匪を中心とするに至るかも知れないのである、主義に結合せず、勢力を本位とするところ、必ずしも此事なしと云はれうか。

◇

南京政府の前身たる廣東政府は實に此共匪に護り立てられて、現在の南京を生み出したるものそれで其功績の多いだけに、其根柢も南方では相應に深い、それを南京政府が急速に芟除したのであるか、此共匪は盡さるゝものでなく、遂次の湖南のみならんや、共匪は時に蹈み擾に乘じて興り、軍閥の鬪や爭ばかりでなく、將が或は共匪を抗將勢力の一に數ふべきものとせねばなるまいが、南京政府の支那統一として容易と云へぬ。

◇

そこで南京政府の建つや、列國が該政府を、支那の統一政府かのように認めたは、少し早きに過ぎた傾きがある、縱し此事たる該政府の勢力から推して之を統一政府たらしめんとの下心からであつたにせよ、幵は別問題で而もそれが南京政府に同情する譯だが、列國の支那內治干渉ともなる不斷の關渉あり、列國は支那の各地方、各政府の政令が行はれざるところには、それが行はるゝまで、南京政府から觀て、內治干渉と思はるゝことを、不斷關渉の必要から、實行して差支なからん。

馬旅長等を逮捕 軍法會議で審理
張學良氏通電を發す

【奉天特電十八日發】既報山海關駐屯の步兵第二十三旅長馬廷福の不穩計畫に關し張學良氏は十六日附北戴河より張作相、萬福麟、湯玉麟氏等の要人に對し

馬廷福等が煽動に乘つて反亂を計畫せるも幸ひに于學忠の密告に依つて事前に察知するを得、十五日于學忠と協同して馬廷福以下各團長を山海關、北戴河兩地で全部逮捕し目下軍法會議で彼等の計畫の背後と資金の出所などを嚴重取調中である

と通電した、この事件は團結の堅固を誇る東北軍の內部に一抹の暗影を投じたものとして重大視されてゐる

張學良氏は元氣
王樹翰氏より返電

【奉天特電十八日發】臧式毅、榮臻氏等の張學良氏安否問合せに對し王樹翰氏は十七日「張學良氏は極めて元氣で北寧鐵道復舊を第一歸奉する」旨返電した

釣魚と庭球に 興ずる張氏

【天津特電十八日發】張學良氏暗殺さるとルーター北戴河通信は報じたので各方面の注意を惹いたが十七日午前までに判明した情報では全然無根で張氏は依然時局を他所に悠々自適の生活を送り近頃釣魚テニスに興じてゐると

禹城に司令部

【天津特電十七日發】津浦線は本日から德州まで乘車券を賣始めた傅作義、李生達兩氏は目下禹城に司令部を設けた

滿鐵給與規程案 あす審議を開始
減給など豫想されず

滿鐵本年度の營業收支豫算內容については過般來重役會議席上における說明によつて仙石總裁もその對策の目安だけは略ついた模樣であるが十八日からは引續き本年度事業費に對する說明を聽取することになつた、十九日は臨時業務調査委員會で作製した滿鐵諸給與規程改正案を重役會にかけ審議することに決定したが今後重役會議は當分豫算會議と給與問題と交互に即ち月水金を豫算問題火、木、土を給與問題として協議することゝなつた、而して給與問題については減收問題と結びつけ手當の減額とか家族手當乃至宿舍料などの減額乃至は賞與の減額社員の整理等を當局斷行されるものゝ如く傳へる向きもあるが仙石總裁は政府の減俸案を一蹴した位だから今日二千五百萬圓餘の減收によつて社員の現給を減額しやうなどゝは考へられず只社員の預金利子、退職慰勞金(既得權は除外)その他は相當論議改善を見んかと觀測されてゐる

貨物吸引策調査
滿鐵主任會議で協議

滿鐵々道部では十五、十六兩日貨物主任會議を開き今後の貨物取扱ひに對して遺憾なき打合せを行つたが十八日は午前八時より更に村上部長、鈴木次長ほか鐵道部各課長係主任及沿線主要驛の貨物主任を交へ貨物誘引策として背後地の調査、情報の敏速な連絡等に就し協議するところがあつた

伍堂理事の挨拶

滿鐵興業部長兼地方部長に就任した伍堂理事は目下連日開催中の重役會議及十九日から開かれる臨時業務調査委員會案の諸給與規程改正が大體今週中に一段落を告げることゝなつてゐるのでその終了を待ち來週鞍山、撫順へ赴き就任の挨拶をなすことにならうと

營業收支問題は 引續き研究する
大平滿鐵副總裁談

仙石總裁に對する本年度營業收支豫算の說明は十六日を以て大體一段落を告げたが未だ總裁から何等の指示もない更に引續き研究することゝなつてゐる、事業費の方はこれからやるが給與改正案と交互に開催することにならう石炭販賣方面に對する案か、それは小川販賣部次長が考へてゐる筈だ、石炭販賣會社の改善などはまだ契約期限があるので不可能だらう、石炭販賣人制度の廢止、それも未だ考へてゐないがこの方面のことについては販賣部の方で愼重に研究してゐる、木部鞍山見倉庫會社々長の來連は同社について種々打合せがあるからであらう

煙酒稅の減收は 十八萬圓の見込
關東廳財政の大打擊

銀の暴落は輸入煙酒の原價安となり煙酒稅の課稅額に影響して減稅減收の憂は關東廳の懷工合にも無氣味な脅威を與へてゐる、先づその徵稅の大部分を占めてゐる大連民政署について見るに本年度四、五、六、七月の四ケ月間における煙草稅の課稅額は二十二萬五千七百八十九圓六十九錢にしか達せず昨年同期に比し四萬八千五百七十圓の減收を來し、酒稅は課稅額七萬七千四百三圓九十三錢でこれまた昨年同期に比し一萬五千六百七十四圓九十三錢の減收を來してゐる、昨年一ケ年の課稅額は煙草七十四萬四百四十二圓卅七錢で酒は十七萬七千四百三十〃錢であるが若しこの狀勢にして推移するとせば昨年の課稅額に比較して本年は煙草稅約十四萬圓、酒稅約四萬七千圓、合計十八萬七千圓減少の見込みで當局は頗る頭を痛めてゐると

關稅短期庫券 條例公布

【□□特電十七日發】南京電に據れば南京政府は今回十九年關稅短期庫券條例を公布したが主なる要點は次の如し

(一)發行額面五千萬元(二)用途銀安に因る金融財政の調濟の爲め(三)本年九月一日發行(四)利息月八厘(五)償還九月より每月元利償還を始め民國廿五年にて終る(六)擔保、關稅增收項の內から元利償却(七)手取九八(八)種類無記名式、一萬元、一千元、百元、十元の四種(九)該券は擔保、買賣、並に公務上の保證金擔保及銀行の保證準備金と爲すを得

而して右は宋子文氏の召集した各省關稅擴闊長官會議にて決定したもので銀行界に引受けせしめず江蘇、浙江、安徽、江西、福建、湖南、湖北、山東の各地方で分擔するものであると

築港調査委員 二十日大連出發

目下來連中の多獅島築港實地調査委員一行は二十日夜行にて大連發途に鞍山、營口、撫順の三ケ所を視察し廿三日新義州に到着の豫定

日滿連絡會議と東鐵提案

【ハルビン特電十八日發】第九回日滿旅客、貨物直通連絡會議は十月五日頃大連にて開催されることに決定し東鐵側では目下提案事項に就き各課で研究中であるが、八月末には日本側との問題交換を終ると

はいかる丸船客

【門司特電十八日發】二十日入港豫定の定期船はいかる丸の乘客中主なる者左の如し

寺田春二、楢橋茂三郎、高見三吉、瓜谷長造、前田實、廣瀨茂、増田貞一、佐伯宗雄、安部磯雄(社民黨主)、眞須久、河村茂久、倉橋大佐、吉村英吉、石原主計正、松本少佐、渡邊一郎、吉村哲三、三浦內務局長夫人

人事

▲今井淸少將(步兵第三十旅團長)新任挨拶の爲十八日市內各所歷訪
▲大槻滿次郎氏(大連婦人病院長)同上
▲森連中將(獨立守備隊司令官)同上
▲岩田文男中佐(獨立守備步兵第三大隊長)同上

大觀小觀

けふ第一回精査委員會、初秋新涼の氣爽かにあるべし。

◇

殘暑に當てられては今日まで猛夏を押し切つて來た甲斐なし。

◇

また復颱風、小笠原島南方の海上に現はれてその進路察ぜらる。

◇

樞府の颱風を恐む國民、颱風一過、日本晴れの秋の空高く澄みてこそ瑞穗の國は豐穰の秋。

◇

「何が伊東伯をそうさせたか」と言はれぬやう。

◇

スポーツ精神を忘れた都市對抗野球ファンの話を聞く。他山の石なるや。

天氣豫報

十九日(南西の風)晴時々曇

各地溫度

	十一時	昨日最高
大連	二九・一	二八・四
旅順	二八・五	二八・六
營口	二八・一	三〇・一
奉天	二七・五	三一・二
長春	二三・一	二七・八

滿潮 午前四時四十五分 午後四時四十五分
干潮 午前十一時三十五分 午後十一時十五分

侠艶一代男 (29)

米田華紅作　伊藤幾久造畫

盲目長家騒動(十二)

「それッ！向ふへ逃げた！」

「あの屋根へ飛んだッ！」と、暗い屋根から屋根へ身軽く飛移る火の玉小僧典膳の逃げ廻るのを、役人や捕方が追ひ廻してゐた。

その盲目長家と細い路一つを越した左近郎の仲間部屋。近所の大騒ぎを餘所に入九人の素裸へ法被一枚の仲間たち、貧乏徳利に茶碗酒を汲みながら、圓座を作つて、丁だ半だと血眼になつて勝負に夢中であつた。

夜も鬢入つを廻つてゐるから、直に明るくならうとするのに、こゝ許りは煤けた行燈の下、額に油汗をにじませ、濁酒に赤い顔をほてらせながらチャラ〳〵と金の音をさせては、夜明しで爭つてゐるのだ。

「半と張るぞ」

「こんどは出目金と縁儀を祝つて丁と行からかな？」

盤へチャラ〳〵と金がこぼれて胴元に廻つた仲間の伏せた茶碗の手元へ、一同の視線がじつと注がれる。

「いゝかい？開けるぜ」と胴元仲間の聲。

「えへツへツへヽヽヽお樂しみでございますね」

降つたか、湧いたか？いつの間に部屋へ忍び込んだか？彼等の後に突立つて、勝負を見下しながら薄笑ひを浮べてゐるのは、たつた今、盲目長家を捕方に追ひ廻された許りの火の玉小僧典膳。

「ヤッ！手、手前は……？」と、一同はギヨッとして振り仰ぎざま

「ど、こから邸内へ這入つて來やアがつた？」

「へえ、あんまりいゝ音がしやすし、好きな道なので、つい知らず紛れ込みました。どうかお仲間へ入れてやつてお呉んなせえ」

「薄氣味の惡い野郎だ。一體から這入つて來たんだ？」

「へえ、お邸の裏外に出てるます松の枝を一寸拝借をしまして、ふらりと這入り込みましたので、決して怪しい者ではございません」

「ちよッ！そ、それが怪しくねえことがあるものか？妙な眞似をしやアがると、引ッぱたいて突き出してくれっぞ」

「それは惡い考へ違いでございますよ。天下御法度の賭博でございますからね。お邸の名前が出ましやうからな。それよりは俺を仲間に入れて下せえ。これ、この通り金は持て居ります。別にお前さんがたから儲けやうと云ふんぢやねえんで、勝負を爭ふことが、三度の飯より病みつきなんでございますよ」

典膳は懐と胴巻の小判や小粒金をチャラ〳〵と音させてみせた。

「どうしたもんだらうか？」

「仲間に入れてやるさ」と、仲間は何か互に眼で合圖をしあつた。

そこで典膳は小さく隅にかしこまつて、その一擧に加はったが、張る度に負けて許りゐた。

「どうしても態と負けてやるとしか思はれない位である。

「お前さん、よせばいゝのにとんだ所へ飛び込んで、大部取られなすつたね？」と、中には氣の毒氣に漏らす仲間も居つた。

「いえ、どう致しやして！かうして遊ばして頂くのが、面白いのでございますよ」

彼は金を取られる事を、一向苦にしない風で、張る度に綺麗に取られて許りゐた。

薄明るく、窓が白んできた。

ところが什麼したわけか？あれ程に血眼で夢中に勝負を爭つてゐた仲間が一人倒れ、二人倒れ、一同が居汚なくそこへ打つ倒れて寝そべつてしまつた。

典膳は、これを見るとニヤリと笑つて、場金から仲間の胴巻にある金まですつかり洗ふやうに探り集めて

「茶碗酒に仕込んだしびれ藥で、見せ金に利息をつけて呉れやアがつた。お眼ざめで定めし吃驚しやアがるだらうぜ。どれそろ〳〵お暇と出かけやうか？」

のつそりと立ちあがると、おのれの着物を脱ぎすて、仲間の法被と着換へると、部屋の雨戸をそつと開き、四邊の様子へ聞き耳を立てた。

キネマと演藝

常盤座の樂劇部　愈よ専屬組織

常盤座にては今春大黑座樂劇部の出演以來、同座專屬の樂劇部を組織し常盤座の名物として實込むべく計畫中のところ元オペラ俳優であつた石田弘を中心として男優四名女優八名のメンバーが揃ひ七月來連の、豫定であつたのを一時中止してゐたが、いよ〳〵秋のシーズンに入つたので今月末小泉友男氏が上阪し一座を組織して歸連するらしく、第一回公演は九月下旬と見られてゐる、尚今回の計畫は專屬樂劇部として最初は二十名乃至二十五名の部員を以て毎月二回づゝ新作のレヴユウ、オペレッタ新舞踊等の新作品を發表し常盤座にて二週興行をなし、その新作品を提げてあとの二週間は沿線各地を巡演する豫定で從つて新作品の舞臺、背景、衣裳等も相當に金をかけたものとして華やかに新方面を開拓すべく氣込んでゐる

スズラン座　今夜から大衆興行で返打ち

沿線巡業を終へて再び來連したスズラン座は愈々今十九日夜より歌舞伎座に出演するが今回は特に大衆興行として入場料は大人五十錢小人三十錢の均一であると

調正會を聽く　昨日南華園で

既報の通り十七日正午から南華園で南茶寮、常磐津調止會の初演奏會が浴衣會として催された、久しく此種常磐津演奏會の催しを見なかつた折柄でもあり勞々紫るしく同好者の興味を唆り來聽者五十名を超へ會場の狹隘を告げる程の盛況

裡に當日の渭興を恣にして目出度散會したのは午後五時頃であつた▲七福神、唄の邦三君弱冠未だ十九の若者ながら天分を見込まれて二佐太夫の衣鉢を繼ぐ立場にある人、流石に玄人仕込の味で聽衆を得心さすに充分▲羽衣藤田夫人の唄に師匠と一挺一枚嗜みの程をシンミリ聽かせ▲三保の松、美聲で知られた玉吉の唄、師匠と内弟子昌信の糸何れも自信のある演奏振り▲將門、唄藤田君糸は師匠ととし松……三十分掛つた難曲將門を少しもダレさせなかつた處に最近同君等の精進振りが窺はれる▲鶴龜大檢舞子三智子、佳代子、豆子の三人唄ひとし松、小松兩姐チヤンの糸でいたいけな演奏振りに大喝采、聞けば正に師女紅場に入つての處女作品……心なしか見する師匠の目頭に光るものと見へたは左こそと肯かれた▲とします、かしくの唄おとめと一挺一枚……當日中の秀逸殊にかしくの睾柄持味など同會の珠玉▲廓の仇夢、小化、邦三の唄で師匠とおとめの糸、惡文卑猥でお座に出せないとされたこの淨瑠璃を極めて上品に面白く聽かせたは演者の力と随所を改作した用意が然らしめたと思ふ▲松島、やの字君の唄今一息▲三世相、とし松、小花の唄師匠と市葉の糸ピッタリ合つた息と云ひ唄兩人の洗練された語り口は心中ものの情趣を充分に味ふ事が出來た▲戻り橋、同會男連の双璧として自他共に許すコノ道の通者聊かも危なげなく科白メリハリも無類の上出來、殊に段切り間近の突込むイキの張り切つてゐるあたり演者も氣持ちよささう▲廓八景、市葉、小花、唄おとめ、小代の糸で賑やかに無事演了、但し八景では從來あまり認められなかつた小美代の三味線が案外シッカリして居る事を附添へて置く

因に正惠師匠は明十九日の定期船香港丸で一應歸連し改めて來月下旬再び來連十一月下旬まで滯連稽古に當る豫定の由

るよりはと▲「踊る人生」はパートーキーで上演し綺麗で面白いところを御覧に入れると大日活の老婆心▲片瀬千惠蔵が囀つたあと、あれでお氣に入りませんでしたらこの方では如何？と許り澤田清の「千丈の紅戀」で美しいところを狙ふ▲常盤座はとう〳〵二十日まで下げて洋畫にお客を引きづり込み引くに引かれぬ潮時を見計つて無心をいふ▲また今秋から專屬樂劇部をつくつて常盤座の名物にしたいと言へば傍から口のよくないのがそ物であらまいものをネ」

オール・トーキーで解説者に悲鳴をあげさせてお客を鰹にす

ナンシー・キヤロル孃

パラマウントの新進花形女優として素晴らしい人氣を集めてゐるが、彼女の處出し作品「アビーの白薔薇」をはじめ「店曝し」「天使」「マンハッタン・カクテル」「ウオール街の狼」「戀愛行進曲」等いづれも大連に上映されず馴染が薄いが「踊る人生」で初御目見得する【來る二十日から大日活上映】

讀者慰安映畫會

パ社特作品天然色レヴウ映畫『踊る人生』全九巻

日活時代劇特作品澤田淸主演『千丈の紅戀』全十巻

會期　八月二十日から

會場　大日活に於て

會費　讀者階上五十錢階下四十錢

後援　滿洲日報社

ラヂオ

大連 JQAK

八月十九日午後七時半

▲ラヂオ體操

▲支那語講座「初等科第十一課」滿鐵學務課秩父固太郎

▲管絃樂(イ)「メデテイション」グノー作(ロ)「アイダマーチ」ウエルデー作　ヤマトホテル管絃團

▲浪花節「故郷の錦」市川紋十郎

▲支那唱「小上攻」唱手小亭師付王振泉

▲職業紹介事項

▲料理献立

▲天氣豫報

東京 JOAK

八月十九日午後六時二十五分

▲趣味講座「此の一筋」西谷好三郎

▲脚本朗讀「東下り五十三驛」(河竹默阿彌作)濱松城樂院奥殿の場(伊役)小坊主法作實は淸水間者義尚後に天二坊(佐々木波之助)盗賊池雷、郎實は竹川伊賀之助政定(森武治郎)人丸お六實は今井四郎娘かけはし(和田竹二)赤星大八後に赤星典膳、若藤家根佐九郎後に藤家根佐京(畑野柳)猿野勘六(伊藤庫三)其の他、捕手頭小林鉄十郎(樂瀬梁治郎、放送指揮、解説(馬場晴背)長唄囃子(杵屋彌吉連中)

▲管絃樂　一)聖譚曲天地創造(二)岩の主なるイエス(ハイドン作)(三)モニカの尼僧(クプラン作)(四)藥の中の七面鳥(アメリカ民謠)(五)圓舞曲「憶せよ」(バーリン作)(六)道化芝居(スルカラッテイ作)ニツキウアンサンブル、指揮大中寅二

▲新小唄と囃子(一)新小唄(湯山幸三郎作)(イ)はまき節(ロ)湯山音頭(ハ)奈良小唄(二)久滋酒音頭　唄あき子、三味線久米千代、杵屋園廣、囃子連中(三)神樂囃子(イ)大拍手式場(ロ)御幸(ハ)神樂鋼の舞(ニ)立囃子(ホ)屋臺拍子(ヘ)神樂鈴の舞(ト)打切　山梨西島神樂團、指揮佐野竹次郎

滿日地方版

奉天

花代、玉代値下 愈よ實施に決定 警察署長の認可次第

市內柳町料理店組合では不景氣挽回策として藝酌婦の花代玉代の値下げを斷行する計畫を樹て準備を進めてゐたが居留地側一部の反對でそのまゝ立消えの狀態となつてゐた、しかし同組合では更に時勢に順應し自發的に是非値下げを實行するため酌婦夜間七圓を六圓に藝間六圓を五圓に又藝妓の線香代一本五十錢を四十錢に値下げする過日開かれた同組合總會で審議の結果異議なく可決し十六日午後二時半から柳町組合事務所に柳、十間房兩組合役員參集し右案につき約二時間に亘り協議した處十間房組合側も異議なく承認したので愈々實行することになり具體案作成の上兩三日中に奉天署に對し認可願が提出される筈であるが奉天署でも異議なく認可を與へる模樣であるから近く實施されるやうにならうと

共濟組合對策協議

十六日夜共濟組合問題に關し贊助員は加茂町上田統氏宅に會合し調停者たる上田氏と種々懇談をなす處あつたが結局調停者から希望し來つた一人につき五百圓宛の出資につき十六名の贊助員中九名（四千五百圓）だけ取敢ず負擔することを協定し覺書を取り換はす筈で尚殘り七人の出資についてはどう決するか判明しない

撫順軍大勝 對奉天劍道試合

奉天道場劍道部では撫順軍を迎へ十七日午後二時半から奉天道場に於て劍道試合を擧行したが奉天側は一體に元氣乏しく不戰五人を殘して撫順軍大勝し四時半散會した尚その成績左の如し（○印勝）

撫順　小石澤　黒技　佐藤　水上　外村　松田　中島　溝口　早川　森　神保　佐々木　海老名　本村　不戰廣川　同高山　同金澤　同愛甲　同大將坪田

奉天　池田　森浦　三本　坂水　清本　榎場　的崎　田田　前[illegible]　久見[illegible]　片[illegible]　福[illegible]　尾[illegible]　瀬[illegible]　川[illegible]　榎[illegible]　高[illegible]　○大將中西

豪農宅に匪賊

十六日午後一時頃新城子附近支那部落に十數名組匪賊現はれ支那豪農宅を襲ひ人質一名を拉去しつゝあり、討伐に赴いた巡警一名を射殺し銃を強奪逃走したと那側公安局では極力該匪賊捜査中であるが急報に接した奉天署からも刑事數名並に外事巡查十數名十六日夕現場に赴き大警戒に努めたが何等手懸りはなかつたと

邦人が强盜に襲はる

十七日午後零時四十分頃市內平安通末廣清次は運河鐵橋附近に於てモーゼル拳銃を所持せる二人組强盜に襲はれ銀側腕時計一個十五圓女持指輪價格五圓と三圓五十錢入りの財布を奪ひ高粱畑に姿を晦ました同人は午後六時五十分頃屆出でたので犯人の捜査を行つたが發見するに至らなかつた

町の便り

故金谷巡査部長の十日祭は十七日午前九時から新高町住教會所に於て嚴に營まれたが參列者立川署長代理以下各署員その他多數あり盛大裡に十一時頃終了した尚金谷氏の遺骨は十九日郷里から遺族來奉し引取つて歸國する筈 ◇ 奉天國粹會本部幹事長福島清治氏は十七日皆川本部長の手許に辭表を提出したと ◇ 過般抱酌婦並に仲居に暴行を加へ一悶着を起さんとした市內料理店富田屋事件はその後政枝、とし共某氏の調停で和解成り圓滿解決するに至つた

人事

▲山崎領事　十六日遼陽より來奉 ▲仲村奉天署警部　十六日沿線に出張十七日歸奉 ▲撫順劍道部選手一行　十七日奉天往復

瀋滴

暗殺か病死か判らぬが兎も角十六日張學良氏急死說が奉天ばかりでなく支那各地その他各方面にパッと傳はつた▲眞否不明なるが故によもや……ヒヨッとするとなどと話は次から次へと傳へられ色々な噂を生んだ▲十中九、九までは或方面の宣傳であらう位に想像せられその否認說を信じてゐるが萬一之が事實にあつたにせよ相當嚴重秘密にされてゐるに違ひないから單に急死說…城內平穩…急死說否定…と斷定し默殺するのも亦餘りに粗忽すぎる▲どうせ支那側の事であり又時局柄その首領の死亡說など甚だ不利に置かれ絕對秘密を嚴守するに相違ないからその間からうした飛電が度々來ないとも限らぬ▲處でこれまで平々凡々であつた銀相場は學良氏死亡說で十六日の如き十三圓見當動いたとの事お蔭で思はぬ利を納めたもの損をしたものこれ又悲喜交々の有樣である▲學良氏の死亡說も判らぬ銀相場の變動も解らぬ世の中は總て判らぬ寧ろ判らぬが當然のことだ

撫順

麵類其他の値下 料理店から自發的に申請

銀暴落に依る結果、各料理店、飲食店等の料理、ビール代の値下斷行は輿論の聲であつたが今回料理店側も左記の如く一齊に値下する事と決定、當局へ認可方を自發的に願出た

品種	現在	新代價
ビール	六〇錢	五〇錢
シトロン	三〇	二五
ソバカケ	一〇	一〇
モリ	一五	一五
ザル	二〇	一八
玉子とじ	二五	二二
親子	三五	三〇
ナンバン	三五	三〇
オカメ	三五	三〇
天ぷら	三五	三〇
丼物	四〇	四〇

野球團續々來征

森內なき後を悲觀された撫順野球部も、既報の如く實力安東滿俱を凌ぐ新義州を大敗せしめ意氣軒昂たるものあるが、二十四五日頃より三十一日までの間に長崎高商及び名古屋高商の兩チームの來征に決定、亦目下甲子園で覇を爭ひつゝある全國中等學校の准優勝チームが朝鮮經由三十一日頃來征する筈であり更新の元氣燃ゆる撫順ナインの前途は頗る多忙である

旅順の惱み（十一）　一記者

映畫館

◎國際都市としての諸施設の中、老虎尾半島御家莊の利用による賭博類似の設備の必要は既に說いたが、ホテル、ダンスホール等の設備も一大改善を加へらるべきものゝ一であるが、差し當り緊縮を要するものは快適なる映畫館である

◎大連の日活館特に連鎖商店街の常盤座は兎も角快適なる映畫館らしき形態を備へてゐる、常盤座が洋畫物を專門とし座席及通路の快よさ等、ほゞ上海の映畫館に劣らぬ設備を誇り得る

◎西洋物專門を歡迎するのは國際都市の趣旨に反するやうだが、十年一日の如くチャンバラ物では、一度や二度外人や中國人の好奇心を惹き得ても、到底常連のファンたらしむる事は出來ない、日本人でさへチャンバラや日本女優の甘ッたるい戀愛物ではすぐ飽きが來る

◎そこでバックの大きい且劇作に深みのある西洋物や、世界ニュースを編成した清新なるニュース物には、日本人でさへ無條件に惹き付けられるのだから、況んや外人をや

◎支那劇を見て日本人が不可解を叫ぶと同樣に日本劇殊に舊劇は他國人が見て判る筈はない、日本人でさへ多少通にならないと判らない事が多いのだから

◎常盤座が西洋物專門の看板を掲げた事に贊意を表するのは、國際都市になくてたらぬものゝ一つが出來たからである

◎但し其常盤座も平日は夜間只一回の映寫とあつては結局チンポの一九三〇年型と云ふ事は出來ない、

◎德川時代、早朝から夜の九ッ迄お重持參で芝居を見物したやうな呑氣さを現代人に强るのは强る方が間違つてゐる、五時間も六時間も活動見物に一夜を費す事は現代人の大なる苦痛であり負擔である

◎精々二時間か三時間で一回とし優秀な劇物とニュース物と輕い喜劇位で看客が交替し一日數回の興行とすると、料金も安くなれば、散步の序に億劫なしに一寸カッフェーで紅茶を呑む位の氣輕さで觀覽することが出來るであらう

◎顧みてわが旅順の映畫館は果して如何、劇場と公會堂を兼ねた昭和園で、通風の惡さ座席の惡さ、お茶子の不便、音の反響の不完全等數多くの苦痛を甘受し、五時から十一時乃至十二時迄、五時間以上七時間の觀覽苦業に忍耐する覺悟がなければ活動も見に行けない況んやトーキーなどは持つて來たくも其設備が出來ないと云ふに至つては、惠まれざる者よ汝の名は旅順市民なりだ

◎云ふ迄もなく映畫は、ラヂオ、文字による新聞と共に近代文明の生んだ最大なる文化機關の一である、黄金臺の繁榮を礎に擴大し、老虎尾半島の繁盛を興さんとする一面には、快適なる映畫館の設立も頗る緊要ではあるまいか

撫順新名所 東公園の蓮 滿開は次の日曜

撫順の新名所――まだ人に多く知られない東公園蓮池の蓮が綻びそめ茲一週間が絕好の見頃で、十七日の日曜は午前十時頃から新名所の美を求めてピクニックに出た者も相當あつたが打連なる蓮・池に浮ぶボート等繪にもしたい風情である、新屯の建地などより比較にならぬ位多いし地の利を得てゐるので將來撫順唯一の名所と謳はれの遠くはあるまい、この次の日曜におそらく滿開であらう

旅順

吾等の町を語る 今後の伸路は海へ ＝有望なのは鹽の積出＝　宅島猛雄氏談

一言 にして盡せば旅順の盛衰は海軍關係の施設の大きかつた時代に繁榮を極め、其施設の縮小と比例して衰微したと云ふことが出來る、即ち鎭守府の置かれた時代は旅順の最盛期で人口も僅に現在の倍はあつたが、鎭守府が廢せられて要港部となり、次いで防備隊に縮小され、更に防備隊も撤廢されるに及んで、旅順も漸次縮小萎靡するに至つた。◇

明治 卅八年一月の旅順開城以來、一般民の渡來を公許されたのは同年八月だつたと思ふ、當時我陸海軍は互に各職場の整理に餘念なく、沈沒艦船の引揚業、破壞建造物復舊の請負事業陸海軍御用達等に多數邦人の渡來を見、同時に料理店、飲食店の繁昌は素晴しいものであつた現在の第一小學校の下（當時は初瀨町といつた）一帶から靑葉町其世目拔の場所へかけて飲食店（中には今の支那町の前身だつたのも少くない）が軒を並べ絃歌湧く景況であつた、かゝる繁昌を續けた明治卅八年から九年、四十年、と此三年間が旅順の最盛期で、爾來旅順は遺憾ながら衰微の一路を辿り、今日に至つた、海軍が旅順鎭守府を置いたのは明治三十九年だつたと思ふ、同時に要塞地帶も設けられ、軍部、民政部の二機關を抱容する關東都督府と共に、陸海軍の諸機關が多く且其規模も大きかつたので、此時代こそは旅順萬歲の好景氣だつたのである ◇

然る に諸機關の整備と共に一面飲食店等に對する取締は嚴重になる、破壞建造物の復興や沈沒艦船引揚等の事業も漸次完了する一方大連の商港としての發達が目覺ましくなると反比例して、旅順の商港としての價値が殆ど消滅に歸する、彼此の諸原因が重なつて旅順の衰微は避け難き趨勢となつた、時も時鎭守府が防備隊に格下げされるに及んで、旅順はメッキリ寂しくなつた、初め旅順港は商港共海軍のもので、商港としての設備がなかつたが、明治四十年頃から滿鐵が撫順炭の輸出に着手し極めて簡單な棧橋を造築したが、大連の補助港たる形をなすに過ぎなかつた、併しそれ位の事では、旅順の衰微を如何ともする事は出來なかつた。◇

大正 三年日獨開戰の結果靑島の占領となるや、不況に旅順を棄てゝ靑島に渡つたもの相當に多かつた、今尚旅順に移住した靑島市民が殘つて居る筈である、歐洲大戰後の好時代には、旅順も不自然ながら一寸景氣を見せ、鐵工所、製氷會社、製菓會社、ビール會社、窯業會社、興業會社、タオル工業、內外商事、旅順銀行、海陸工場等これこそ雨後の筍の如く新企業が續出したが、しかしこれも一場の夢、財界のガラに見舞れて何れも泡の如く消え去つた。

衰微 に泣く旅順の發展策は今日迄繰返されてゐるが、未だに名案は發見されない、[illegible]中する計畫を關東廳が主となり[illegible]間に鐵道を敷設し、鹽を旅順[illegible]企てたが日本鹽業の不景氣で[illegible]えとなつた、これは同會社の爲にも惜い事であつた、旅順の[illegible]を顧みて、鹽業を中心とする[illegible]は先づ海に發展の途を求むべきものと思はれる、旅順にあるも[illegible]港から外へ出すものとして鹽と硅石とが其主なるものであるが、大連には貯鹽場の好適地がないので、鹽の積出港としての旅順は相當に價値を認められる。（文責は宅島氏）

鐵嶺

壽頭に飜る海老茶旗 霸權三度び開原軍に 各選手の熱技に新記錄續出し 四地對抗陸競大會空前の盛觀

奉天以北各地の期待せる鐵、開、四、公陸上競技第四回大會は十七日午前九時四地選手六十餘名の入場式を行ひ小野鐵嶺運動協會長開會の辭を述べ各地代表旗の掲揚、選手代表福田氏の宣誓、開原主將米津の優勝旗返還式等を終り、午前十時大會開始となつたが豫想以上の好天氣に惠まれ鐵嶺は勿論、開原、四平街等より二三百名の

團體應援 續々と繰込み千餘名のファンは選手席にまで雪崩込み觀覽席を急造する盛況、支那側からも知名士、學生等多數の觀戰あり午前十時號砲を合圖に愈々競技の火蓋は切つて落された、鐵嶺軍は最も自信ある陣容を以て一路榮冠を目蒐けて突進せんとしたが期待せる砲丸投、走高跳、三段跳を得意とするフキールド競技の首位を悉く開原軍に奪はれ公主嶺軍も意外に振はず、遂に左の如き

大差を以 て三度び開原軍に勝者の名を成さしめた

總得點

△開原五五點五 △鐵嶺三三點五 △四平街二五點 ▲公主嶺一五點

競技成績は昨年に比し著るしく進步し砲丸投、五千米突、八百米突リレーを除く他の十種目は悉く新記錄を出し、各選手の奮鬪目覺ましきものがあつた、各競技記錄左の如し

▲八百米　二分七秒五三（新記錄）一着安中（開）二着保井（四）三着布施（開）四着信出（公）
▲百米　十一秒五（新記錄）一着木村（鐵）二着荻原（鐵）三着田尻（公）四着木脇（公）
▲砲丸投　十一米五十九　一等竹村（四）二等鈴木（開）三等牛澤（四）四等白鳥（鐵）
▲走巾跳　六米三十五（新記錄）一等米津（開）二等小崎（四）三等洪（開）四等柴田（鐵）
▲千五百米　四分二十八秒五分一（新記錄）一着保井（四）二着佐藤（開）三着布施（開）四着田中（公）
▲三段跳　十二米九一（新記錄）一等洪（開）二等金田（鐵）三等長谷（鐵）四着立川（公）
▲四百米　五五秒五分三（新記錄）一着安中（開）二着信田（公）三着沼（四）四等山上（開）
▲走高跳　一米六三（新記錄）一等山上（開）二等沼（四）柴田金田（鐵）三人同點
▲圓盤投　三十米八七（新記錄）一等米津（開）二等櫻井（開）三等木脇（公）四等室（鐵）
▲二百米　二三分五（新記錄）一着米津（開）二着木村（鐵）三着濱崎（開）四着松井（四）
▲槍投　五〇米三二（新記錄）一等福田（鐵）二等尾上（四）三等山下（公）四等室（鐵）
▲五千米　一八分一二秒　一着齋藤（開）二着安中（開）三着田中（公）四着李（鐵）
▲八百米繼走　一分三八秒五分三　一着鐵嶺、二着開原、三着四平街、四着公主嶺

午後四時全競技を終り、開原軍滿場の拍手を浴びて再び優勝旗を得會場の中央欄頭高く海老茶の代表旗を翻狂せしめ賞品の授與西尾副會長閉會の辭を述べ主將の握手、鐵嶺、開原、四、公競技大會の萬歲を三唱して散會した

洪水被害 通江口附近 慘狀甚だし

鐵嶺附近遼河の增水は著るしいが奧地は一層甚だしく河岸一帶に汎濫して被害甚大の模樣あり、殊に通江口附近は去る十四日の豪雨で河水變流し支那家屋百八十餘戶は浸水のために倒潰し老幼三名は其の下敷となつて無殘の慘死を遂げ流失家屋もあり、附近の畑は一面の泥海と化して大豆畑三十天地、高粱畑六十天地は恢復の見込みなく全滅の有樣であると

普蘭店

全普軍惜敗す 對大連中央試驗所軍庭球戰

十七日午前十時より大連中央試驗所球場に全普蘭店庭球對抗試合を開催各選手必死の奮鬪凄じく手に汗握る熱戰續出に數百の觀衆を熱狂せしめたが、普軍の奮戰功を奏せず大連軍川久保、岡組の當り物凄く結局左記スコアーにて普軍惜敗す

（片岡田中）四―二（古田町田）
（岡津田）一―四（石森山路）
（吉野栗山）一―四（百田中川）
（岡川久保）四―〇（古田久保）
（佐下重）三―四（梅本川端）
（松尾池田）二―四（孫高橋）
（富岡藤丸）四―〇（林鈴木）
（園部橫地）〇―四（布川一尺八寸）
（河井岩間）一―四（小川西出）
（出中片岡）一―四（山路石森）
（岡川久保）四―一（百川中田）
（富浦藤丸）四―〇（梅本川端）
（岡川久保）四―二（孫高橋）
（富浦藤丸）三―四（布川一尺八寸）
（岡川久保）四―三（西出小川）
（岡川久保）四―一（山路石森）
（岡川久保）四―二（布川一尺八寸）

金州

響水寺から勝水寺へ 惡道路を改修 民政支署調査に着手

大和尚山麓の名刹響水寺から勝水寺への道路は石塊と黏土の惡道路で馬車道としても交通に不便を感じ、殊に年々增加する大和尚山登山者からも道路改修方を民政支署當局に要求してゐたが、過日太田關東長官が來金の際も此の惡道路を視察し平井總務係長に改修豫算等を訊ねた事もあり、民政支署當局でも乘氣となり實地測量の上近々改修方を稟請する筈であるが、改修の運びとなれば響水寺から大和尚山に至る近路となり一層多數の巡遊者も出來る譯で一般から頗る期待されて居る

民政支署で「金州要覽」 目下編纂中

金州民政署では年々增加する內地及び沿線よりの視察者に管內の名所舊蹟及び產業一般を知らしめる便宜を計るため「金州要覽」を作成すべく目下平井課長の手で調査中で、右要覽中には金州管內の人口、產業統計を始め大和山、響水寺、勝水寺等の名所及び日露役當時我第二軍五千の將士が護國の鬼と化した南山戰跡等を詳細に紹介した寫眞入り約百五、六十頁の小冊子を作る豫定であると

四平街

好投猛打相亞き 新義軍を一蹴す 五A―一で全四軍快勝

强豪安東滿俱と共に久しく國境に覇を唱ふる新義州軍對全四平街軍の野球試合は、十六日午後四時半より熊本（球）高田（壘）二氏審判の下に新義州先攻にて開始された、バッテリー新義州中川、三好、四平街越前屋、島田、藤原投手を缺く全四軍は老巧越前屋をプレートに新進森坂を一壘に送つたが越前屋頗る好調、僅に七回裏に一點を與へたるのみ、秋吉以下各ナインも各回毎に猛打を浴びせ遂に五A―一にて快勝し、午後六時十分閉戰した經過及びメンバー次の如し

▲一回　新義州無得、四秋吉四球に出で一死後田原の安打に三進二死後島田の左前安打に生還一點先取
▲二回　兩軍無得
▲三回　新今西安打に出でしも後續かず、四一死後秋吉二壘打に出で北村の二壘打に生還亦一點を增す
▲四回　兩軍無得
▲五回　新三者凡退、四高野投前一失に活き、越前屋の二壘打に還り、秋吉の中越三壘打に越前屋生還、二死後大井の單打に秋吉得點此回三點を得
▲六回　新三者凡退、四森坂の四球高野の安打ありしも得點に至らず
▲七回　新三好二壘背後のテキサスに一壘を得小口の單打と中川の左飛に生還一點を返す、四北村の安打ありしのみ
▲八回　新二死後今西安打に出でしも小野投前、四三者凡退
▲九回　新二死後中川四球に出でしも落石の二飛に萬事休す

新義州　[illegible]　８６２９１５３７４
四平街　[illegible]　７４６８２９３５１

大石橋

小學兒童も交つて プールの水泳大會 廿一日午後三時から

滿鐵運動會大石橋支部主催の下に來る二十一日本年度水泳大會を左記に依り開催する事となつた、多數選手の出場を歡迎すると

▲日時　八月廿一日午後三時より
▲場所　水泳プール
▲競技種目　五〇米自由型、一〇〇米クロール、五〇米ブレスト、二〇〇米リレー、五〇米バック、潛行、一〇〇米ブレスト、二〇〇米ブレスト

外小學生徒の競泳もある

太平山附近で 匪賊と交戰

十七日午後一時太平山驛附近に數十名より成る馬賊團襲來し太平驛の公安隊と激戰中との急報に接した大石橋警察署は直ちに非常召集を行ひ大津署長始め武裝し總員二十二名太平山驛に急行せるが、匪賊との交戰地は驛を距る西方五支里にして鐵道線路手に取る如く聞え相當激戰の模樣なるも附屬地內に彈丸飛來の恐れも無きため午後四時まで監視警戒せるが匪賊は西方に退却せりとの報に午後五時歸署した、支那側の報告に依れば公安隊は三名の負傷者と一名の即死者を出し馬賊側の損害は未詳なりと、附屬地外の馬賊跋扈は近年其の比を見ず支那公安隊は奔命に疲れてゐる

軍服を强請 聖水寺に匪賊團

去る十四日夜大石橋の東方約里一[illegible]の聖水寺に數十名より成る馬賊來り村長に軍服五十着を要求し居たりしが急報に接して蓋平縣より百餘名の巡警馬隊が驅け付けたゝめ東方に逃走したが、巡警等は其の手當り次第の徵發に村民等は沒[illegible]とこぼしてゐる

熊岳城

大弓大會 三十一日遼陽にて擧行

熊岳城弓道部では來る卅一日午前九時より大弓場において昭和五年度大弓大會を催す事となり、滿鐵本社より石原範士來熊、矢渡式、競射、賞射等例年の通り盛大に行はるゝ筈で支部員一同目下每夜練習中である

竹村主任歸省

當地々方事務所主任竹村虎之助氏は母堂危篤の報に接し十六日廿二時十五分發列車にて陸路郷里高知に向つた

撫順工實の家族會

撫順工業實習所の家族會は十七日の日曜を卜し一同午前中熊岳城溫泉にて催され砂風呂に浴し清遊會を催し午後馬車自動車を列ね農園巡覽を行つた

長春

支那側の模範監獄 商埠地六馬路に 九月から着工

國民政府では治外法權撤廢の前提として全國各司法機關に對し凡ゆる施設の改善方を命令しつゝあるが、吉林高等法院では長春地方法院附屬の第二模範監獄の新築を計畫し既に本月十日吉林に工事入札を終へ請負人の決定を見たが、建築地點は長春商埠六馬路の滿俱寺附近、請負人は哈爾賓の瑞興人弘安洋行に落札したと、而して工事は來る九月起工明年十月竣工の豫定で建築費は高等法院で徵收の罰金を以て充當すると

軟球庭球大會 滿俱球場で擧行

來る二十四日滿俱コートにおいて長春軟球庭球大會が擧行される事となつたと

兒童水泳大會盛況

長春西公園內のプールにおける兒童水泳大會は既報の如く十六日午前十時から開催されたが非常な盛會で午後一時頃終了した

白陽會展覽會

長春洋畫會白陽會の展覽會が十六日から三日間圖書館で行はれてゐる

吉林

石射總領事 十七日發歸朝

吉林總領事石射猪太郎氏は外務省よりの召電に依りて十七日午前八時五分發列車にて當地出發上京し約二週間にして歸滿の豫定

林大佐招宴

八月一日の陸軍異動にて榮進の東北邊防軍副司令長官公署顧問林大佐は十六日午後五時（支那時間）より支那側文武官二十四名と日本側の主なる者四五名を城內支那側俱樂部に招待し進級自祝の宴を張つた因に第二回は近く佐官級の者を招待する筈

營口

料理代と花代 一割値下申請

營口料理屋組合にては諸物價下落の折柄時勢に適應すべく料理及び花代を約一割値下することゝなりその筋に認可申請中である

錦州地方水害 營口から物資供給

錦州地方出水のため同地居住民は三十二戶中三分の二は罹災し內九戶は全滅の悲運に逢つたので、荒川領事、關本所長、加賀商議會頭、松本議長、古川醫院長、小川滿新社長等發起となり物資を寄贈することゝなつた

岳風氏吟唱會

東京琵琶振興會は木村岳風氏を滿洲へ派遣し滿鐵勞務課後援の下に沿線各地において邦人慰問演奏會を開催中であるが營口では十六日夜滿鐵俱樂部において開催盛會であつた

開原

岩田大隊長 けふ着任

當地守備步兵第三大隊長に補せられた步兵中佐岩田文男氏は十九日十三時八分着急行にて着任する由

複線運轉を開始 ……きのふから開原金溝子間

滿鐵本線開原、金溝子間の複線工事は去る四月十五日頃より着工したが爾來順調に進捗し此程敷設を終り試運轉の結果良好であつたので、愈々十八日下り第七列車、上り第十二列車より複線運轉を開始した、因に同工事の竣工期間は來る十月三十日までであると

草刈社會主事 公主嶺へ榮轉

開原地方事務所草刈社會主事は今回公主嶺地方事務所庶務係長兼社會主事に榮轉し後任は本社地方部庶務課桂五郎氏に決定したと

中川特務曹長 鐵嶺に轉任

開原守備隊附中川特務曹長は今回第五大隊鐵嶺中隊附に轉任、後任は虎石臺守備隊松本曹長が特務曹長に昇進赴任

瓦房店

大運動會 來月七日 小學校で擧行

恒例の滿鐵沿線上大運動會擧行の件は去る十四日各關係者協議の結果愈々來る九月七日小學校運動場において擧行する事となつた役員左の如し
▲委員長兼庶務係長小野寺清雄 ▲設備係長四本兼雄 ▲競技係長石井忠一 ▲審判係長福田又司 ▲接持係長兼救護係長小野村木吉

岩田大隊長 廿五日初巡視

新任大石橋第三大隊長岩田中佐は初度巡視として來る二十五日九時五十分來瓦し守備隊及び各方面挨拶の上十三時二十六分發列車にて歸石する由

安東

市民運動會 中止 地委、區長會議で決定

安東市民大運動會に對する地方委員、區長會議は十六日午後一時から地方事務所會議室において開催したが滿場一致を以て本年は市民大運動會を開かぬ事に決定し滿鐵のみにて行ふ事となつた

三千圓を着服

新義州府內麻田洞金義烈（四）は大正十二年陰曆十一月頃同じ麻田洞に住む製紙會社職工金相祚（三）の實母金永煥が所有田地を賣拂ひ現金三千圓を所持し居るを知り家屋を買入て經營すると儲かると甘言を以て出資金として件の三千圓を受取つて家屋の買入れもなさず現金の返濟もせず最近では銀相場に失敗し、金は全部注ぎ込んだから一文もないとシラを切つてゐるので、金永煥は遂に實子金相祚より新義州署に告訴を提起した同署では金義烈を嚴重取調中

不景氣物語（九）

道の船場問屋街も沈衰

▼…「大阪の船場」で知られた大きな問屋街が三つある、本町の呉服問屋、道修町の藥問屋、雜喉場の魚問屋がそれだ、中でも本町問屋さんは上品で金があるので全國的に有名である、それが此の頃の寂れ樣と來たら實にひどい、どの店でも喰込んで居ない所は殆どなく、今ではもう手持商品をなるべく少なくして喰込量を最少限度に止めようとして努力してゐる「儲かりまつか」と云ふ言葉は大阪商人の常套語であつたが、今頃そんな事を云ふと笑はれる、一ケ月もたてば、來年は、と擬りない望みを繰りに喰延ばし策をとつてゐるのが本町筋である。

▼…それでも資力の豐富な大問屋や、潜行的に飛び廻るものはどうやら辻褄を合はせてゐるやうだが普通に普通りにやつてゐた分ではもう賑がない、金融梗塞でバタバタ倒れつゝある、擔保流れで銀行に大事な店を明渡したものだけでも野村利兵衞さんが不動貯蓄へ小杉佐平さんが愛知銀行へ、等々五指に止まらない、近頃本町通りに看板をあげた銀行の出店は之等擔保流れと見れば間違ひない所である、本町の問屋さんと云つても漠然としてゐる、洋反物、綿糸布羅紗呉服と分けて見よう。

▼…洋反物問屋は比較的いゝ方である、モスリン問屋は生産會社を牛耳つて操短や共同販賣で市價を釣上げさせてはシコタマ儲けたものだつた、然しモスリンが次第に消費者の欲望から遠ざかりつゝある今日ではもう駄目だ、合毛、洋モス等の生産會社は一足先にクタバつてしまつた、此の不況裡にあつてまだ儲かつて行くのは人絹交織物である、安價で見榮えのするのが時代に適合したためであらう、然し何と云つても天下に鳴らした洋反物屋さんだけあつて今でも山口玄洞、伊藤萬、田村駒、丸紅等の土藏石はビクともゆるがぬさうだ。

▼…綿糸布問屋は何しろ相手が紡績屋と機屋と來てゐる、我利々々亡者の間に挾まつて紡績屋から高く買ひ奪り、機屋へ安く賣り奪つて汗みどろに働いて損をしたのだから馬鹿げてゐる、折角戰時好況時代に貯め込んだ儲けを此の半年程にすつかりすつてしまつた、まるで線香花火のやうなはかない夢である。

▼…羅紗商は初めから損はない、あれだけ需要が多いのに何故惡いかと云ふに、最後の消費者たる少額サラリーメンが洋服代を踏み倒すところへ、國產愛用で紡米屋さんは上つたり、それに洋服屋は羅紗代を踏み倒すと來るのだから堪らない、長年の不完全なる商取引は此の事實を如何する事も出來ない。

▼…呉服屋だけは何の變哲もない損の行く所は柄のいゝものを高く賣りつけて埋合せてやつてゐる、大きな損はしないが、慢性的に次第に細りを續けてゐる、問屋さん達は何處へ行く？勞農ロシヤでは生產者より直接消費者へをモツトーに仲介業者を全然排除して見たが結果は大失敗であつた、需給の圓滑を計るには仲介業者は絕對必要機關である事が明かにされた譯だ、だから本町の問屋さんもいくら不景氣とはいへまさか埋れて了ふ事もあるまいといふ極めて心强い（？）結論に到達するのである

▲新刊批評▲

▲闘爭記（ヘイウツドの手記）ボール・ケート、高津正道共譯）原著者（ヘイウツドは米國における最左翼運動の本流としてあらゆる彈壓の下で闘つてゐる有名なる國際I・W・W（世界產業勞働者組合）の首領として永年無產者のために戰ひつゞけた米國勞働界の巨人である、而して本著はヘイウツドがカウボーイ、ベルボーイ、果樹屋の小僧の幼年時代から、案內人、鑛夫等の奴隸的勞苦を經て初めて反逆兒として立ち上り一昨一九二八年遂にモスコーに於て客死するまでの自己の生活を自ら手記して米國共產黨機關紙デーリー・ウオーカーに連載した物である、本著の隨所で彼が其の妻に對する濃やかな愛情、インデアンに對する限りない愛着を知ることが出來るが、そこに彼の大きな人類愛の根底を窺ふことが出來はしなからうか、本書を「不景氣と失業」「知事と軍隊」「暴れる資本家」「追放？死刑？」「I・W・W」等十一章に分つてゐるが、幾度か生死の境を切り抜けて來たヘイウツドの面影を充分に知る事が出來る（四六版五百十六頁定價一圓五十錢東京神田表神保町夫人社發行）

畜產工業界の貢獻者【二】

故向井君に關する追憶の數々

難波生

多くの意味において事業は人格の反影であり、人格は傳統と經驗との產物である、向井君の性行にもその一適例を擧げることが出來るが、君が滿洲で骨買ひを始めた動機には、更に數奇な一原因があつた、君の生地は香川縣木田郡庵治村字鎌野、牟禮半島の東北端にある片田舍だが、後に五劍山の峻嶺を負ひ、前に瀨戶內海の急潮を望み、北と東北とに稻本、高島の二島嶼をへだてゝ、遙かに小豆島と相對して居る、祖先は足利時代の落武者らしく「いづれは海賊衆の船乘りだつたのだらう」と、君は生前よく笑ひながら冗談をいつた

海のほかには交通の最も不便な土地柄で、五十戶許りの住民の大部は、封建當時から重に北國通ひの帆船に乘組み、向井家は代々その元締であつたといふ、君の祖父孫左衞門翁は一廉の漢學者で賴山陽、柴野栗山などゝの交遊深く、一たび鎌野を訪問すると、數ケ月間逗留して行くのが常であつた、それ程不便なそれほど呑氣な桃源鄉であるが

君は先代孫兵衞翁の末子と生れ十六七歲のころ軍人を志して上京し、重野成齋翁の私塾に寄宿したが、當時の塾頭は西村天囚君、その感化は向井君の全生涯を少からず色附けて居たやうだ斯くて二回成城學校の入學試驗を受けたが、二回とも不合格で方針を一變し、乙種船長の免狀を得て朝鮮通ひの船乘を始めた青年時代の客氣に任せて、君に適はしい面白い逸話をのこしたが、畜產工業の將來に着眼するに至つたのは、その頃仁川、群山方面から屢々鹿兒島行きの牛骨を託送された經驗からである

朝鮮通ひを止めたゝめ、暫く高松市で軍隊の御用商を營んだが、之がまた日露戰役の發生と共に、君に渡滿の志を起させる機緣となつた曾て第十一師團長だつた乃木將軍に懇請して人夫長となつたが、大連に上陸したのは明治三十七年五月、爾來或は旅順攻圍軍に、或は混成旅團に隨行して後方勤務に服したが、奉天會戰後依願解職されて居を遼陽に定め、後家大街に雜貨店向井洋行を開業した、夙に牛骨の利益を認めて居た君は、間もなく營口所在の三井物產支店と交涉して、五百萬斤買出しの契約を結び、人を入方に派遣して買出しに取掛かつたが、その頃の滿洲ではまだ獸骨の利用法を知らず、專ら燃料代りの燃料とされて居た、それだけ却つて疑惑の眼を以て迎へられ、一般人に理解されるまでの苦勞は少なくなかつた

併し價格の低廉なことは驚く許り、今や百斤二圓內外の相場だが、當時は僅かに一錢、それを銀五十錢で三井へ渡したのだからボロイい話だ、瞬くうちに六萬圓許りの利益を得て鄉里へ送金したが、その後同業者の數は殖へ、世は戰後の不況時代となつて、利鞘は少なく荷物も停滯勝ちであつた、併し行詰りは君に轉換策を案出させ、印度骨粉の見本を取寄せて加工業を思ひ立たせたが、大連米國領事館を通じて、クラッシャア一臺を輸入し、更に豚毛を買集めて倫敦との直取引を企てたりしたが明治四十一年火災の厄に遭ひ、僅かに持出した碎骨機を携へて大連に工場を移轉した、唯夫れ工場とは名のみで苦力小屋同樣、滿鐵から好意的に拂下げられた古鐵板を材料としたに過ぎぬ

殊に當時の向陽臺は不便極まる市外の荒蕪地で、用水の缺乏した運搬に困難な區域であつたが、君は其處で勞作と研究とを續け、豚毛頭を毟りつゝ一週間位徹夜する事も稀でなかつた、最も苦しかつたのは明治四十二年のペスト流行時代で、鐵道からは牛骨の輸送を斷られ、吉林で集めた原料を、同地の水災と大火で失くするなど工業家としての深刻な受難期であつた、併し艱難は益々君の決心を固め、製造法に就いての進取的氣分を旺ならしめた、その缺乏と戰ひ、借金と戰ひ、世間の冷評と戰ひつゝ、忍苦努力した當時の奮闘振りは、眞に儒夫をして起たしむる概があつた。

人の時

横顔を描く（五）

バロン・シデハラの屋敷

幣原さんは昔から大臣になつても官邸住ひはやらない、震災後から今日に至るまで、ズーツと駒込の家に住んでゐる、だが、これは幣原さんの家ではない。岩崎彌太郎男の別邸である。幣原さんは彌太郎氏の二女雅子夫人のお婿さんであるからだ。

何萬坪といふ廣大な屋敷の門口に立つと、見えるのは森のやうに鬱蒼い樹ばかり、その奥の方にポツチリと――といつても相當に廣いのだが――家が立つてゐる。蟬時雨のやうな邸內、見るからに涼しさうな木蔭

◇―――◇

この屋敷については面白い話がある。かつて某英國大使が、電話をかけて「バロン・シデハラは在宅かどうか」を聞いた。電話にかゝつた女中は「ゐらつしやることは確かにゐらつしやいますが、何處においでになるか一寸分りかねますから探した上で御返事申し上げます」と答へた。すると英國大使は「自分の家に居ながら、居るところが判らないなんて、そんなベラボーなことがあるか、人を馬鹿にするにも程がある」とカンカンになつた。

後で外相は「先程は大變失禮したが、御承知のやうに私の家は、ちよつとばかり廣いもんですから、庭でも散歩してゐる時は、一寸何處へ行つてゐるか分りかねることがあるのです、どうぞ惡しからず」と謝つたといふことだが、しかし屋敷は廣くても、幣原さん自身は金持ではないから、この屋敷には自分ではあまり金をかけてゐない。

だから、屋敷へ入つて見ても外交官の住居、といつたやうな華やかさはまるでない。

◇―――◇

「バロン・シデハラ」は外國ではとても有名だ。或人の話によると、若槻內閣の外務大臣をやつてゐた時でも、英國あたりでは、總理大臣の若槻氏よりも、外相「バロン・シデハラ」の方が有名だつたさうだ。

との有名な「バロン・シデハラ」は典型的な大事務官である。面白い顔の白皙をキチンと揃て汚點の一つ付いてない白靴を穿き大きな黒鞄を小脇に抱へ（鞄を自分でもつて歩くのは歷代大臣中珍しい平民ぶりである）そしてステツキを握つた姿は、いかにも「バロン」らしく、また事務家らしい。

彼は急がしい時などは一々ベルで大臣や局長を呼びつけたりなんかしない。自分でドンドン出かけて行つて、サツサと仕事を片づける。殊に公文書などは自分でドシドシ書き上げてしまふ。

實際また、彼の公文書は有名なものだ「バロン・シデハラは世界一の公文書書きである」と、かつてロンドン・タイムスで折紙をつけられた程である。

◇―――◇

外國語が巧いばかりでなく「バロン・シデハラ」は日本字も達者だ。

大分前の話だが、貴族院の藤村義朗男が外相に揮毫を求めたことがある。幣原さんが斷ると藤村男からは

「いや、永年外國生活をなさつたのだからペンで結構です」

といふ再三の賴み、ところで「では……」といふので墨をすり「萬古清風」の四字を一筆にいとも美事に書き上げた。これには「ペンでも」といつた藤村男もアツと驚いたとある。

◇―――◇

「バロン・シデハラ」を世界的に有名にさせたのは、いふまでもなく「對支外交」である。

ところが、噂のわるい支那は、夏になると、決つて動亂だ。今年も例によつて南北戰爭から、共產黨の蜂起まで加はつてゐる。で我が「バロン・シデハラ」も、この暑いのに、あの廣い屋敷から毎日外務省に登廳してゐる。あの肥滿つた體軀が、いかにも忙しさうだ。

きまつて夏になると忙しくなるのは、いくら「對支外交」の主でも、あまり有り難くないらしい。

（東京支社一記者）

探偵小說 女妖（171）

江戶川亂步作 橫溝正史 伊藤幾久造畫

剝がれた假面（五）

千家篤麿が逃げこんだ壁といふのは、厚い羽目板ががんどう返しになつてゐると見えて、それを開く方法を知つてゐるものには、何の雜作もないのだが、それを知らぬ者は打破るより他に方法がない。

然し、今では豫じめ知らせて置いた警察並に警視廳の役人どもが、どやどやとやつて來てゐたので、それはさう大して難しい仕事ではなかつた。

二三人の力で間もなくぽつかりと暗い穴が開く。見れば其處も矢張り拔道の隧道になつてゐるのだ

「さア、その中に入つたのは袋の中の鼠も同然ですわ。この拔道には、この家か、向ふの家の二つしか出口がないのです。かうして兩方とも嚴重に張番をしてゐる以上もう充分大丈夫ですわ。今度こそ逃がしつこありませんよ」

壁が打破られたのを見ると、瀧子は振返つてさう言つた。然し、その言葉に從つて、自分からその拔道へ入つて行かふといふものは一人もゐない。皆さつきのあの千家篤麿の物凄い形相を思ひ浮べた最早、自暴自棄になつてゐるらしい相手は、何をしだすかしれたものではない。あの銀色のピストルを振廻して、いつ何時暗闇から躍り出して來るか知れないのだ。

誰も自分から進んで行かうとする者のないのを見ると、瀧子はじれつたさうに、

「おや、皆さん臆病風に吹かれたと見えますね、ぢや、あたしが先に行きませう。勇氣のある方はついて來て下さいよ」

とさう言ふと、自分から先に入つて行かうとする。それを見ると花子は驚いたやうに、

「まア瀧子さま、危なうございますわ。あの男は氣が狂つてゐるのです。どんな事をするか知れたものではありませんわ」

「いゝえ。なに、大丈夫ですわ。花子さん、あなた此處に殘つて、子爵の介抱をして上げて下さい。今度こそあの男を逃してはならないのです。今度逃すと、もう二度とあの男を捕へる事は出來ないかも知れないのですよ」

瀧子は健氣にもさう言ひ捨てるとつかつかと暗い拔け道の中へ入つて行つた。如何に臆病風に誘はれてゐるとは言へ、これをそのまゝ捨て置くわけには行かない。牛松と刈谷警部が直ぐその後に續いたのを始めとして、二三の刑事がその後から入つて行つた。後には花子と子爵と……それにいつ何時千家篤麿が逃げて歸つて來るかも知れぬといふので、二人の刑事が居殘つた。

瀧子を初め五人の男は靜かに要心深い足取で、暗い拔道の中を進んで行く。皆油斷なく、いつ相手が飛び出して來てもいいやうに身構へてゐた。

愈々大詰の場面が迫つて來たのだ。瀧子は何となくそんな事を感じた。切迫した感情が彼女の胸に迫つて、心臟が早鐘のやうに鳴りひびく。

由良子から聞いたあの恐ろしい破滅、今それを眼前に解かうとしてゐるのだ事實か否か、――彼女はまだ半信半疑だ。けれど、もう直ぐにそれも分る事だ。

拔道は曲りくねつて長々と續いてゐる。闇の中を手をつないだ一同は、喘ぎながら進んで行くのだと、その時、向ふの方から、よろよろと定まらぬ足どりで、此處へ近づいて來る跫音が聞えた。それと同時に、激しい苦痛の息使ひが聞えてくる。

誰か――負傷した人間が此方へ向つてやつて來るのだ。

一同は思はず息を呑み込んだ。

聚落場めぐり
山霧の中に煙る　林間聚落學舍
溪流が峽谷に快よくひゞく

金州は驟雨の裡に煙つて居た。山口書院長に別れて馬車を大和尚山麓に駛らせる、響水寺までは二里の道だといふ。

金子窩道路は大島都督が植林させた楊柳が二十年の歳月に樹幹よく肥えて垂れ下つた緑枝一ぱいに初秋の風を孕んですが／＼しい。

▽……△

馬車に金子窩道路を右に折れて大和尚山の裾が迫つた山峽の道を文字通り蝸牛と進む、ひどい石塊道だ、大和尚山が州内一の名山で響水寺が南滿における屈指の名刹で、山口書院長のお自慢になる程の屈指の名所なんだから、せめて馬車で一時間餘揺られる道路位は何んとかもう少し道らしいものにして欲しいと思つた、お尻の痛む所爲でコンな怨めしいことを考へる

▽……△

雨に煙つて大和尚山は見えない登るにつれて斷崖に添ふ山峽の道に、サラ／＼と流れ落ちる水流が快よく響く「オーイ」誰かの呼聲だ、斷崖一杯に緑を落した櫟、楊柳の茂みの中からポッカリ紅と黒との對色を鮮かに浮せて寺の伽藍が嚴く、雨は霽たらしい。

左手に深いダムをたゝえた清流を見て車を捨てる、響水寺と溪谷一つを隔てゝ林間聚落學舍だ。

▽……△

—驛から電話がありましてネ待つてゐたところです、聚落學舍は明日で終りです、いゝ時でしたヨ。

金州小學校の村上先生だ、村上さんは州内から來る聚落兒童の地元の總元締と云ふ役で泊り込みで來てゐるんださうな。

現在來てゐる生徒が一番殿軍で大連常盤小學校の兒童です、監督の先生が二人に兒童が十八人それに衛生婦が一人聚落開始以來ズッと詰めてゐます。

▽……△

深い樹林を背負つて、前方に響水寺を望む聚落學舍は明るくて閑寂だ、溪谷を中に山二つが尾根を重複する後に聳え立つのが大和尚だ、雨後の山霧が白くたゆたつて山巓はすつかり蔭つてゐる。

—樹木が多くてコンナに谷が深いので、霧は隨分深いのです、大和尚山はいつも霧の中にボンヤリ浮んで淡彩な墨繪の樣です、私は兒童のお伴で今年でもう十數年登りましたよ。

【寫眞は林間學舍】

黴の生えた壁の手入れ(二)
滿洲塗工研究會幹事　藤田揚一氏談

黴の除去は黴の種類によつて其の方法が違ひます、普通の黴は乾燥するのを待ち新しい乾いた紙ブラシか何かで何回にも拂ひ取りにし

▽▽壁の△△　表面に浮いた黴を完全に取り去つてからフノリ一匁に水一合五勺の割合でこしらへたネバリ氣のうすい糊を障子刷毛のやうなもので一樣に塗ります、勿論これは間に合せの手入れですがこうして置くのと其のまゝにして置くのとでは黴の生命によほど影響して來るのです、次にソーライトだとかピースなどのやうな水性ペイント塗りの壁はどうするかといふと、これも

▽▽普通△△　の壁の場合と同じやうに黴を刷毛で拂ひ取りにし然る後カゼイン一匁に水一合の割合でこしらへた糊を一樣に薄く塗つて置きます、砂壁の場合は黴を前と同樣の方法で除去するのですがフノリを塗る場合にはノリを布にしめして壁を輕く叩くやうにします、油性ペイント塗りの壁も下から黴が出ることがありますが、この場合は濡れた布で

▽▽黴を△△　拭き取つた後乾いた布で拭き上げ其の上に亞麻仁油七テレメン三の割合で調合した液に布を浸し一回乃至一日間を置いて二回ほど塗つて置けばペンキがよく固まります(完)

ローマ字は日本語に適せず(五)
ヨシタケ・タケシ

◇

その國の言語の普及はその國の勢力の如何によるものである。現今支那ドイツ、チェーコスロバキア國の一部では日本語の研究が盛になり初めたが、日本語が日本式ローマ字で書かれたからではないのである。歐米國と文字の同じである事が何の役に立つのだらう？言語も發音も文字も似てゐると云つてもいゝが支那語の場合で考へて見ると、こゝに張華樓なる家を支那人に尋ねた場合タイホワロウと答へられたらタイカローと發音が似てゐてわかりさうなものだが、わからない、その家まで案内されるか文字でも書いて教へられねばわからない。この時もう支那語を知つておればすぐわかるのだが。ローマ字書きにした場合は文字が共通でも Taihualoo, Taikaro; と發音と語根が違つてゐる。

◇

世界のローマ字國を相手にする現代にはどうしてもローマ字が必要であるから世界的のローマ字を採用しなければならぬと云ふローマ字論者の心は何んと小さな心であることよ現在人として常識としてでもローマ字は知つておかねばならぬが、ローマ字の四十二三字位は習ひ覺えるのに苦勞はないから覺へればいゝ。

今迄日本語が廣まらなかつたのは漢字のためである、同一の漢字に幾通りもの讀方があり同一發音に幾通りもの書き方があつた、要するに漢字の弊害があつたためである、共通文字の漢字を使う支那人でも日本語はカナで書いてゐる日本語を話せる歐米人が日本語を書けないのは漢字があるためでカナ許りで書いたら自由に表現出來る。漢字があつて日本語が廣まりにくいから世界的のローマ字にせねばならぬとのローマ字論者の考へは餘りに輕はずみではなからうか、今一度ローマ字カナモジのいづれが日本語を廣めるにたやすいかを考へて欲しい。

◇

前述の如くあらゆる方面から見てローマ字は日本語を表はすに適しない。又外國人にしてもローマ字で日本語を讀む場合自國のナマリがローマ字であると出やすい。日本語であると云ふ氣持になるには違つた文字の方が却つて良い。そして日本語は習ひ易い事になるそれもカナが習ふに困難な文字ならともかく一ケ月もあれば自由に使へる位にはなれる。

◇

又十分日本語は知つてゐるが、ローマ字のタイプライターしか持つてゐないとか、外國の觀光團に一寸日本語を知つて欲しい場合は勿論ローマ字で結構です。カンバンのカナが讀みたければ名刺の裏に五十音圖と拗音撥音の規則位書いて置いたら讀めるだらう。

◇

以上は大體ローマ字の缺點をあげたまでカナとローマ字の比較にはなつてゐないが後日それに就いて詳細に述べようと思ふ。蝸牛角上に相爭つてゐるローマ字論者に一苦言を呈してカタツムリをゆすぶつて見たまでである(完)

ママ採集の旅(5)
大連一中採集隊

北陵附近の植物採集

八月十三日

午前五時起床、撫順の化石採集隊と、北陵の植物採集隊とに分ち各々其の目的に向つて行動を開始した。乃ち、撫順隊は六時三十分奉天を發し、北陵隊は同七時徒歩で北行、雨上りの郊外は思ひの外に氣分よく、水澤にマコモの茂つてゐる光景は全く他には容易に見られぬ珍しいものであつた、北陵の入口附近に行くと、道の兩側には濕地がいくつも連なり、水の深く溜つたところには、ミヅアフヒ、アサザ等が紫に黄に水面を飾つて其の優美さはたとへやうもない

水中には、キンギョモ、フサモ、タロモなどが入り亂れて繁殖してゐた

更に松の古木の間に入ると、まるでお花畠を見るやうにシャジクサウ、タウマツムシサウ、ワレモカウ、シロバナワレモカウ、ヘナスゲ、ノコギリサウ等が其の美を競ひ、麗を誇つてゐる、水田のほとりにはヤナギ、エゾノウハミヅサクラ、エゾノコリンゴ等叢林をなし、腐朽した樹皮には茸の珍しいものが二三あり、我々は大喜びで採集した

張氏の別莊附近の水澤からは、サンセウモ及滿洲唯一の食蟲植物たるタヌキモを採集した

せめて陵廟内迄と思つたが中々警戒が嚴重で寄りつけない、一回小便すれば、たちどころに五圓の罰金を出せられるといふので、恨みを呑んで引かへした

水田のほとりで、イボクサ、ホソバオモダカ、ヒルムシロ、コバノヒルムシロを採集、道々マンシウヒンジモなどを可愛がりつゝ、午後二時歸途につき、教育専門學校を見學したり、自由に散歩したりした。

撫順隊は、松柏科又は關葉樹等第三紀植物の化石、肩の痛むほども掘りして、午後五時二十分意氣揚々歸著、風呂を浴びて、夕食を濟ませ、元氣を再び恢復して、新聞を見たり、雜誌を讀んだりする

午後九時半、學校に暇をつげて御土産をドッサリ肩に負ひ、同十時四十分大連行の急行に間に合はすべく驛へ急いだ。(寫眞は採集隊の一行)—終り—

旅大道路突破　夜行記(二)
大連二中五年　近藤重克

間もなく、思ひ出深い營舍の前迄來た。僕等はかつて世話になつた隊長や教官の名前を、聲高く叫んで過ぎた。

然々郊外である。又道の兩側は樹木と草、そして此度は虫の音が喧しい。

後の方で僕等四人に遮れた五年生の一團が歌を高唱して居る。中々の元氣だ。速度は中々減じない

重砲隊の前へ出た。門衛の兵士に敬意を表して通つた。

あたりは兩側のこんもりとした樹木でやゝ暗いが前方に眞直に、長く續く旅大道路は白く浮いて見える。

今や僕等四人は夜行軍一隊の最先頭になつた。勿論、レコード破を除いてゞある。

單調な道、兩側の景色を眺めて進む。歩調は變らぬ。道の傍らに立つた、白い石標、それには旅二粁と書いてあつた。此の石標が以後我々の意氣を如何に引き立てたことか

道はひどいカーブをした所に來た。やつとこのあたりから兩側の樹木は、影遠くなつて吾等の氣持ちは伸び／＼とした。不圖旅順の町を振り返つて見ると、點々とした燈火の中に赤い電燈が二つ際立つて見えた、表忠塔の電燈が闇の中に瞬いてゐる。

道の草原から虫の音が、心地よく聞えて來た。さつき僕が喧しいと云つた虫の音も、單調な此の行進をどれだけ慰めて呉れた事だらう。間もなく道の兩側に山が見えて來た。道もいやに曲りくねつて來た。

月光は明るい、虫の音は澄む。實に何とも云へぬ心地だ。バス等でドライブしたのでは到底此氣持は味はへない。

けふのラヂオ
支那語初等科
秩父固太郎

第十一課

(一)1 在。那兒　2 在這兒　3 在。那兒　4 在那。兒

(二)1 你在。那兒　2 我在這兒　3 他在。那兒　4 他在那。兒

(三)1 帽子在那兒　2 帽子在上頭　3 鞋在那兒　4 鞋在底下

(四)1 狗在那兒　2 狗在外頭　3 貓在那兒　4 貓在裏頭

(新字)在。上。頭。底。下。狗。外。貓。裏。

譯文

(一)1 何處に有るか(居るか)　2 此處に有る(居る)　3 何處に有るか(居るか)　4 そこ(あそこ)に有る(居る)

(二)1 貴方は何處に居ますか　2 私は此處に居ます　3 彼人は何處に居ますか　4 彼人はそこ(あそこ)居ます

(三)1 帽子は何處に有りますか　2 帽子は上に有ります　3 靴は何處に有りますか　4 靴は下に有ります

(四)1 犬は何處に居ますか　2 犬は外に居ます　3 猫は何處に居ますか　4 猫は内に居ます

新刊教育兒童書紹介

▲兒童二變態問題(越川直作著)大連春日小學校越川眞治氏が十數回に亘つて愛兒と家庭誌上に載せたものをまとめたものである、ヴイタミンについての各方面の研究が集録されてゐる(非賣)

▲螢雪八月號(十錢大連商業學校發行會)

祝創刊二十五周年並に社屋新築記念
扇家
大連磐城町
電話二一四七三 四二五一
新浜
大連浪速町
電話六四三九
つる家
大連春日町
電話七二三九 七二五四
蝶々
大連浪速町
電話七〇四九
三田尻楼
大連逢阪町 電話七九八三 四二五八
月の家
大連老虎灘 電話三四五九
快楽
大連逢阪町 電話四七四九 六四二二
一方亭
大連老虎灘 電話七五五二
南華園
大連
東茶寮電話四七九二
南茶寮電話四二三一
逢坂町遊廓組合
大連逢阪町電話四七四二

海の唄

仲木貞一 作　一不弾 画

「二七」

說題の美（四）

翌日、母親は朝から京子を急き立て、美容館へやらしたり、風呂屋への世話までした

「何を、そないに念入々々してるなはるのか……貴方かて、もう、えい年齢して、そないに飾るもんやおまへんえ」

今朝に限つて、この母と娘の日頃の性格が、まるで逆戻りする車輪のやうに反對に働きかけてゐた。

だが、然うして母親が急きたてれば、たてるほど彼女は落付けてきた。然し、今までのとから考へても、今日はどうしても兩親の命令によつて伴れて行かれることを思ふと、深淵に墜落された騎士のやうな惱みに擒虜にされずにゐられなかつた。そして、いろ〳〵と口實を考へてみた。だが、かうした彼女の考へも時間の追迫が益々に焦らしてゐた。

そのうちに、幸吉の家からは二度も使ひが來て、芝居の方は、もう座席がとつてあるから時間までには彼女を同道して欲しいと云ふことだつた。

か弱い女性の考へ方で、この苦痛を逃れることは最早家出するより外に途は失はれてゐた。然しこんな時和雄が京都にゐるならばと思ふと、次の瞬間、瞼の裏の熱くなるのを覺えた。そして、悲痛の瞬に待ちかまへてゐる諦めが、彼女を再び泥沼とそこに佇ませた。

「京さん！もう何時でもよろしうおまつせ、早う出やはらんか？」

だが、まだ京子は帶を締つたまゝ姿見の前で愚圖々々してゐた。

母親が後から帶をしめるのを手傳はうとすると、彼女は急にそれを擺ひ退けるのだつた。

その時、父親が京子の部屋の障子を細目にあけて覗んだ。そして時計をふり返りながら

「一時ちやの……」

と、云つた。

母親は懐鏡をとるやうに、今度は二三尺離れた後の方で、娘の後姿にみとれてゐるやうな恰好をしてゐる。仕方なく彼女は帶をしめ始めた。

いつか、約束の時間が三十分も過ぎた。京子は母親の後から渋々しく、フエルトを引きずりながら從いて行つた。

表通りへ出ると、どこからかジヤズが微かに彼女の耳許を騒がしく流れて行つた。彼女は急に——どうでもないだ——と云つた氣持ちが全身を襲はしてきた。

と、母親は一旋の芝居屋の店の入口から、ちよつと中を覗いた。

「御免やす……」

「あら、此方だつせ……京子さん！」

と、奧の方から幸吉の聲がした。

彼は例の薄い髪の毛を綺麗に梳き分けて、命親の素通しか何かを形のよくない鼻の上に光らせてゐた。

それでもなりだけは、流石に紬織御召か何んぞの爛んだ袷で派手な井繻絆の模様を、両方の袖口から出すぎるほどにいせてみた。

「おい、外套と帽子を取つてんか……」

と、彼は女中らしいのに向つて云ひ付けると、母親の方を向いて

「えらうおやつしとみえて、遲うおましたなア……先刻にから、出たり這入つたり……へヘヘ、出たり去つたり、ちう譯で待つてましたんえ」

「そりや、大きに……」

然う云つて母親は幾つも頭を下げた。

芝居屋の商標のはいつた半纏を着た小僧が一人、其處に幸吉の外套と帽子を持つて來ると、時間がおくれたといふので、そのまゝ三人は南座の方へと自動車を走らせた。

新刊紹介

△少女倶楽部（九月號）百科圖報「少女文藝畫帖」匂ひ高き白百合（水谷まさる）愛の使者（塚原健二郎）月笛日笛（吉川英治）花ならべの遊び方（大塚俊平）滑稽美談「双寶一萬理を飛ぶ」（中正夫）等その他附錄によつて附錄には「花ならべ競技盤」「名婦繪葉書」といふ美くしいのがある（定價五十錢東京本郷駒込坂下町大日本雄辯會講談社發行）

▲祈禱公論（八月號）定價三十錢東京麻布區六本木町共存社發行

▲共存（八月號）定價二十五錢東京豐多摩大久保百人町新日本協會發行

滿日俳壇 募集規定

次回課題「立秋」「濁酒」「萩の花」▲句數無制限▲用紙半紙、各題別紙▲各紙に雅號氏名記入の事▲締切八月二十五日▲封筒に「滿日俳句」と明記▲原稿送り先、東京市牛込區若町松八二島田青峰宛

阿波共同汽船

●威海衞、芝罘行（第十六共同丸）八月廿二日後七時 ●芝罘、仁川行（第廿六共同丸）八月廿日後七時 ●芝罘、威海衞、青島行（第卅六共同丸）八月廿六日後七時 ●鎮南浦行 長山丸 八月廿二日 ※鐵道より貨物運絡取扱致候 大連市山縣通二〇〇番地 阿波國共同汽船會社大連支店 電話六八九一・五〇〇一

高橋汽船大連出帆

●芝罘行 命令定期大連芝罘線 昭靜丸 八月廿日午後 ●安東行 命令定期大連龍口安東線 海壽丸 八月十九日午後 大連加賀町三〇 代理店 松浦汽船株式會社 電六一一七・三八五一番

島谷汽船大連出帆

●南鮮裏日本行 第二輝海丸 九月十日 ●北海道行（大成丸） 九月一日 寄港地 鎮南浦、仁川、群山、木浦、釜山、浦項、境、宮津、舞鶴、新舞鶴、敦賀、伏木、新潟、函館小樽、各等客室設備あり ●朝鮮裏日本北海道樺太行（長成丸）八月卅日 寄港地 鎮南浦、仁川、釜山、舞鶴、敦賀、伏木、新潟、船川、函館、小樽、大泊、各等船客設備あり 島谷汽船株式會社大連出張所 大連市山縣通一五三 代理店 大三商會 電話四七一一・三四二八

日本郵船出帆

●歐州行（りおん丸）八月廿一日 直航碇行 ……

近海郵船大連出帆

●神戶行 淡路丸 九月一日 ●同 玄武丸 九月七日 ●上海神戶大阪行 淡路丸 八月廿五日 ●天津行 玄武丸 八月廿六日 ●牛莊行 ……丸 九月六日 ●青島福州香港行 …… 八月廿日

朝鮮郵船大連出帆

●青島仁川行 會寧丸 八月廿五日 ●仁川、長崎、鹿兒島行 巴南丸 八月廿一日 ●朝鮮鐵道各主要驛及本社各寄港地貨物受證發行 右汽車汽船出帆日時は天候其他の關係に依り變更することも有之候 水路圖誌「海圖」販賣所 キユーナード汽船會社 船客業務代理店 浜海郵船株式會社大連代理店 朝鮮郵船株式會社大連代理店 日本郵船株式會社 大連出張所 大連市山縣通電話（三七三九・七八四六・六七一二）番

大連汽船出帆

●青島上海行（奉天丸 八月廿日午前十一時）（大連丸 八月廿三日午前十一時）（奉天丸 八月廿六日午前十一時） ●天津行（天潮丸 八月廿日）（濟通丸 八月廿三日）（天潮丸 八月廿六日） ●營口行 龍平丸 入渠中 ●名古屋行 永安丸 八月廿一日 ●香港廣東行 英順丸 八月廿三日 ●阪神行 大連汽船株式會社 電話番號代表四一八五番 取扱店 丸二商會 電話四二六四・五八八八 大連市監部通 永和公司 阪神航路專屬商港店（大連須磨町） 澤山兄弟商會 電話七二七五・七八六八 飛船切符發賣所（大連伊勢町） ジヤパン・ツーリスト・ビユーロー 電話五五五四・四七一三番

大阪商船出帆

●門司、神戶、大阪行（前十時出帆） 香港丸 八月十九日 ばいかる丸 八月廿二日 はるびん丸 八月廿五日 うらる丸 八月廿八日 ●上海福州基隆行 長沙丸 九月廿日 ●臺高雄行 福建丸 九月十九日 ●朝鮮經由長崎鹿兒島行 關東丸 九月一日 ●北米シヤトル、タコマ行（上海、神戶、四日市、横濱經由）ろんどん丸 八月廿三日 ●紐育行（神戶、四日市、横濱經由） 關東丸 十月四日 ●歐洲行（上海、香港、新嘉坡經由）船客御斷り あまぞん丸 八月卅一日 ●天津直航行 貴州丸 八月廿四日 ●横濱直行（河南丸）八月廿二日 佛租界碼頭繫留（武昌丸）八月卅一日 午後二時出帆（貴州丸）八月廿九日 （河南丸）九月七日 （武昌丸）九月五日 大阪商船株式會社大連支店 電話四一三七番

乘船切符發賣所 ジヤパン・ツーリスト・ビユーロー 大連伊勢町案內所（電五五五四） 同大山通出張所（電七〇三四） 沙河口案內所（電二三七六） 旅順案內所（電二五四八番） 奉天案內所（電一九一四） 長春案內所（電一三九三） 哈爾賓案內所（電四七八八） 乘船切符取次所 滿洲旅館協會 信濃町遼東ホテル內電七五七四番 專屬荷扱所大連山縣通 國際運輸株式會社大連支店 電話三一五一番 二ホ一上荷捌所（電話四八〇二番）の當社左記の店頭にて荷物受證引換證發行致ます 內地各港行連絡引換證 營口九、奉天、公主嶺、四平街、長春、吉林、哈爾賓其他

日鮮汽船出帆

●上海青島行 長山丸 八月廿五日 午前九時出帆 長山丸 九月五日 代理店 大阪商船株式會社大連支店 電話四一三七番 ●專屬荷扱所 大連市山縣通 國際運輸株式會社大連支店

夕刊 滿洲日報 八月十八日

政府とは感情疎隔せず 委員は冷靜に條約審議

伊東精査委員長挨拶

けふ愈よ樞府精査委員會開く

【東京十八日發電通】ロンドン條約に關する第一回樞府精査委員會は既報の如く十八日午後一時より宮城内樞府事務所に開會、倉富、平沼正副議長、伊東委員長以下委員全部二上書記官長、村上、堀江書記官等出席先づ倉富議長より條約御諮詢の經過奉答文提示並に批准期の顛末等につき報告し二上書記官長より條約下審査の經過、條約文訂正の顛末審査材料並びに參考書類の整備等につき報告し次で伊東委員長より委員長としての挨拶ありたる後

樞府における精査委員の指名遲延せる爲め樞府政府間に感情の疎隔あるやに傳へらるゝも右の如きことは決してあるべき事にあらず本委員會は最も冷靜嚴肅に案文を審議したい

と述べ次で各委員間に豫じめ政府に對する質問の順序について大體左の如き打合せをなした

一、奉答文提出要求問題については是を後日に保留すること

一、統帥權問題については事將來にも關係あるを以てこの際この點を最も明かになし置くこと、從つて海相と軍部との間に交換されたといふ覺書についてもこれを明かになし置く要あり

一、國防　[illegible]問題は最も重大な審[illegible]項目であるから充分の注意を以て審議をなすこと

一、軍縮剩餘金の使途を明かにすること、殊に國民負擔の輕減を圖り得る餘地あるや否やを明かにすること

一、審査資料として政府に提出を要求すべきもの

一、審査委員會に於ける審査分科方法については次回よりは政府側を加へたる正式審査委員會が開くことになる模樣で審査委員會の審査分科は財政關係は田、荒井、水町、統帥權問題は金子、久保田、河合大將等が之に當ることゝなるもの如く、右各項目につき打合せ協議をなしたが打合せは大體本日を以て終了

ろものは

一、請訓案決定當時の財部海相の態度

二、回訓案決定當時の濱口に海相事務管理對加藤前軍令部長との交渉所謂統帥權問題

三、三大原則の主張不貫徹に關する政府の責任問題

四、財部海相に屬する責任問題

五、補充計畫並に[illegible]餘財源の使途

六、一九三五年の會議に對するわが國の方針

七、軍事參議會奉答文の内容

八、内閣官制第七條に關する解[illegible]などでこれに對しては第六十八議會にて論議されたる問題については其の場合政府委員が答へたる答辯を根本としてまたその他の問題についてはその後の對樞府準備の協議會で決定した方針に依りて答辯することになる模樣である

條約精査と政府の答辯方針

第二回委員會で會議經過報告

【東京特電十八日發】ロンドン條約に對し政府側では濱口首相を中心に幣原外相、財部海相、江木鐵相、阿部陸相代理、井上藏相等の閣僚揃ひで樞密院側の質問に對する答辯に萬遺漏なきを期し、又海軍省、外務省、法制局、内閣の聯合協議會も前後十日間に亘つて同記關係閣僚の決定した答辯の整理その他の準備事務を急いでゐる、第一回精査委員會には政府側は出席しないけれども廿日頃開かれる筈の第二回の精査委員會には首相以下出席、樞府側の質問に對し第一ロンドン海軍條約提唱以來參加並に調印に至るまでの經過、ロンドン海軍條約に關する回訓案決定の經過及びこれに關しての海相事務管理として執つた措置、ロンドン條約の樞府御諮詢までの經過について報告し幣原外相はロンドン海軍條約調印に至るまでの外交的經過、條約文の概略的説明（財部海相は海相として或は全權の一人として）専門的に亘れるロンドン海軍會議の經過、條約の軍事的意義に關する見解、歸朝後同條約の善後措置として開かれた軍事議會に關する極めて概略的な報告をする筈で政府側で豫想してゐる質疑の主眼點は條約の具體的内容よりも寧ろ手續き及び派生的な問題であるとしてゐる、今その主な

天工した川發電所の竣

歐亞連絡の寢臺料値上問題

【ハルビン特電十八日發】ロシヤ交通部から歐亞直通旅客連絡にシベリー線その他ロシヤ鐵道に要する寢臺料は二割五分の値上げをする旨[illegible]係鐵道に通知して來たことは既報の如くであるが、實施期を八月十五日からとすることは南滿その他の連絡鐵道で準備ができぬので交渉し九月十五日から改正方を回答したところロシヤでは若し實施ができれば滿洲里、ポグロ間のみ率を滿洲里で追加徴收する方針だと強硬に主張してゐる

記官長は十八日午前九時五十分伊東委員長を私邸に訪問し午後一時より開會の第一回精査委員會に關し種々打合せをなした

輸長委員長協議

【東京十八日發電通】二上樞府書

不足五千萬圓の補塡財源は何に

明年度豫算編成の難點

【東京十八日發電通】深刻なる不景氣は直接國家財政に反映して五年度實行豫算にて生ずべき六千萬圓の歳入缺陷は加速度的に落込んで六年度歳入缺陷は一億三千萬圓を見込まれ未曾有の財源缺陷に直面してゐる、即ち節約を要すべき額は

一、歳入缺陷一億三千萬圓

（内譯）租税收入減一億圓（租税收入は酒税を筆頭に織物、砂糖各消費税、所得税、營業收益税等殆んど全税目に亘り減收が見込まれてゐる、印紙收入並に官業官有財産收入減三千萬圓

二、五、六兩年度追加豫算財源として一般會計より控除すべき一千五百萬圓

三、當然增として是非共容認すべき額五千萬圓

計一億九千五百萬圓の巨額に上つてゐる、これに對して明年度においてて得らるべき新規財源は

一、煙草元賣捌所廢止に伴ふ一般會計繰入金一千五百萬圓

二、恩給事務統一に依る經費減五百萬圓

三、官[illegible]品共同購入に依る經費減四百萬圓

四、官吏旅費削減に依る經費減六十五萬圓

計二千四百六十五萬圓に過ぎず結局差引一億七千萬圓は是非共既定經費節約に依り捻出せねばならぬことゝなるが、大藏省の目論む通り補助費調査費を含む物件費四億圓から天引一割五分を節約して六千萬圓、繼續費二億一千萬圓を三割節約して六千萬圓計一億二千萬圓の經費節約をなすともなほ五千萬圓の歳入不足を見る狀態に在り本年度實行豫算において八千萬圓の所定經費節約が要求されたるに對し僅かに六千萬圓の節約より出來なかつた事實から見て明年度において一億二千萬圓の節約が果して成功するかどうか假りにこの節約が可能なりとしても五千萬圓の財源を何に求めるか、行政整理、恩給法改正は目下のところ不可能である、郵貯利下に依り預金部資金の一般會計は大衆の利益において非難を受くべく減債基金繰入も不可能に在り、何處に歳入缺陷を補塡すべきやは明年度豫算編成の癌とされてゐる

蔣氏主力に對して天津占領を命令

一部は隴海線方面へ

【濟南特電十八日發】蔣介石氏は韓復榘、李王亭、李鳳林氏等へ一路天津を占領するやう命令したが津浦線で大勝した南軍の一部は濟南及黄河南岸を固め一部は山東西部の敵を追撃し一部は鐵路から隴海線の戰ひに參加することになつた

山西軍は德州に防禦陣地を築く

敗兵の集結を急ぐ

【天津特電十八日發】濟南へ與先きに入つた南軍は第六十七師濟光旅の二ケ旅であるが同軍は山地から濟に南を襲つたものであり、黄首陽德に在つた傅作義、李生達軍約八萬は退路を失つたので目下肥城の西方へ退却中、濟南から渡河して德州に逃げ歸つた山西軍は僅かに十四ケ列車一萬四五千であ る、膠濟線の王靖國軍は明水へ退却する豫定であつたが大に狼狽して青城から渡河して退却中であるが目下霖雨のため黄河の水量多く渡河は甚だ困難であるから山西軍は再起不能の損失を被つた譯だ、傅作義、李生達軍の行方は[illegible]

敗兵德州輸送

明、閻錫山氏は德州で敗兵を收容し同地に最後の防禦陣地を築くやう命令した

【天津特電十八日發】德州以南の津浦線には山西軍充滿してゐる津浦路局長錫思承氏は十七個列車で臨時交通列車を編成し敗兵の德州輸送を指揮してゐる

南軍の對邦人態度

【濟南特電十八日發】當地居留邦人は十五日大學へ避難する豫定であつたが山西軍が列車を二十四列車差押へた（内十七列車だけ德州へ逃ぐ）爲め出られぬ事となつたところへ南軍が入つて來たので小[illegible]

走馬燈

共管（其七）

荻川

現在に於ける南北抗爭の勝敗がどちらに決まるも、こちらは双方に何等の影響もないが、唯其勝敗の決まつて、少しでも支那の統一に進歩あることを希ふ。比點からすると、現在の抗爭が其進歩の端緒と思へば、我慢すべきは我慢もせねばならぬ、されど累々支那の革命騷亂は、其抗爭を南北に、亦東西に、轉々と繼續して極まるところなく、

遂次の南北抗爭が片附くとしても、相次ぐ抗爭の重ねて起るを思はしむ。

◇

然り、支那革命の經過は、主義問題よりも勢力の消長を爭ふと云ふのが先決となる、それで一勢力が唯を擧げば、他の勢力は主義の如何を問はず、力を揃えて之を抑へようとする、此點から見れば、萬一にも還度び南方が[illegible]つとすると、閻勢力を中心とする、汪の合體が解けて、抗蔣勢力か、湖南の共匪を中心とするに至るかも知れないのである、主義に結合せず、勢力を本位とするところ、必ずしも此事なしと云はれうか。

◇

南京政府の前身たる廣東政府は實に此共匪に[illegible]り立てられて、現在の南京を生み出したるものそれで共功績の多いだけに、其根據も南方では相應に深く、それを南京政府が急速に變除したのであるか、比歩除は甚さるゝものでなく、豈に次の湖南のみならんや、共匪は時に蹴み逃に乘じて興り、獨立[illegible]の爲や[illegible]ばかりでなく、將に或は共匪を抗蔣勢力の一に數ふべきものとせねばなるまいが、南京政府の支那統一と云容ふと云へぬ。

◇

そこで南京政府の建つや、列國が該政府を、支那の統一政府かのように認めたは、少し早きに過ぎた傾きがある、縱し此事たる該政府の勢力から推して之を統一政府たらしめんとの下心からであつたにせよ、并は別問題で而もそれが南京政府に同情する列國の支那内治干渉ともなる譯だが、列國は支那の行政方針の關渉あり、南京政府の政令が行はれざるところには、それが行はるゝまで、南京政府から観て、内治干渉と思はるゝことを、不斷關渉の必要から、實行して差支なからん。

營業收支問題は引續き研究する

大平滿鐵副總裁談

[illegible]會議及十九日から開かれる職務調査委員會案の減給規程改正が大體今週中に一段落を告げることゝなつてゐるのでその終了を待ち本渓湖、撫順へ赴き就任の挨拶をなすことにならうと

仙石總裁に對する本年度營業收支豫算の説明は十六日を以て大體一段落を告げたが未だ總裁から何等の指示もない更に引續き研究することゝなつてゐる、事業費の方はこれからやるが給與改正案と交互に開催することにならう石炭販賣方面に對する考か、それは小川販賣部次長が考へてゐる筈だ、石炭販賣會社の改善などはまだ契約期限があるので不可能だらう、石炭特賣人制度の廢止、それも未だ考へてゐないがこの方面のことについては販賣部の方で慎重に研究してゐる、木部鞍山倉庫會社々長の來連は同社について種々打合せがあるからあらう

滿鐵給與規程案あす審議を開始

減給など豫想されず

滿鐵本年度の營業收支豫算内容については過般の重役會議席上における説明によつて仙石總裁もその對策の目安だけは略ついた模樣であるが十八日からは引續き本年度事業費に對する説明を聽取することになつた、十九日は臨時重役會議を開き作成した滿鐵給與規程改正案を重役會にかけ審議することに決定したが今後重役會議は當分豫算會議と給與問題と交互に即ち月水金を豫算問題、火、木、土を給與問題として協議することゝなつた、而して給與問題については減收問題と結びつけ手當の減額とか家族手當乃至宿舍料などの減額乃至は賞與の減額社員の整理等を當然斷行されるものゝ如く傳へる向きもあるが仙石總裁は政府の減俸案を一蹴した位だから今日二千五百萬圓餘の減收によつて社員の現給を減額しやうなどゝは考へられず只退社々員の預金利子、退職慰勞金（既得權は除外）その他は相當論議改善を見んかと觀測されてゐる

貨物吸引策調査

滿鐵主任會議で協議

滿鐵々道部では十五、十六兩日貨物主任者會議を開き今後の貨物取扱ひに對して遺憾なき打合せを行つたが十八日は午前八時より更に村上部長、鈴木次長ほか鐵道部各課長係主任及沿線主要驛の貨物主任を交へ貨物誘致策として背後地の調査、情報の敏速な通報等に對し協議するところがあつた

伍堂理事の挨拶

滿鐵新職務部長兼從業部長に就任した伍堂理事は目下[illegible]日開催中の[illegible]

馬旅長等を逮捕軍法會議で審理

張學良氏通電を發す

【奉天特電十八日發】既報山海關駐屯の歩兵第二十三旅長馬廷福の不穩計劃に關し張學良氏は十六日附北戴河より張作相氏、萬福麟、湯玉麟氏等の要人に對し馬廷福等が煽動に乘つて反亂を計畫せるも幸ひに予擧忠の密告に依つて事前に察知するを得、十五日于學忠氏と協同して馬廷福以下各團長を山海關、北戴河兩地で全部逮捕し目下軍法會議で其等の計畫の背後と資金の出所などを嚴重取調中である、と通電した、この事件は東北の結束を誇る東北軍の内部に一抹の暗影を投じたものとして重大視されてゐる

校、庚申俱樂部等へ避難した、南軍の邦人に對する態度は目下のところ何等憂ふべきものがない膠濟線も修理次第近く開[illegible]する見込である

張學良氏は元氣

王樹翰氏より返電

【奉天特電十八日發】減式毅、張孫氏等の張學良氏安否問合せに對し王樹翰氏は十七日「張學良氏は極めて元氣で北寧鐵道復舊を第一歩とする」旨返電した

釣魚と庭球に興ずる張氏

【天津特電十八日發】張學良氏暗殺さるとルーター北戴河通信は報じたので各方面の注意を惹いたが十七日午前までに判明した情報では全然無根で張氏は依然時局を他所に悠々自適の生活を送り附近釣魚テニスに興じてゐると

禹城に司令部

【天津特電十七日發】津浦線は本日から德州まで乘車券を賣始めた傅作義、李生達兩氏は目下禹城に司令部を設けた

煙酒税の減收は十八萬圓の見込

關東廳財政の大打擊

銀の暴落は輸入煙酒の原價高となり煙酒税の課税額に影響して減税の減收は關東廳の歳入に無氣味な脅威を與へてゐる、先づその徴税の大部分を占めてゐる大連民政署について見るに本年度四、五、六、七月の四ヶ月間における煙草税の課税額は二十二萬五千七百八十九圓六十九錢にしか達せず昨年同期に比し四萬八千五百七十圓の減收を來し、酒税は課税額七萬七千四百三圓九十三錢でこれまた昨年同期に比し一萬五千六百七十四圓九十三錢の減收を來してゐる、昨年一ヶ年の課税額は煙草七十四萬四百四十二圓卅七[illegible]で酒は十七萬七千四百三十四錢であるが若しこの狀勢にして推移するとせば昨年の課税額に比較して本年は煙草税約十四萬圓、酒税約四萬七千圓、合計十八萬七千圓減少の見込みで當局は頗る頭を惱めてゐる

日滿連絡會議で東鐵提案

【ハルビン特電十八日發】第九回日滿旅客、貨物直通連絡會議は十月五日頃大連にて開催されることに決定し東鐵側では目下提案事項に就き各課で研究中であるが、八月末には日本側との間に交換を終ると

築港調査委員二十日大連出發

目下來連中の多羅島築港實地調査委員一行は二十日夜行にて大連發途中鞍山、營口、撫順の三ケ所を視察し廿三日新義州に到着の豫定

關税短期庫券條例公布

【天津特電十七日發】南京電に據れば南京政府は今回十九年關税短期庫券條例を公布したが主なる要點は次の如し

（一）發行額面五千萬元（二）用途銀安に因る金融財政の調濟の爲め（三）本年九月一日發行（四）利息月八厘（五）償還九月より毎月總へ（六）擔保、關税增收項の内から元利償還を始め民國廿五年にて元利償還（七）手數料（八）種類無記名式、一萬元、一千元百元、十元の[illegible]（九）該券は擔保、買賣、並に公務上の[illegible]供託保及銀行の保證準備金と爲すを得

而して右は宋子文氏の召集した各

人事

▲今井清少將（歩兵第三十旅團長）新任挨拶の爲十八日市内各所歷訪

▲大槻伸次郎氏（大連婦人病[illegible]長）同上

▲森連中將（獨立守備隊司令官）同上

▲岩田文男中佐（獨立守備歩兵第三大隊長）同上

はいかる丸船客

【門司特電十八日發】二十日入港豫定の定期船ばいかる丸の乘客中主なる者左の如し

寺田春二、楢橋茂三郎、高見三吉、瓜谷長造、前田寶、廣瀬茂、増田貞一、佐伯宗雄、安部磯雄（社民黨主）、眞須久、河村茂久、倉橋大佐、吉村英吉、石原主計正、松本少佐、渡邊一郎、吉村哲三、三浦內務局長夫人

國税總[illegible]長官會議にて決定したものので銀行界に引受けせしめず江蘇、浙江、安徽、江西、福建、湖南、湖北、山東の各地方で分擔するものであると

大觀小觀

けふ第一回精査委員會、初秋新涼の氣爽かにあるべし。

◇

猛暑に當てられては今日まで猛夏を押し切つて來た甲斐なし。

◇

また復颱風、小笠原島南方の海上に現はれてその進路察ぜらる。

◇

樞府の颱風を恐む國民、颱風一過、日本晴れの秋の空高く澄みてこそ瑞穗の國は豐穣の秋。

◇

「何が伊東伯をそうさせたか」と言はれぬやう。

◇

スポーツ精神を忘れた都市對抗野球ファンの話を聞く。他山の石になるや。

天氣諺

各地溫度

十九日（南西の風）晴時々曇

	十一時	昨日最高
大連	二九・一	二八・四
旅順	二八・五	二八・六
營口	二八・一	三〇・一
奉天	二七・五	三一・二
長春	二三・一	二七・八

滿潮	午前	四時四十五分
	午後	四時四十五時
干潮	午前	十一時三十五分
	午後	十一時十五分

俠艶一代男 (29)

米田華紅作　伊藤幾久造畫

盲目長家騒動(十二)

「それッ！向ふへ遁げた！」

「あの屋根へ飛んだッ！」と、暗い屋根から屋根へ身輕く飛移る火の玉小僧典膳の逃げ廻るのを、役人や捕方が追ひ廻してゐた。

その盲目長家と細い路一つを越した左近郎の仲間部屋。近所の大騒ぎを餘所に入九人の素裸へ法被一枚の仲間たち、貧乏徳利に茶碗酒を汲みながら、圓座を作つて、丁だ半だと血眼になつて勝負に夢中であつた。

夜も更入つを廻つてゐるから、直に明るくならうとするのに、こゝ許りは煤けた行燈の下、額に油汗をにじませ、濁酒に赤い顔をはてらせながらチヤラ〳〵と金の音をさせては、夜明しで爭づてゐるのだ。

松の枝と一寸拜借をしまして、ふらりと這入り込みましたので、決して怪しい者ではございません」

「ちよッ！そ。それが怪しくねえことがあるものか？變な眞似をしやアがると、引ッぱたいて突き出してくれるぞ」

「それは惡い考へ違いでございますよ。天下御法度の賭博でございますからね。お邸の名前が出ましやうからな。それよりは俺を仲間に入れて下せえ。これ、この通り金は持て居ります。別にお前さんがたから儲けやうと云ふんぢやねえんで、勝負を爭ふことが、三度の飯より病みつきなんでございますよ」

典膳は懐と胴卷の小判や小粒金をチヤラ〳〵と音させてみせた。

「どうしたもんだらうか？」

つた。お眼ざめで定めし吃驚しやアがるだらうぜ。どれそろ〳〵お賭と出かけやうか？」

のつそりと立ち上ると、おのれの着物を脱ぎすて、仲間の法被と着換へると、部屋の雨戸をそつと開き、四邊の様子へ聞き耳を立てた。

「半と張るぞ」

「こんどは出目金と縁儀を祝つて丁と行からかな？」

膝へチヤラ〳〵と金がこぼれて膝元に廻つた仲間の伏せた茶碗の手元へ、一同の視線がじつと注がれる。

「いゝかい？開けるぜ」と胴元仲間の聲。

「えへツへツへゝゝゝゝお樂しみでございますね」

降つたか、湧いたか？いつの間に部屋へ忍び込んだか？彼等の後に突立つて、勝負を見下しながら薄笑ひを浮べてゐるのけ、だつた今、盲目長家を捕方に追ひ廻された許りの火の玉小僧典膳。

「ヤッ！手、手前は……？」と、一同はギヨッとして振り仰ぎざま

「ど、こから邸内へ這入つて來やアがつた？」

「へえ、あんまりいゝ音がしやすし、好きな酒なので、つい知らずに紛れ込みました。どうかお仲間へ入れてやつてお呉んなせえ」

「薄氣味の惡い野郎だ。何處から這入つて來たんだ？」

と云ふが、手前、今頃どこから這入つて來たんだ？」

「へえ、お邸の塀外に出てゐます

「仲間に入れてやるさ」と、仲間は何か互に眼で合圖をしあつた。

そこで典膳は小さく隅にかしこまつて、その一座に加はつたが、張る度に負けて許りゐた。

どうしても態と負けてやるとしか思はれない位である。

「お前さん、よせばいゝのにとんだ所へ飛び込んで、大部取られなすつたね？」と、中には氣の毒氣に漏らす仲間も居つた。

「いえ、どう致しやして！からして遊ばして頂くのが、面白いのでございますよ」

彼は金を取られる事を、一向苦にしない風で、張る度に綺麗に取られて許りゐた。

薄明るく、窓が白んできた。

ところが什麼したわけか？あれ程に血眼で夢中に勝負を爭つてゐた仲間が一人倒れ、二人倒れ、一同が居汚なくそこへ打つ倒れて鼾をかいてしまつた。

典膳は、これを見るとニヤリと笑つて、場金から仲間の胴卷にある金まですつかり洗ふやうに掻き集めて

「茶碗酒に仕込んだしびれ藥で、見せ金に利息をつけて呉れやアが

キネマ演藝

常盤座の樂劇部　愈よ專屬組織

常盤座にては今春大櫻座樂劇部の出演以來、同座專屬の樂劇部を組織し常盤座の名物として賣込むべく計畫中のところ元オペラ俳優であつた石田弘を中心として男優四名女優入名のメンバーが揃ひ七月來連の、豫定であつたのを一時中止してゐたが、いよ〳〵秋のシーズンに入つたので今月末小泉及男氏が上阪し一座を組織して歸連するらしく、第一回公演は九月下旬と見られてゐる、尚今回の計畫は專屬樂劇部として最初は二十名乃至二十五名の部員を以て毎月二回づゝ新作のレヴユウ、オペレツト新劇等の新作品を發表し常盤座に掛けてあとの二週間は沿線各地を巡演する豫定で從つて新作品の舞臺、背景、衣裳等も非常に金をかけたものとして華やかに新方面を開拓すべく氣込んでゐる

スズラン座　今夜から大衆興行で返打ち

沿線巡業を終へて再び來連したスズラン座は愈々今十八日夜より歌舞伎座に出演するが今回は特に大衆興行として入場料は大人五十錢小人三十錢の均一であると

調正會を聴く　昨日南華園で

既報の通り十七日正午から南華園南茶寮で常磐津調正會の初演奏會が浴衣會として催された、久しく此種常磐津演奏會の催しを見なかつた折柄でもあり流石に盛況で聽者五十名を超へ會場の狹隘を告げる盛況裡に牲月の消興を恣にして日出度散會したのは午後五時頃であつた▲七騎神、唄の邦三君弱冠未だ十九の若者ながら天分を見込まれて二佐大夫の衣鉢を繼ぐ立場にある人、流石に玄人仕込の味で聽衆を得心さすに充分▲羽衣藤田夫人の唄で師匠と一挺一枚嗜みの程をシンミリ聽かせ▲三保の松、美聲で知られた玉吉の唄、師匠と内弟子昌信の糸何れも自信のある演奏振り▲將門、唄藤田君糸は師匠ととし松……三十分掛つた難曲將門を少しもダレさせなかつた處、最近同君等の精進振りが窺はれる▲勸繼大檢舞十三智子、佳代子、豆子の三人唄ひとし松、小松兩姐チヤンの糸でいたいけな演奏振りは大喝采、聞けば正德師女紅場に入つての初作品……心なしか後見する師匠の目頭に光るものと見へたは左こそと肯かれた▲とします、かしくの唄おとめと一挺一枚……當日中の秀逸殊にかしくの聲柄持味など同會の珠玉▲廓の仇夢、小花、邦三の唄で師匠とおとめの糸、惡文卑猥でお座に出せないとされたこの淨瑠璃を極めて上品に面白く聽かせたは演者の力と■所を改作した川道が然らしめたと思ふ▲松島、やの字君の唄今一息▲三世相、とし松、小花の唄師匠と市葉の糸ピッタリ合つた息と云ひ唄兩人の洗練された語り口は心中ものの情趣を充分に味ふ事が出來た▲戻り橋、同會男連の双璧として自他共に許すコノ道の達者連かも危なげなく科白のメリハリも無類の上出來、殊に段切り間近の突込むイキの張り切つてゐたあたり演者も氣持ちよさそう▲廓八景、市葉、小花の唄おとめ、小代の糸で賑やかに無事演了、但し八景では從來あまり認められなかつた小美代の三味線が案外シッカリして居る事を■添へて置く

因に正惠師匠は明十九日の定期船香港丸で一應■通し改めて來月下旬再び來連十一月下旬まで滯連稽古に留る豫定の由

ろよりはと▲「離る人生」はパート・トーキーで上出來し綺麗で面白いところを御覽に入れると大日活の老婆心▲片淵千惠藏が歸つたら、あれでお氣に入りませんでしたらこの方では如何？と許り澤田清の「千丈の紅戀」で美しいとこ ろを狙ふ▲常盤座はとう〳〵二十錢まで下げて洋畫にお客を引きづり込み引くに引かれぬ潮時を見計つて無心をいふ▲また今秋から樂劇部をつくつて常盤座の名物にしたいと言へば傍から口のよくないのが名物であるまいものを」

ナンシー・キャロル孃

パラマウントの新進花形女優として素晴らしい人氣を集めてゐるが、彼女の賣出し作品「アビーの白薔薇」をはじめ「店曝しの天使」「マンハッタン・カクテル」「ウオール街の狼」「戀愛行進曲」等いづれも大連に上映されず馴染が薄いが「踊る人生」で初御目見得する【來る二十■から大日活上映】

オール・トーキーで解説者に悲鳴をあげさせてお客を喜ばす

ラヂオ

大連 JQAK

八月十九日午後七時半
▲ラヂオ體操
▲支那語講座「初等科第十一課」滿鐵鄭務課秩父尚太郎
▲管絃樂(イ)「メデテイション」グノー作(ロ)「アイダマーチ」ヴェルデー作　ヤマトホテル管絃團
▲浪花節「故郷の錦」市川紋十郎
▲支那唄「小土攻■」唱手小亭
▲職業紹介事項
▲料理獻立
▲天氣豫報

東京 JOAK

八月十九日午後六時二十五分
▲■■講座「此の一筋」舟谷好三郎
▲脚本朗讀「東より五十三驛」(河竹默阿彌作)濱松城樂院奥殿の場(配役)小坊主法作實は清水間者義尚後に天一坊(佐々木渡之助)盜賊地雷、郎實は竹川伊賀之助政定(森武治郎)人丸お六實は今井四郎娘かけはし(和田竹二)赤星大八後に赤星典膳、若葉操)藤家根佐九郎後に藤家根佐京(畑野柳)猿野勘六(伊藤■■)其の他、捕手頭小林■上郎(■瀨涼治郎、放送指揮、解說(■■晴宵)
▲管絃樂(一)聖譚曲天地創造(ハイドン作)(二)岩の主なるイエス(ヘイドン作)(三)モニカの尼僧(クプラン作)(四)藥の中の七面鳥(アメリカ民謡)(五)圓舞曲「憶せよ」(パーリン作)(六)道化芝居(スルカラツティ作)ニッキウアンサンブル、指揮大中寅二
▲新小唄と囃子(一)新小唄(濃山幸三郎作)(イ)はまき節(ロ)■山音頭(ハ)奈良小唄(二)久滋濱音頭　唄あき子、雛子連中(三)神代、杵屋兩廣、三味線久米千樂囃子(イ)大拍手式場(ロ)御幸(ハ)神樂劍の舞(ニ)立囃子(ホ)屋臺拍子(へ)神樂弟の舞(ト)打切　山■西島■樂團、指揮佐野竹次郎

滿洲日報

滿洲日報社印刷所 石版印刷

大連市常盤町(天金前)
内科専門 櫻井内科醫院
電話七〇〇〇番

山本条太郎著
經濟國策の提唱
國民繁榮への道

堂々四百頁 實價一册五十錢 送料六錢

不景氣打開の快著

どうすれば生活が樂になるか？この國民の切實なる質問に答へた立正安國の大經綸！

著者は苦學力行の人財界に在りては三井王國の重鎭たり、政界に入りては伊藤春畝公にも比すべき大政治家、滿鐵總裁としては歷代總裁の企て及ばなかつた大計畫を斷行する等實業家としての體驗を直ちに政治家として實行に移す一大人傑であります。

昨今の殺人的不景氣は果して世界的不況のみから來て居る不可避的なものでせうか？

中小商工業は果して沒落を待つの他は途なきものでせうか？

生活のドン底にうめく百萬の失業者をどう救濟すべきでせうか？

死線を彷徨する農村は如何にして之を救ふべきでせうか？

乞ふこれを此の力著に聽いて下さい!!

本書の讀まるゝところ民心熾んに、産業は興り、景氣は一變して眞の繁榮を招來す、讀め！讀め!!

曉鐘は鳴る！都會より農村へ、山村へ、漁村へ、工場へ、輝かしき黎明は茲に最初の光を投ぐ！

この不景氣をどう打開するか？ 租税の負擔は果して公平か？ 國防の經濟化とはどんなことか？ 失業難就職難をどう救治するか？ 農産物價の暴落をどう救ふか？ 中小商工業者をどう活かすか？ 教育制度をどう建て直すか？

これ等の問題を明快平易に說いたのが本書だ！

好景氣招來のポイントマン・繁榮經濟の基礎工事!!

東京丸の内 昭和ビル **日本評論社** 電話丸の内{二三一四 二三一四}(自至) 振替東京一六番

東京電氣株式會社

資本金 壹千萬圓
株式會社 滿洲銀行
大連市伊勢町六十九番地
頭取 村井啓太郎
電話(代表)四一二一番 振替(大連)三三〇番
支店所在地 金州、普蘭店、貔子窩、鞍山、奉天、小西關、開原、公主嶺、長春、吉林、撫順、本溪湖、安東、鐵嶺

建築─設計─監督 構造─計算─鑑定
宗像建築事務所
工學士 宗像主一

滿蒙研究の好適書

書名	編著者	定價・送料
昭和四年 關東州鹽業統計	滿鐵調査課編	定價一・四〇 送料〇六
支那羊毛	滿鐵調査課編	定價二・五〇 送料〇八
滿洲に於ける通貨及金融の概要	滿鐵調査課編	定價〇・五〇 送料〇四
昭和四年 滿洲政治經濟事情	滿鐵調査課編	定價一・五〇 送料一〇
昭和四年 滿洲産業統計	滿鐵調査課編	定價一・二〇 送料〇八
ソウエート經濟建設 五ヶ年計畫	ロシヤ問題研究所編	定價一・〇〇 送料〇八
昭和五年 關東廳要覽	關東廳編	定價一・五〇 送料一〇
昭和五年 滿洲寫眞年鑑	滿鐵總務部編	定價三・〇〇 送料一八
新天地を求めて	藤波勝治著	定價二・五〇 送料〇八
ソウエート聯邦の實相	大藏公望著	定價六・〇〇 送料五〇

各地書店に販賣
大連市紀伊町 社團法人 中日文化協會

滿鐵總務部庶務課編(改訂增補)
滿洲寫眞帖
四六倍判美本 定價金二圓 送料十二錢

▲本書は滿蒙事情實候の紹介者
▲印刷の優秀と說明の明快は價値一層長大
本書は啻に表面的な滿洲風景のみで滿足せず、特異の人情風俗にも亙つて、剩すところなく採錄され美麗なる高級印刷の寫眞に添ふるに、典雅にしてしかも周到な說明とは、手にするものゝ愉快に思ふところであらう。殊に見返へしのオフセット刷の滿洲鳥瞰圖は一目して滿洲の位置を知ることが出來るのである。一般家庭の備附は勿論滿洲土産としてこの位氣の利いたものはあるまいと思ふ。

内科 小兒科 婦人科
何時でも往診致します
大連市若狹町飯淵所下
柴田醫院
女醫 柴田千代
電話八七九〇番(花紅)

安田經營 海上火災保險
滿洲總代理店
國際運輸保險部
大連市山縣通り 電話三一五一番
沿線各地の御用命は最寄店所へ……

小兒科專門
今井醫院
大連紀伊町二七 電話六〇五〇番

最新刊

書名	著者	定價・送料
滿洲とはどんなか	杉本文雄書	實價一圓五十七錢 送料八錢
肺病征服記	岩崎又吉書	實價一圓五十七錢 送料八錢
石燈籠集	洪洋社書	實價二圓十五錢 送料六錢
新鐵道地圖	三省堂編	實價四十五錢 送料四錢
貧死のどん底から家主となるまで	速水不染著	實價一圓五錢 送料十錢
自己暴露	トロツキイ著 青野季吉譯	實價一圓八十九錢 送料十四錢
子ども史 神代の日本	高橋立身著	實價八十四錢 送料六錢
姉と弟	西山庸平著	實價八十四錢 送料六錢
奧の細道を尋ねて	荻原井泉水著	實價一圓八十九錢 送料十錢
猶太人 ジユス	谷讓次譯	實價一圓五十七錢 送料十二錢
財界は脈打つ	和田六津子著	實價一圓八十九錢 送料十錢
性的解放時代	小泉鐵著	實價一圓二十六錢 送料八錢
船醫風景	戶田一外著	實價一圓二十六錢 送料八錢
社會史研究	佐野學著	實價二圓十錢 送料十二錢
モデルノロヂオ	今和次郎 吉田謙吉著	實價一圓五十七錢 送料十錢
江藤新平	眞山青果著	實價三圓九十九錢 送料二十錢
生物學叢話	駒井卓著	實價二圓六十二錢 送料十二錢
一竹さん	清原ひとし著	實價一圓五錢 送料八錢

最新刊

書名	著者	定價・送料
ビタミン	藤卷良知著	實價四圓四十一錢 送料四十五錢
責任能力	三宅鑛一著	實價三圓十五錢 送料十六錢
紳士錄 附滿蒙銀行會社要覽	滿洲日報編	實價一圓八十錢 送料十八錢
西部戰線異狀なし	秦豐吉著	實價一圓五十七錢 送料八錢
孫六錢話	谷孫六著	實價一圓五十七錢 送料十錢
岡辰押切り帳	同	實價一圓八十九錢 送料十錢
ちいのの洗濯	谷崎文著	實價二圓八十九錢 送料十二錢
羅生門その他	中士義融著	實價二圓十錢 送料六錢
財界は脈打つ	和田信夫著	實價一圓八十九錢 送料八錢
性的解放時代	小泉鐵著	實價一圓二十六錢 送料八錢
エヴエレスト登山記	田邊主計著	實價一圓二十六錢 送料八錢
一竹さん	清原ひとし著	實價二圓六十二錢 送料十四錢
勞資協調の諸方法	協調會著	實價四十二錢 送料四錢
巡禮の書	山村暮鳥著	實價一圓五錢 送料八錢
日本經濟年報	東洋經濟新報社著	實價二圓十錢 送料八錢
船員と銘酒屋	團藤五郎著	實價一圓五錢 送料六錢
日鮮關係の史的考察と其研究	日々著	實價二圓十錢 送料十四錢

大連市大山通 滿書堂書店

社説 古川に水たえず

古川に水たえず、といふことがある。相當な早魃の年であつても古川といふものは、なかく水が絶えぬもの、老舗などの彈力、耐久力のあることに譬へられるが、殊に滿鐵の如き、その機構の厖大而して組織の複雜、單調ならざるものにありては、少しぐらゐの日照り、不景氣に遭遇しても、右から左へと閉口するものでないことを思はしめる。

◇

世界的の不景氣といふのであるから、滿鐵といへども例外となり得るものでなく、この打擊は世間並に受けるものなることは、何人も肯定するところであらう。併しながら、いかに世界的の不景氣に銀安だからとて、すぐにも滿鐵が潰れそうに騷ぎ立つるのは、少し調子の狂つたものといはねばならぬ。二億四、五千萬圓の實收のところへ二千萬圓、乃至は二千五百萬圓ほどの減收があつたとて、[illegible]收には相違ないが、今さら騷ぐほどのことでもあるまいと思はれる。ちよつとストツクを整理しただけで何百萬圓といふ金額を浮すことも出來、各部で毎日々々の消耗品に注意するだけでも相當の節約が可能であるのである。されば勿論緊縮と節約とは大にこれを勵行せねばならぬが、世界的の不景氣、銀安だからとて、今にも地球が消し飛んでしまうかに騷ぎ廻るのは、いまだ滿鐵の實情を知らぬものといはねばならぬ。古川に水たえず、老舗にして機構の複雜なる滿鐵が、このくらゐの不景氣で、直ぐにへたばる如く思ひ做すは正確の認識とはいへぬ。

◇

大正七、八、九年ごろの好況時代にありても滿鐵は世間の熱狂を白眼視し、冷靜に平常の事務を進めて居つた。氣の早い連中は、世間の好況熱に煽られ、滿鐵を飛び出し一攫千金を夢みたこともあつたが、多くは失敗に終り、好況の夢から醒めたやうな笑へぬ喜劇があつたのである。かくて滿鐵は十年、否、二十年一日の如く、むしろ世間の好景氣、不景氣から超然と卓立し、今日に至つたものといふことが出來やう。すなはち世間の好況からも、また不景氣からも特殊の世界にあるものゝ如く經過し來つたのであつた。今次の世界的不景氣に遭遇し、かつ搗てゝ加へて銀安といふのであるから、いかな滿鐵王國といへど、全然これに超然たることは不可能であるに相違ない。併し世間の或るものが騷ぐやうに、滿鐵の機構、組織は貧弱なものではあるまいと思はれる。これいはゆる杞人が天の落下し來らんことを憂ふると一般、滿鐵としては些少の緊縮節約、あるひは株主への配當ぐらゐを手加減するならば、今次の不景氣、銀安程度のものならば、これを右から左へと打開し得て綽々、餘裕あるのではあるまいか。

◇

それに鐵道收入、石炭販賣などが思ふやうには行かぬといふが、一方、支出のみしてゐた築港とかまたは製鐵所などの幾分づゝにても收入となつて來るものあり、滿洲收入の如きも、いはゆる支那の現狀鐵道をといふ向もあらんが、實地について研究せば、如何なる交通機關なるものも採算を度外視して經營せらるべき筈のものでなく、結局は共存共存といふやう[illegible]則に落ちて來ねばならぬのであるから、徒らな悲觀論は全く杞人の憂ひなるに相違ない。殊に大連港の設備を以てして、しかも滿蒙の農作が平年作以上とあつては、自然の增作に加へて、決して悲觀するに及ぶまいと思はれる。勿論前述した如く、相當の不景氣、銀安打擊の襲來することに對しては滿鐵當局たるもの、大に準備し、この不景氣時代を打開解決するところがなくてはならぬが、社員の整理をせねばならぬの、または減俸々給なくせらるゝものと騷ぐのは少しく見當違ひではあるまいかと思はれる。古川に水たえず、滿鐵當局にして最善の方途を講ぜんか、大滿鐵の將根を動かすとなく、時代の要求たる緊縮節約、事業の合理化を以て、この不景氣時代、銀安時代を打開し得ること必ずしも難事業にあらずと做すものである。

重大議案の精査に きのふの樞府緊張 河合大將が一番乘り

【東京特電十八日發】ロンドン條約案が樞府に諮詢あらせられて廿六日目の十八日午後一時から宮城內樞府事務局階上で政府側を除いた條約案の第一回審査委員會が開かれた、久方振りで重大議案を審査する會議のことゝて平素閑散を極めてゐる事務局もこの日は俄に多忙の雰圍氣が漲ふてゐた、午前十時一抱へもある書類を携へて出勤した二上書記官長がまたアタフタと出掛け堀江、武藤兩書記官は會場の書記官室で午後からの會議の下準備に急がしい、午後零時二十一分瀬戸の背廣に一文字[illegible]帽を乘せた河合操大將が乘りつける大將は出勤が早いことで樞府でも有名だ、續いて二上翰長、荒井賢太郎氏等が乘りつけ會議氣分が一入濃厚さを加へてゆく、會場の西側の窓、眞紅のカーテンが風にハタめいてゐるあたりからゴホン、ゴホンといふ咳の聲が聞えて來るのも如何にも樞府らしい

政府側では樂觀 ―曲折はあつても條約は通過― けふ今後の對策協議

【東京十七日發電通】ロンドン條約の樞府第一回審査委員會は來る十八日午後一時より政府側を交へず倉富、平沼正副議長、伊東委員長以下各委員二上書記官長等參集のうへ開かれる事となつたが、政府に於ては右第一回委員會の會合は今後の條約案審議に對する樞府の態度を豫知し得べきものとして重視し、十九日の閣議又は閣議散會後の關係閣僚會議に右十八日の委員會の內容を持ち出して今後の對策要項等につき協議し萬遺憾なきを期する事となつてゐる、第一回審査委員會及び今後の成行に就ては政府側は左の如く觀測してゐる

一、各關係官廳の間に打ち合せ整理中であつた事務的資料は既に完成したから政府側はこれによつて答辯し誤りなき樣にし度い、これがため十九日の閣議後更らに最終の關係閣僚の打ち合せを行ふ

一、政府は本問題に關し樞府に個別的に事前の諒解運動をなさず正々堂々と審議の席上に於て誠意を披瀝する、俵商相の伊東伯訪問は政府の關知せざる處で濱口首相も此の點に關し特に商相に注意を促す處があつた

一、奉答文の提示を政府に要求する事はあるまいと思はれるが若し本問題に論及すれば政府は最後に倉富議長に對し回答したると同樣の趣旨を以つて之れに對する外はない

一、補充計畫に就ては財政と不可分のものなる爲め豫算編成期までは具體的說明は不可能なる事を海相より詳述せば諒解を得るに至るであらう

一、條約による剩餘金及び國民負擔輕減案も豫算編成期にならねば明白にならぬものであるからこの點も說明すれば諒解するであらう

一、統帥權問題に就ては第五十八議會において政府の所信は明白にされて居りこの點に就て問題にされる事はあるまい

一、要するに第一回委員會は政府

奉答文問題 後廻しか

【東京十七日發電通】樞府のロンドン條約案審議は愈々十八日午後一時より同院事務局に於て開かれる第一回審査委員會を以つて開始さるゝ事となつたが、樞府は條約案の重大性に鑑み政府側の說明聽取に先立ち樞府側のみにて審査方針並びにその順序の打ち合せを爲すると共に併せて質問の範圍質問者の順序をも決定すると云ふ非常な慎重さを執つてゐるので豫定通り同日夕刻までに審査方針の決定を見るとも質問者に於て特に下準備をして政府の說明を聽取する事となるから正式に政府を加へる第二回委員會は大體二十一、二日となるべく、從つて十八日の第一回委員會に於て決定さるゝ政府追窮戰の銃鋒は二十三、四日頃から開かれる第三回委員會より漸次其の鋒芒を現はし來るべしと見られる、而して樞府の決定すべき審査方針は奉答文問題其の他の行懸りから對政府的に何等かの感情を以つて審査する如く見られ故意に審議の遲延を圖るが如き誤解を招來するを避けて最も冷靜公平に審議の進捗を圖るにあり從つて一般質疑を先きにし奉答文問題は後に讓るものと見られる

病の宇垣陸相を 首相、箱根强羅に訪ふ

【箱根十七日發電通】鎌倉の別莊に一泊靜養した濱口首相は十七日、强羅に病氣靜養中の宇垣陸相を訪問、病氣見舞を述べたるのちロンドン條約問題經過並びに政府の態度等を詳細報告說明し更に明年度豫算編成に伴ふ後任政務次官の詮衡に就て種々協議し、最後に陸相の病氣恢復のため軍制改革の促進を希望し陸相の勇斷を求める處あり種々懇談後辭去、富士屋支店で午餐を摂つたが五時二十五分小田原驛發列車で鎌倉の別莊に歸つた

「改革についてはボツく研究してゐる」 元氣で宇垣陸相は語る

濱口首相と會見後宇垣陸相は左の如く語る

今度は元氣になつたよ體重等は病氣前より却つて增加した然し[illegible]が却々治癒せぬので閉口してゐる、餘り永くて飽が來たから近く大磯か國府津邊りに下山したいと思ふ下界はまだ暑いかも知れぬが少しは人間並の生活がして見たい、總理には四ケ月振りで對顏した

樞府の事も色々話は出たロンドン條約も問題が問題だから世間で騷ぐ程の事はなく何とか纏まり相に思ふ總理が軍制改革の督勵に來たつて?そんな馬鹿な事があるものか夫れには陸相代理と云ふ責任者があるではないかそれだから濱口君は「既に代理が置いてあるのだから全快するまで、心置きなく靜養せよ」と慰めて呉れたよ、然し此の問題に就ては阿部陸相代理や小林次官から報告を受け書類も廻して呉れたからボツく研究を重ねてゐる、何とか目鼻をつけ度いと急いでゐるが僕の病氣が妨げになつて六年度豫算編成に間に合ふかどうか兎に角總ては阿部君が遣つて呉れてゐるのだから案が出來たら何れ元帥參議官會議遞りで相談して貰はねばなるまい、尚濱口次官の後任に就ては總て總理に一任して置いた然し總理の肚は既に極つてゐるし僕の考へとも一致したから何れ兩三日中に決定するだらう、後任としては伊東二郎丸君等は曾つて海軍參與官の經驗もあり閱歷として立派なものと思ふ

軍費の多寡 支那南北戰 金が運命づける

◆…軍費の豐富な方が勝つ―昔から南北戰の前途に就し何人も先づから觀測してゐるのである、本年五月十三日隴海線の正面の衝突から三ケ月餘、倍仲せる戰ひは勝率の困憊もさりながら軍費も甚だしく消耗され、今や南北兩者は互に財政捻出難に苦みその功を一簣に缺くの憾みに焦慮めた、從つて支那側では極めて[illegible]つたやうな天の如き戰がかつてゐる。

◆…閻、馮兩氏は永い節約生活から數千萬元の私財を擁してゐるもこれを公然軍費に投出すやうなことは如何に戰ひが不利に陷つても先づ無い、殊に閻錫山氏は反蔣各軍の藥所を一人で請負つてゐるが山西人獨特の出し澁りから直ぐ飛山西軍人の供給を始め石友三、孫殿英、吉鴻昌等各軍へ與へられる軍費は一ケ月に三百萬元見當、これが財源はその勢力範圍內で搾取する田賦、地方稅、各種附加稅、軍費特捐稅等それに濫發された山西省銀行券が三千萬元、國家銀行券百萬元、後者は平漢津浦線、戰時流通券六百萬元、前者は津浦線から戰地で流通が強制せしめられてゐるが、閻氏はこれに依りて相當巨額の現銀を懷に捻込んで了つた

◆…戰後の閻氏への給付[illegible]から考へついたのが政府組織である、即ち儲けるだけ儲け今度の軍費はこれを吐き出さざるを得なくなつたので捻出の責任を新政府へ轉嫁しやうといふのが政府組織を急ぐ肚なのである、若し閻氏にして男らしく當初からバラ撒いてゐたならば西北軍もモウ少し進出し得たであらうし津浦線の苦戰もなかつたのであつたが、好漢惜むべし閻氏を六月中に解決して反蔣軍に加へたのであつたが、のみならず[illegible]し現銀と山西票の差の取引中に[illegible]一歩を立遲せしめ今又石友三軍の變返りさへを傳へしめてゐる

◆…馮玉祥氏亦同一で三十萬の大軍の給與は不足勝ちで僅に山西から興へられる月二十五萬か三十萬かに補ふに陝西銀行券を以てしてゐる爲め河南人は「まだ河南の現銀を陝西銀行は有つて居る、陝西銀行は馮家の私立銀行だ」と罵つてゐるが、その山西から與へられる額も山西票だから助からぬ話だ北方人は南方人に比較して戰はせぬから持久力があると誇られる北軍の軍費も斯く死せば頗る怪しいもので瀕々と傳へられる不利不振もつまり出し澁りに在つたと見られてゐる

◆…一方南軍は上海の財閥、中央政權の強味でその軍費は到底北軍の比ではないといつて金の成る木を有つてゐる譯でもなくその捻出策には宋子文氏を始め首腦者は四苦八苦の體樣である、相當信ずべき消息では、蔣介石氏の軍費は開戰以來六月末まで四千一百萬元支出され七月から本月初旬へ浙江財閥の特殊寄附金一千萬元、郵便貯金の流用二千萬元(郵政の獨立局長總事件はこれに原因した不滿の爆發だといはれてゐる)それに各種行政費の振當ては相當の額らしくその勢力範圍內の各省々庫は今や破綻に瀕し浙江省の如き省內經常費を漸く轉近四月分を發給し得たといふ窮乏さで到る處不滿不平が充滿してゐる

◆…現に宋子文氏は八月分の軍政費は約四千萬元を要するがその收入は九百萬元乃至一千萬元見當である而かも戰局は緊張して來たからどうしても二、三千萬元の捻出が必要だと語つてゐることは如何に南軍首腦者が軍費缺乏に狼狽してゐるかを物語る一挿話だ、そこで宋氏は上海の瑞典マツチ會社に借款を申込んだが拒絕されたので本月十四日江蘇、浙江、安徽、江西、廣東、湖南、湖北、山東の各國稅機關の長官を上海に召集し關務組、鹽務組、所得組、煙酒組、印花組等に分ち各稅局長がこれ等を分別引見し軍費の捻出について協議を開始した結果が關稅庫券五千萬元だ

◆…而もこの庫券は遂に捗りに捗つた揚句とて銀行界に氣乘れしてこれを押つけず前記各地方にて分擔することになつたといふから面白い、これが甘く行けば南軍最後の軍費は五千萬元ある譯で「軍費の多い方が勝つ!」とせば蔣介石氏の天津占領の豫言もどうやら實現しさうな形勢になつて來た、奉天軍抱込みも亦勝敗を決する一大關鍵だが蔣、反蔣兩派から競爭で奉天軍內部へ黃金の花が撒かれてゐることは山海關事變で判るがこの方面へもどつちが餘計多く撒くか、あゝ金の世の中、民國の內亂において特に然り!―(天津特信)

歲入補塡の財源に 臨時的增稅論擡頭 相續、所得稅率の引上

【東京特電十八日發】明年度の歲入補塡及び新規要求に應ずべき一方法として大藏省側でも稅制整理問題を重要視してゐるが、これに關して貴族院一部即ち、進步的意見を有してゐる人々及び無產黨側においては社會政策的意味をも加へて或る程度の減稅と共に一方或る程度の增稅を叫ぶ聲が近一層昂まつて來た、即ち金融資本家乃至資產家は金解禁の結果、その資產の對外價値を高め、それと同時に物價の下落に依つては對外價値を昂めてゐる事實に鑑み、今日の如き財界不況、一般國民の擔稅能力減退、歲入不足などに對する一種の應急策として、かの戰時所得稅の如き臨時的課稅制度を設くるか、又は富裕階級の相續稅引上げ所得稅の累進稅率引上げを實施すべしとの意見が有力となりつゝあるこれについて大藏省事務當局においても現在の實狀に鑑みこれを尤もとして個人に考慮せむとする模樣で我國產業發展の根本方針を妨害しない程度の增稅はその實現の可能性あるものとして今後の稅制整理に關する調查項目の一として相當問題となるべく大いに注目されてゐる

日、墺通商條約 十六日調印を了る

【東京十八日發電通】日本とオーストリアの通商航海條約は豫てウインにおいて大野公使とオーストリア外務當局との間に交涉中の處協定成立し十六日調印を了した旨十八日外務省に報告があつた同條約は全文二十ケ條より成り兩國民の居住通商營業の自由を相互に確保し關稅に關する最惠國待遇を約したもので外務省では正文到着を待ち樞府に諮詢奏請の手續を執る筈

官吏減俸申合せ 既に四十名贊成署名 更らに生活費の低下に努力

【東京十七日發電通】官吏減俸の一申し合せを發表した民政黨の少壯有志代議士は飽くまで黨內の同志を糾合してこれが實現を期する意氣込みの下に目下歸鄕中の所屬議員一同に檄を飛ばして贊成署名を求めてゐる爲め十六日迄に四十名近くの贊成署名者を得るに至つたがこれと同時に家賃電燈電力瓦斯水道等生活費の引下げに向つて努力する事としこれが爲め更に十九日正午第二回有志代議士會を開き實行方法を協議する事に決定した

實物取得を 民間に讓渡 ドイツ賠償債權

【東京十八日發電通】政府は對獨賠償債權中本年四月乃至八月までの分實物取得額百五十萬マークを民間希望者に讓渡するに決し八月三十一日までに大藏省に申請書を提出すべき旨を告示した、その要綱左の如し

一、讓受資格、引き續き三年以上ドイツ商品の輸入に從事せる信用ある商人たる事

一、目的、賠償債券を利用して購入するドイツ商品は國產振興の趣旨に反せず贅澤品にあらざる事

一、限度、讓渡額は原則として一契約五萬マーク以上たる事

一、讓渡方法、賠償債券の讓渡はロンドンにおける帝國政府實物引き渡し委員の振り出す賠償手

關稅改正問題と 井上藏相の意嚮 大藏省は單なる調查に止む

【東京特電十七日發】金解禁後の關稅改正問題としては特に輸入品の安價に對して不當廉賣法濫用の新關稅制の陳情あり、最近は曹達灰に就いて陳情あり、さらに又人造絹絲に對してもこの種運動が起されんとしてゐる、一方撫順から關稅調查會で調查中の銑鐵關稅に就いては內地製鐵業者側と印度銑の出資者と內地製鋼業者との間に利害衝突しそれくの立場から運動が行はれてゐるが、大藏省では井上藏相が左の如き意見を以て關稅改正に際に臨んでゐるためいづれも慎重なる態度に止め當分實際には手を觸れぬことに內定してゐる

一、わが國各種產業は目下金解禁後の過渡的動搖時代にあり製品の相場の如き何れも安定を缺いてゐるのであるから關稅を改正するにしても標準が定め難い

二、不當廉賣法適用の如き消費者に與へる打擊を考慮すれば容易に手を染め難く、また輸入品の廉價によつて內地の同種重要產業が破壞されんとしてゐるか否かに就いては各種產業とも枕を並べ疲弊してゐる今日一層その豫定が困難なること

三、濱口首相、井上藏相は共に自由通商主義者であり、殊に藏相は現下の世界的不況打開策としてゐる際であるから理由の如何に拘はらず關稅引上げはやり度くない

「軍制改革問題 宇垣君には相談せぬ」 會見後濱口首相語る

今日樞府と政府との間に政府の決意を要する樣な重大問題は起つてゐない

宇垣陸相と會見を終へ元箱根富士屋旅館で少憩した濱口首相は語る

陸相の病氣は大變よくなつたが登廳は今月末までには難かしからう、軍制改革の事は阿部君と話すべき事で直接宇垣君に相談すべき事ではない事は勿論である、樞府の條約に對する態度は審查委員會開會の運びに至らぬ今日では何とも想像は出來ぬが

陸軍政務次官後任 伊東子起用か

【箱根十七日發電通】十七日濱口首相宇垣陸相會見の結果濱口陸軍政務次官の後任に就いては伊東二郎丸子を起用するに意見一致した

師團を減すか

【東京十七日發電通】陸軍の軍制改革方針は師團數に手を觸れず師團內部の縮小に依り生ずる剩餘を以つて編成裝備の改善を圖るにあるが

一、既に二回の改革に依り師團內部が著るしく貧弱となつて居りこれ以上內部縮小の餘地少し

二、陸軍豫算單價引き下げ数回に上り軍制改革に伴ふ剩餘豫定額が減少してゐる

等の事情に依り結局は師團內部の縮小をなしたる上へ別に第十六師團の一師團か其の他に第十四師團若しくは第十一師團中の一師團即ち一、二ケ師團の廢止となりはせぬかと見られてゐる

民政全國遊說

【東京十七日發電通】民政黨は政友會に對抗して愈々全國的遊說の陣形に依り九月二十日後先づ第一陣を擧ぐべく二十日午後六時より日比谷公會堂に大演說會を開き井上藏相を中心に財界問題につき氣勢を擧ぐる事となつた

南軍の守備固く 西北軍苦戰 石友三氏の態度怪し

【濟南特電十八日發】隴海線の西北軍は南軍の津浦線攻擊の隙に乘じて積極的攻勢に出でゝゐたが南軍の陣地堅く本月初旬以來の攻擊も何等の效なく兩軍共に膠着狀態に陷つた、從つて一陣地、一小村の爭奪にも何等の變化なく南軍は完全に守勢に成功した、近く津浦線から主力を迂迴せしめ隴海線の北側から西北軍を擊つ豫定であるが山西軍の大敗で西北軍も非常な危險を感じて來た、石友三軍は形勢を觀望して動かず態度頗る怪しくなつた

晉軍傷病兵兵變 市中で掠奪を擅にす

【天津特電十八日發】山西軍の傷病兵は禹城德州滄州の野戰病院に在つたが給與の不行屆のところへ敗戰の報を聞き遂に兵變を起し市中を掠奪しつゝある禹城の負傷兵數千名は銃殺されたと傳へられる

傅作義らの 安否氣遣はる

【北平十七日發電通】濟南、泰安間で置き去りにされた山西軍約四萬は尚消息不明で第二路軍總指揮傅作義、第五軍長李服膺の安否も確ならず山西軍當局は非常に憂慮してゐる

南軍德州まで 進擊か

【上海十七日發電通】濟南來電に依れば黃河上流の渡河地點は既に全部南軍のため占領され殊に濟南附近は南軍の兵力續々增加しつゝあり中央軍は勢に乘じ德州までひた押しに殺擊を續くるものゝ如くである

河北省政府 保定に移轉決定

【北平特電十八日發】擴大會議の談話會で新政府は北京に設けることに決定したので保定の商業團體は閻錫山氏に河北省政府を保定へ移轉するやう請願したが閻氏はこれを許可した

山西軍辛くも 德州に止まる

【北平二十七日發電通】山西軍約三萬は辛うじて德州に踏み止まり直ちに陣地構築に着手したが南軍は黃河を渡つて北進する模樣は今の處ない

山東省政府 德州に移轉す

【天津特電十七日發】山東省政府主席代理鄭崇熙氏は省政府一切の機關を十五日德州に移轉した旨本日各方面へ通電した

多數の共產黨員 滿洲に潛入 東邊鎮守使署に入り込み 共產軍編成を說く

支那共產黨員は最近東北省內に主義の宣傳をなすべく多數の宣傳員を潛入させて居るので東北省當局はこれが鎭壓に懸命の努力を拂つて居るが彼等宣傳員は極めて巧に連絡を保ち此頃では主として官吏軍隊の宣傳に重きをおくことにし本月初旬には東邊鎭守使署に入り込み鎭守使の出張不在を奇貨に副官長以下幹部全員をあつめ約六時間に亘り共產軍の內容、趣旨及組織共產主義の理想的美點等を說明し勞農露國と提携速かに共產軍を編成すべしと論じたといふので目下大問題となつて居る

南昌の危機 去らず

【南京特電十八日發】共產匪軍の第四軍は萬載から三軍及十二軍は宜豐から南昌に迫つてゐるので同地の危機はまだく除かれない警備司令部は共匪の首領姜濟英を逮捕銃殺した、長沙は種々の流言行はれ人心不安だが何鍵氏は逐次討伐を進めてゐるので共匪の再び長沙を襲ふやうなことは目下の所先づ無いと見られてゐる、今回の長沙事件の損害は約七千萬元で復興には少くとも四ケ年を要するであらう共軍第五軍は第四軍と合體する爲め萍鄕方面に逃亡中である因に何鍵、魯滌平兩軍とも二ケ月も給料不渡りの爲め戰意なく討伐が捗々しく進まないのは事實だ、漢口宜昌方面は其後何等の情報がない

東鐵更に 四百名淘汰

【ハルビン特電十八日發】東鐵管理局にては鐵路人事の整理を行ふ一方更替に忙殺されてゐるが、理事會に左記の人々を異動した旨報告した

ウ、ウ、マレワンヌイ氏は工務課技師、ペ、エヌ、マルトウイネンコ氏は汽車課檢査員、イ、ペ、マルコフ氏は收入審查副處長、工務課技師ウ、エ、スミルノフ氏は工務課第六區長に轉任汽車課一級檢查員イ、ウ、セマーノフ氏は汽車課燃料科長、收入審查課副處長のウ、エ、ヘーシン氏は七月一日から收入課長にいづれも榮轉し前收入課長イリンスキー氏はサウエート交通人民委員會委員に轉任決定した因に東鐵にては商業代辦所の縮小閉鎖十ケ所と電氣課その他各課の人員約四百數十名を馘首した

立博士近く歸朝

【ハルビン特電十八日發】國際法典編纂會議に日本を代表して出席した立作太郎博士はシベリー經由で八月末又は九月上旬歸朝すると

白衣同盟革命團 間島襲擊を畫策 爆彈を携へ續々潛入

【ハルビン特電十八日發】八月廿九日は日韓合併記念日であるといふので間島第二鮮人の運動が東寧縣に根據を有する鮮人共產黨が畫策してゐる、彼等は去月上旬東寧縣で鮮人共產黨を開催し白衣同盟革命團を組織し廿五名を前衛としその指揮の下に前上海假政府代表李相龍が八名の部下を率ゐて間島に向つたが、後續部隊は金某が組織し八日中旬東寧を出發した、彼等は一名に拳銃三挺、爆彈三個宛携帶してゐる

人事

▲荒井朝子氏(荒井醫院主) 過般來病院入院中の處この程全快して退院したので從來通り往診治療に應ずると

今年十年目で行はれた米國の國勢調查が近完了した▲これより世界大都市の人口較べをやつて見た所大ロンドンの七百七十四萬二千二百十二人は斷然頭角を拔いて世界最大の都市たるを示しニユーヨークは六百九十五萬八千七百九十二人で世界第二となつた▲しかし何事にも世界第一でなければ承知の出來ぬ米人は一言無かるべからずとあつてロンドンは接續都市の併合が成立しなければ甚だ小さい都市になる、倫敦のロンドンは一方哩人口一萬五千にも足らぬもので云はゞ近代大怪物の古い核心の樣なものだ▲隨つてさう云ふ事になればニユーヨークを世界第一の都市と稱しても差支ないと負惜みを云つて居る▲それは兎も角歐洲大陸の大都市は何れもニユーヨークに遠く及ばずベルリンは四百一萬三千五百八十八人で第三位パリーは二百八十三萬八千[illegible]百十六人で更に遙かに下る▲然るに米國ではシカゴが今度の調查で三百三十七萬三千七百五十三人世界第四米國第二の大都市たるを示した▲日本の東京は今でこそ二百萬の都市に過ぎないが大東京制が實施される暁にはロンドン、ニユーヨークに次ぎベルリンを凌いで一躍世界第三の大都市たるべしと豫想されて居る

錢鈔

定期後場(單位錢)

	寄付	高値	安値	大引
期近	六二三〇	六二五〇	六二〇〇	六二三〇
出來高	三百七十七萬圓			

現物後場(單位錢)

	銀對金	銀對洋	金對洋
九時	六二一〇	一一七五〇	一六二五〇
十時	六二一〇	一一七〇〇	一六二五〇
出來高	銀對金 二十萬	銀對洋 六千圓	九千圓

商品

後場

銘柄	約定期	約定値段	數量
麻袋(保合) 實麻	十二月限	二八、三	五〇
出來高	五萬枚		
綿糸(保合) 福助	十二月限	一二三、二	四〇
同	十二月限	一二二、四	一〇〇
同	一月限	一二二、三	一〇〇
同	同	一二二、七	一〇
出來高	七十梱		

滿日地方版

奉天

花代、玉代値下 愈よ實施に決定 警察署長の認可次第

既報奉天市內料理店組合では不景氣對策として藝酌婦の花代玉代の値下げを斷行する計畫を樹て準備を進めてゐたが居留地側一部の反對でそのまゝ立消えの狀態となつてゐた、しかし同組合では更に時勢に順應し自發的に是非値下げを實行するため酌婦夜間七圓を六圓に藝妓六圓を五圓に又藝妓の線香代一本五十錢を四十錢に値下げする過日開かれた同組合總會で滿場一致可決し十六日午後二時半から新町組合事務所に十間房組合役員參集し右案につき約二時間に亘り協議した處十間房組合側も異議なく承認したので愈々實行することになり具體案作成の上兩三日中に奉天署に對し認可願が提出される筈であるが奉天署でも異議なく認可を與へる模樣であるから近く實施されるやうにならうと

共濟組合對策 協議

十六日夜共濟組合問題に關し援助員は加茂町上田就氏宅に會合し調停者たる上田氏と種々懇談をなす處あつたが結局調停者から希望して來つた一人につき五百圓宛の出資につき十六名の援助員中九名（四千五百圓）だけ取敢ず負擔すること決定し覺書を取り換はす筈で尚殘り七人の出資についてはどう

豪農宅に匪賊

十六日午後一時頃新城子附近支那部落に十數名組匪賊現はれ支那農宅を襲ひ人質一名を拉去しつゝ討伐に赴いた巡警一名を射殺し銃器を強奪逃走した支那側公安局では極力該匪賊搜査中であるが急報に接した奉天署からも刑事並に外勤巡査十數名十六日夕現場に赴き大警戒に努めたが何等手懸

撫順軍大勝 對奉天劍道試合

奉天道場劍道部では撫順劍道部を迎へ十七日午後二時半から奉天道場に於て劍道試合を擧行したが奉天側は一體に元氣乏しく不戰五人を殘して撫順軍大勝し四時半散會した尚その成績左の如し（○印勝）

撫順	奉天
小石澤	○池田
○黑拔	森
佐藤	三諸
水上	○坂本
○外村	○清水
○松田	復本
○中島	的場
○濱口	○田崎
早川	○前田
○森	○久見瀨
○神保	片桐
佐々木	○福井
○海老名	○尾柴
○本村	橫尾
不戰 藤川	○遊谷
同 高山	○川上
同 金淨	擢本
同 愛甲	高岡
大將 坪田	○大將 中西

撫順新名所 東公園の蓮 滿開は次の日曜

撫順の新名所——まだ人に多く知られない東公園の蓮池の蓮が綻びそめ茲一週間が絕好の見頃で、十七日の日曜は午前十時頃から新名所の美を求めてピクニックに出た者も相當あつたが汚濁なる池に浮ぶボート等繪にもしたい風情である、新興の遊地などより比較にならぬ位多いし地の利を得てゐるので將來撫順唯一の名所と謳はれのも遠くはあるまい、この次の日曜がおそらく滿開であらう

邦人が強盜に襲はる

十七日午後零時四十分頃市內平安通末端清次は滿洲鐵道附近に於てモーゼル拳銃を所持せる二人組強盜に襲はれ銀側腕時計一個十五圓女持指輪價格五圓と三圓五十錢入りの財布を奪ひ高粱畑に姿を晦ました同人は午後六時五十分頃屆出でたので犯人の搜査を行つたが發見するに至らなかつた

町の便り

故金谷巡查部長の十日祭は十七日午前九時から新高町共住會所に於て營まれたが參列者立川署長代理以下各署員その他多數あり盛大裡に十一時頃終了した尚金谷氏の遺骨は十九日郷里から遺族來奉し引取つて歸國する筈

◇

奉天國粹會本部幹事長福島濱治氏は十七日皆川本部長の手許に辭表を提出したと

◇

過般抱酌婦並に仲居に暴行を加へ一悶着を起さんとした市內料理店富田屋事件はその後政枝、とし共某氏の調停で和解成り圓滿解決するに至つた

人事

▲山崎領事　十六日遼陽より來奉
▲仲村奉天署警部　十六日沿線に出張十七日歸奉
▲撫順劍道部選手一行　十七日奉天往復

瀋滴

□□か病死か判らぬが兎も角十六日張學良氏急死說が奉天ばかりでなく支那各地その他各方面にパッと傳はつた▲眞否不明なるが故によもや……ヒョッとするとなどと話は次から次へと傳へられ色々な噂を生んだ▲十中九、九までは或方面の宣傳であらう位に想像せられその否定を信じてゐるが萬一之が事實にあつたにせよ相當嚴重秘密にされてゐるに違ひないから旣に急死說…急死說否定…と斷定し歡說するのも亦餘りに粗忽すぎる▲どうせ支那側の事であり又時局柄その首領の死亡說など甚だ不利に置かれ絕對秘密を嚴守するに相違ないからその間からうした飛電が度々來ないとも限らぬ▲處でこれまで平々凡々であつた銀相場は學良氏死亡說で十六日の如き十三圓見當動いたとの事お蔭で思はぬ利を納めたもの損をしたものこれ又悲喜交々の有樣である▲學良氏の死亡說も判らぬ銀相場の變動も解らぬ世の中は總て判らぬ寧ろ判らぬが當然のことだ

撫順

麵類其他の値下 料理店から自發的に申請

銀暴落に依る結果、各料理店、飲食店等の料理、ビール代の値下斷行は輿論の聲であつたが今回料理店側も左記の如く一齊に値下する事と決定、當局へ認可方を自發的に願出た

品種	現在	新代價
ビール	六〇錢	五〇錢
シトロン	三〇	二五
ソバカケ	一〇	一〇
モリ	一五	一五
ザル	二〇	一八
玉子とじ	二五	二二
親子	三五	三〇
ナンバン	三五	三〇
オカメ	三五	三〇
天ぷら	三五	三〇
丼物	四〇	四〇

野球團 續々來征

森內なき後を悲觀された撫順野球部も、既報の如く實力安東滿俱を破ぐ新義州を大敗せしめ意氣軒昂たるものあるが、二十四五日頃より三十一日までの間に長崎高商及び名古屋高商の兩チームの來征に決定、亦目下甲子園で覇を爭ひつゝある全國中等學校の準優勝チームが朝鮮經由三十一日頃來征する筈であり更新の元氣燃ゆる撫順ナインの前途は頗る多忙である

旅順

旅順の惱み（十一）　一記者

映畫館

◎國際都市としての娛樂施設の中、老虎尾半島御家庄の利用による賭博類似の設備の必要は既に說いたホテル、ダンスホール等の設備も大改善を加へらるべきものゝ一であるが、差し當り緊縮を要するものは快適なる映畫館である

◎大連の日活館特に連鎖商店街の常盤座は兎も角快適なる映畫館らしき形態を備へてゐる、常盤座が西洋物を專門とし座席及通路の快よさ等、ほゞ上海の映畫館に劣らぬ設備を誇り得る

◎西洋物專門を標榜するのは國產映畫の趣旨に反するやうだが、十年一日の如くチャンバラ物では、一度や二度外人や中國人の好奇心を惹き得ても、到底永續のファンたらしむる事は出來ない、日本人でさへチャンバラや日本女優の甘ッたるい□□物ではすぐ飽きが來る

◎そこでバックの大きい且創作に深みのある西洋物や、世界ニュースを編成した清新なるニュース物には、日本人でさへ無條件に惹き付けられるのだから、況んや外人をや

◎支那劇を見て日本人が不可解を叫ぶと同樣に日本劇は他國人が見て判る筈はない、日本人でさへ多少通にならないと判らない事が多いのだから

◎常盤座が西洋物專門の看板を揭げた事に賛意を表するのは、國際都市になくてならぬものゝ一つが出來たからである

◎但し其常盤座も平日は夜間只一回の映寫とあつては無テンポの一九三〇年型と云ふ事は出來ない、

◎德川時代、寛延から夜の九ツ迄も芝居を見物したやうな吞ん氣さを現代人に强るのは强る方が間違つてゐる、五時間も六時間も活動見物に一夜を潰す事は現代人の大なる苦痛であり負擔である

◎精々二時間か三時間で一回とし輕い興行物とニュース物と輕い喜劇位で看客が交替し一日數回の興行とするとが出來れば、散步の序に億劫なしに一寸カッフェーで紅茶を呑む位の氣輕さで觀賞するとが出來るであらう

◎顧みてわが旅順の映畫館は果して如何、劇場と公會堂を兼ねた昭和館で、通風の惡さ座席の惡さ、お茶子の不便、昔の反響の不完全等數多くの苦痛を甘受し、五時から十一時乃至十二時迄、五六時七時間の鑑賞苦業に忍耐する勇氣がなければ活動も見に行けない況んやトーキーなどは持つて來たくも其設備が出來ないと云ふに至つては、惠まれざる者よ汝の名は旅順市民なりだ

◎云ふ迄もなく映畫は、音とラヂオ、文字による新聞と共に近代文明の生んだ最大なる文化機關の一である、黃金臺の繁榮を復興さんとする一面には、老虎尾半島の繁榮に擴大し、快適なる映畫館の設立も頗る緊要ではあるまいか

旅順　吾等の町を語る　今後の伸路は海へ ＝有望なのは鹽の積出＝　宅島猛雄氏談

一言 にして盡せば旅順の盛衰は海軍關係の施設の大きかつた時代に繁榮を極め、其施設の縮小と比例して衰微したと云ふことが出來る、即ち鎭守府の置かれた時代は旅順の最盛期で人口も僅に現在の倍はあつたが、鎭守府が廢せられて要港部となり、次いで防備隊に縮小され、更に防備隊も撤廢されるに及んで、旅順も愈次縮小衰微するに至つた。

◇

明治 卅八年一月の旅順開城以來、一般民の渡來を公許されたのは同年八月だつたと思ふ、當時我陸海軍は互に各戰場の整理に餘念なく、沈沒艦船の引揚業、破壞建造物復舊の請負事業、陸海軍御用達等に多數邦人の渡來を見、同時に料理店、飲食店の繁昌は素晴しいものであつた現在の第一小學校の下（當時は初瀬町といつた）一帶から青葉町其他目拔の場所へかけて飲食店（中には今の支那町の前身だつたのも少くない）が軒を並べ□頗る盛況であつた、かゝる繁昌を續けた明治卅八年から九年、四十年、と此三年間が旅順の最盛期で、爾來旅順は遺憾ながら衰微の一路を辿り、今日に至つた、海軍が旅順鎭守府を置いたのは明治三十九年だつたと思ふ、同時に要塞地帶も設けられ、軍部、民政部の二機關を抱容する關東都督府と共に、陸海軍の諸機關が多く且其規模も大きかつたので、此時代こそは旅順萬歲の好景氣だつたのである

◇

然る に諸機關の整備と共に一面飲食店等に對する取締は嚴重になる、□□建造物の復興や沈沒艦船引揚等の事業も略大完了する一方大連の商港としての發達が目覺ましくなると反比例して、旅順の商港としての價値が殆ど消滅に歸する、彼此の諸原因が重なつて旅順の衰微は避け難き趨勢となつた、時も時鎭守府が防備隊に縮小されるに及んで、旅順はメッキリ寂しくなつた、初め旅順□は東西兩港共海軍のもので、商港としての設備がなかつたが、明治四十三年頃から□□が撫順炭の輸出を計畫し極めて簡單な棧橋を造營して大連の補助港たる形をなすに至つたが、併しそれ位の事では、旅順の衰微を如何ともする事は出來なかつた。

◇

大正 三年日獨開戰の結果青島の占領となるや、不況に惱む旅順を棄てゝ青島に渡つた人も相當に多かつた、今尚旅順から移住した青島市民が殘つてゐる筈である、歐洲大戰後の好景氣時代には、旅順も不自然ながら一寸景氣を見せ、鐵工所、澱粉會社、製氷會社、□業會社、ビール會社、タオル工業、內外商事、旅順□□、旅順銀行、油房工場等、それこそ雨後の筍の如く新企業が起つたが、しかしこれも一場の夢、財界のガラに見舞れて何れも泡の如く消え去つた。

衰微 に泣く旅順の發展策は幾度か繰返されてゐるが、未だに名案は發見されない、嘗て双頭□旅順間に鐵道を敷設し、□を旅順に集中する計畫を□東廳が主となつて企てたが日本□業の不氣業で立消えとなつた、これは同會社のためにも惜い事であつた、旅順の將來を顧みて、觀光を中心とする旅順は先づ□に發展の途を求むべきものと思はれる、旅順にあるものは、鹽と硅石とが其主なるもので、旅順から外へ出すものとしてあるが、大連には貯鹽場の好適地がないので、鹽の積出港としての旅順は相當に價値を認められる。（寫眞は宅島氏）

鐵嶺

齋頭に飜る海老茶旗 覇權三度び開原軍に 各選手の熱技に新記錄續出し 四地對抗陸競大會空前の盛觀

奉天以北各地の覇を競はせる鐵、開、四、公陸上競技第四回大會は十七日午前九時四地選手六十餘名の入場式を行ひ小野鐵嶺運動協會長開會の辭を述べ各地代表旗の撤揚、主將の握手、選手代表福田氏の宣誓、開原主將米澤の優勝旗返還式等を終り、午前十時大會開始となつたが豫想以上の好天氣に惠まれ鐵嶺は勿論、開原、四平街等より二三百名の

團體應援 續々と繰込み千餘名のファンは選手席にまで雪崩込み觀覽席を急造する盛況、支那側からも知名士、學生等多數の觀戰あり午前十時號砲を合圖に熾烈な競技の火蓋は切つて落された、鐵嶺軍は最も自信ある陣容を以て一路榮冠を目懸けて突進せんとしたが期待せる砲丸投、走高跳、三段跳を得意とするフキールド競技の首位を悉く開原軍に奪はれ公主嶺も意外に振はず、遂に左の如き大差を以て三度び開原軍に勝者の名を成さしめた

總得點

△開原五五點五　△四平街二五點　▲鐵嶺三三點五　▲公主嶺一五點

競技成績は昨年に比し著るしく進步し砲丸投、五千米突、八百米突リレーを除く他の十種目は悉く新記錄を出し、各選手の奮鬪目覺ましきものがあつた、各競技□□左の如し

▲八百米　二分七秒五三（新記錄）一着安中（開）二着保井（四）三着布施（開）四着信出（公）
▲百米　十一秒五（新記錄）一着木村（鐵）二着森□（鐵）三着田尻（公）四着木脇（公）
▲砲丸投　十一米五十九　一等竹村（四）二等鈴木（開）三等牟澤（四）四等白鳥（鐵）
▲走巾跳　六米三十五（新記錄）一等米津（開）二等小崎（四）三等洪（開）四等柴田（鐵）
▲千五百米　四分二十八秒五分一（新記錄）一着保井（四）二着佐藤（開）三着布施（開）四着田中（公）
▲三段跳　十二米九一（新記錄）一等浜（開）二等金田（鐵）三等長沼（四）四等山上（開）
▲四百米　五五秒五分三（新記錄）一着安中（開）二着信田（公）三着母谷（鐵）四着立川（公）
▲走高跳　一米六三（新記錄）一等山上（開）二等沼（四）、柴田（鐵）三人同點
▲圓盤投　三十米八七（新記錄）一等米津（開）二等櫻井（開）三等木脇（公）四等室（鐵）
▲二百米　二三秒五分三（新記錄）一着米津（開）二着木村（鐵）三着濱崎（開）四着松井（四）
▲槍投　五〇米三二（新記錄）一等福田（鐵）二等尾上（四）三等山下（公）四等室（鐵）
▲五千米　一八分一二秒　一着藤（開）二着安中（開）三着田中（公）四着李（鐵）
▲八百米リレー　一分三八秒五分三　一着鐵嶺、二着開原、三着四平街、四着公主嶺

午後四時全競技を終り、開原軍滿場の拍手を浴びて再び優勝旗を得會場の中央高く海老茶の代表旗翩翻として揚り全開原會を熱狂せしめ賞品の授與西尾鐵嶺長閉會の辭を述べ主將の握手、萬歲を三唱して散會した

洪水被害 通江口附近慘狀甚だし

鐵嶺附近遼河の增水は著るしいが奧地は一層甚だしく河岸一帶に氾濫して被害甚大の模樣あり、殊に通江口附近は去る十四日の豪雨で河水變流し支那家屋百八十餘戶は浸水のために倒潰し老幼三名は其の下敷となつて無殘の慘死を遂げ流失家屋もあり、附近の畑は一面の泥海と化して大豆畑三十天地、高粱畑六十天地は恢復の見込みなく全滅の有樣であると

金州

響水寺から勝水寺へ 惡道路を改修 民政支署調査に着手

大和尚山麓の名刹響水寺から勝水寺への道路は石塊と粘土の惡道路で馬車道としても交通に不便を感じ、殊に年々增加する大和尚山登攀者からも道路改修方を民政支署當局に要求してゐたが、過日太田□長官が來金の際も此の惡道路を視察し平井總務係長に改修豫算等を訊ねた事もあり、民政署當局でも乘氣となり實地測量の上近々改修方を稟請する筈であるが、改修の運びとなれば響水寺から大和尚山に至る近路となり一層多數の遊覽者も出來る譯で一般から頗る期待されて居る

民政支署で「金州要覽」目下編纂中

金州民政署では年々增加する內地

普蘭店

全普軍惜敗す 對大連中央試驗所軍庭球戰

十七日午前十時より大連中央試驗所と全普蘭店庭球對抗試合を開催出場選手必死の奮鬪凄じく熱戰又熱戰數百の觀衆を熱狂せしめたが、普軍の奮戰功を奏せず大連軍川久保、岡組の眞物凄く終局左スコアーにて普軍惜敗す

(田中 片岡) 四—二 (町田 □山)
(津田 岡□) 一—四 (石山 森路)
(粟山 吉野) 一—四 (百田 中川)
(川久保 岡) 〇—四 (古田 久保)
(佐藤 下重) 四—〇 (梅本 川端)
(松尾 池田) 二—四 (高橋 孫□)

(富岡 藤丸) 四—〇 (鈴木 林)
(橫□ 部地) 〇—四 (一尺八寸 布川)
(河井 岩間) 一—四 (小西 出川)
(片岡 中□) 一—四 (石山 森路)
(川久保 岡) 二—一 (百田 中川)
(富丸 藤浦) 四—〇 (梅本 川端)
(川久保 岡) 四—二 (高橋 孫□)
(富丸 藤浦) 三—四 (一尺八寸 布川)
(川久保 岡) 四—三 (小西 出川)
(川久保 岡) 四—一 (石山 森路)
(川久保 岡) 四—二 (一尺八寸 布川)

安東

市民運動會 中止 地委、區長會議で決定

安東市民大運動會に對する地方委員、區長會議は十六日午後一時から地方事務所會議室において開催したが滿場一致を以て本年は市民大運動會を開かぬ事に決定し滿鐵のみにて行ふ事となつた

三千圓を着服

新義州府內麻田洞金義烈（□）は大正十二年陰曆十一月頃同じ麻田洞に住む製紙會社職工金相祚（□）の實母金永煥が所有田地を賣拂ひ現金三千圓を所持し居るを知り家屋を買入て經營すると儲かると甘言を以て川資金として件の三千圓を受取つて家屋の買入れもなさず現金の返濟もせず最近では鐵相場に失敗し、金は全部注ぎ込んだから一文もないとシラを切つてゐるので、金永煥は遂に實子金相祚より新義州署に告訴を提起した同署では金義烈を嚴重取調中

四平街

好投猛打相亞ぎ 新義軍を一蹴す 五A―一て全四軍快勝

□□安東滿俱と共に久しく國境に覇を唱ふる新義州軍對全四平街軍の野球試合は、十六日午後四時半より熊本（球）高田（壘）二氏審判の下に新義州先攻にて開始された、バッテリー新義州中川、三好、四平街越前、島田、藤原投手を缺ぐ全四軍は老巧越前屋をプレートに新人森坂を一壘に送つたが越前屋頗る好調、僅に七回表にて一點を與へたるのみ、秋吉以下各ナインも各回每に猛打を浴びせ遂に五A―一にて快勝し、午後六時十分閉戰した經過及びメンバー次の如し

▲一回　新義州無爲、四秋吉四球に出で一死後田原の安打に三進二死後島田の左前安打に生還一點
▲二回　兩軍無爲
▲三回　新今西安打に出でしも後續かず、四一死後秋吉二壘打に出で北村の二壘打に生還亦一點を增す
▲四回　兩軍無爲
▲五回　新三者凡退、四高野投前一失に活き、越前屋の二壘打に越前還り、秋吉の中越三壘打に二死か大井の單打に秋吉生還二點を得
▲六回　新三者凡退、四森坂の四球高野の安打ありしも得點に至らず
▲七回　新三好二壘背後のテキサスに一壘を得小口の單打と中川の左翼飛に生還一點を返す、四北村の安打ありしのみ
▲八回　新二死後今西安打に出でしも小野投前、四三者凡退
▲九回　二死後中川四球に出でしも消行の二飛に萬事休す

新義州 —— 西野 今西 三好 小口 中川 石崎 神□ 角素 木□
8 6 2 9 1 5 3 7 4

四平街 —— 秋吉 北村 田原 井出 大島 越前屋 坂野 高森 □
7 4 6 8 2 9 3 5 1

大石橋

小學兒童も交つて プールの水泳大會 廿一日午後三時から

滿鐵運動會大石橋支部主催の下に來る二十一日本年度水泳大會を左記に依り開催する事となつた、多數選手の出場を歡迎すると

▲日時　八月廿一日午後三時より
▲場所　水泳プール
▲競技種目　五〇米自由型、一〇〇米クロール、五〇米プレスト、二〇〇米リレー、五〇米バック潛行、一〇〇米プレスト、二〇〇米プレスト

外小學生徒の競泳もある

太平山附近で 匪賊と交戰

十七日午後一時太平山驛附近に數十名より成る馬賊團襲來し警察隊の公安隊と激戰中との急報に接した大石橋警察署は直ちに非常召集を行ひ大津署長始め武裝し總員二十二名太平山驛に急行せるが、匪賊との交戰地は驛を距る西方五支里にして銃聲手に取る如く聞え相當激戰の模樣なるも附屬地內に彈丸飛來の恐れも無きため午後□時まで監視警戒せるが匪賊は西方に退却せりとの報に午後五時歸署した、支那側の報告に依れば公安隊は三名の負傷者と一名の卽死者を出し馬賊團の損害は未詳なりと、附屬地外の馬賊跋扈は近年其の比を見ず支那公安隊は懸命に疲れてゐる

軍服を强請 聖水寺に匪賊團

去る十四日夜大石橋の東方約□里□里餘の聖水寺に數十名より成る馬賊襲來り村長に軍服五十着を要求し居たりしが急報に接して警察署より百餘名の巡警馬隊が驅け付けたゝめ東方に逃逸したが、巡警等の手當り次第の徵發に村民等は沒有法子と□してゐる

開原

複線運轉を開始 ▼……きのふから開原金溝子間

滿鐵本線開原、金溝子間の複線工事は去る四月十五日頃より着工したが開原驛の工事進捗し此程敷設を終り試運轉の結果良好であつたので、愈々十八日下り第七列車、上り第十二列車より複線運轉を開始した、因に同工事の竣工期間は來る十月三十日までであると

草刈社會主事 公主嶺へ榮轉

開原地方事務所草刈社會主事は今回公主嶺地方事務所庶務係長兼社會主事に榮轉し後任は本社地方部庶務課桂五郎氏に決定したと

中川特務曹長 鐵嶺に轉任

開原守備隊附中川特務曹長は今回第五大隊鐵嶺中隊附に轉任、後任は虎石溝守備隊松本曹長が特務曹長に昇進就任

岩田大隊長 けふ着任

常地守備步兵第三大隊長に補ぜられた步兵中佐岩田文男氏は十九日十三時八分着急行にて着任する由

長春

支那側の模範監獄 商埠地六馬路に 九月から着工

國民政府では治外法權撤廢の前提として全□各司法機關に對し凡ゆる施設の改善方を命令しつゝあるが、吉林高等法院では長春地方法院附屬の第二模範監獄の新築を計畫し既に本月十日吉林に工事入札を終へ請負人の決定を見たが、建築地點は長春商埠六馬路の清眞寺附近、請負人は哈爾賓の瑞興人弘安洋行に落札したと、而して工事は來る九月起工明年十月竣工の豫定で總工費は高等法院で徵收の罰金を以て充當すると

軟球庭球大會 滿俱球場で擧行

來る二十四日滿俱コートにおいて長春軟球庭球大會が擧行される事となつたと

兒童水泳大會盛況

長春西公園內のプールにおける兒童水泳大會は既報の如く十六日午前十時から開催されたが非常な盛會で午後一時頃終了した

白陽會展覽會

長春洋畫會白陽會の展覽會が十六日から三日間圖書館で行はれてゐる

熊岳城

大弓大會 三十一日遼陽にて擧行

熊岳城弓道部では來る卅一日午前九時より大弓場において昭和五年度大弓大會を催す事となり、滿鐵本社より石原範士來熊し矢數式競射等例年の通り盛大に行はるゝ筈で支部員一同目下每夜猛練習中である

竹村主任歸省

當地々方事務所主任竹村虎之助氏は母堂危篤の報に接し十六日廿二時十五分發列車にて陸路郷里高知に向つた

撫順工實の家族會

撫順工業實習所の家族會は十七日の日曜を卜し熊岳城溫泉にて催されたが會員一同午前□時風呂に浴し淸遊會を催し午後馬車自動車を列ね農事試驗場の巡覽を行つた

瓦房店

大運動會 來月七日 小學校で擧行

恒例の滿鐵瓦房店大運動會の準備は去る十四日各關係者協議の結果愈々來る九月七日小學校運動場において擧行する事となつた役員左の如し

▲委員長兼庶務係長小野寺清□　▲設備係長四本兼雄　▲競技係長石井忠一　▲審判係長福田又司　▲接持係長兼救護係長小野村木吉

岩田大隊長 廿五日初巡視

新任大石橋第三大隊長岩田中佐は初度巡視として來る二十五日九時五十分來瓦し守備隊及び各方面に挨拶の上十三時二十六分發列車にて歸石する由

營口

料理代と花代 一割値下申請

營口料理屋組合にては諸物價下落の折柄時勢に適應すべく料理及び花代を約一割値下することゝなりその筋に認可申請中である

錦州地方水害 營口から物資供給

錦州地方出水のため同地居住民は三十二戶中三分の二は罹災し內九戶は全滅の悲運に逢つたので、市川領事、關本所長、加賀商議會頭、松本議長、古川醫院長、小川□□社長等發起となり物資を寄贈することゝなつた

岳風氏吟詠會

東京岳風會□□振興會は木村岳風氏を滿洲に招聘し滿鐵勞務課後援の下に沿線各地において邦人慰問吟詠會を開催中であるが營口では十六日夜滿鐵俱樂部において開催盛會であつた

吉林

石射總領事 十七日發歸朝

吉林總領事石射猪太郎氏は外務省よりの召電に依りて十七日午前八時五分發列車にて當地出發上京し約二週間にして歸任の豫定

林大佐招宴

八月一日の異動に文職□の東北邊防軍副司令長官公署顧問林大佐は十六日午後五時（支那時間）より支那側文武官二十四五名を城內東支俱樂部に招待し進級自祝の宴を張つた因に第二回は近く佐官級の者を招待する筈

不景氣物語（九）

道の船場問屋街も沈衰

▼…「大阪の船場」で知られた大きな問屋街が三つある、本町の呉服問屋、道修町の藥問屋、靱の魚問屋がそれだ、中でも本町問屋さんは上品で金があるので全國的に有名である、それが此の頃の寂れ樣と來たら實にひどい、どの店でも喰込んで居ない所は殆どなく、今ではもう手持商品をなるべく少なくして喰込み量を最少限度に止めようとして努力してゐる「儲かりまつか」と云ふ言葉は大阪商人の常套語であつたが、今頃そんな事を云ふと笑はれる、一ヶ月もたてば、來年は、と賴りない望みを賴りに喰延ばし策をとつてゐるのが本町筋である。

▼…それでも資力の豊富な大問屋や、潜行的に飛び廻るものはどうやら辻褄を合はせてゐるやうだが普通に普通りにやつてゐた分ではもう脈がない、金融梗塞でバタバタ倒れつゝある、擔保流れで銀行に大きな店を明渡したものだけでも野村利兵衛さんが不動貯蓄へ小杉佐平さんが愛知銀行へ、等々五指に止まらない、近頃本町通りに看板をあげた銀行の出店は之等擔保流れと見れば間違ひない所である、本町の問屋さんと云つても漠然としてゐる、洋反物、織糸布羅紗呉服と分けて見よう。

▼…洋反物問屋は比較的いゝ方で殊にモスリン問屋は生產會社を牛耳つて聯盟や共同販賣で市價を釣上げさせてはシコタマ儲けたものだつた、然しモスリンが次第に消費者の欲望から遠ざかりつゝある今日ではもう駄目だ、合毛、洋モス等の生產會社は一足先にクタバつてしまつた、此の不況裡にあつてまだ儲かつて行くのは人絹交織物である、安價で見榮えのするのが時代に適合したためであらう、然し何と云つても天下に鳴らした洋反物屋さんだけあつて今でも山口玄洞、伊藤萬、田村駒、丸紅等の土臺石はピクともゆるがぬさうだ。

▼…織糸布問屋は何しろ相手が紡績や織屋と來てゐる、我利々々亡者の間に挾まつて紡績屋から高く買ひ寧り、機屋へ安く賣り寧つて汗みどろに働いて損をしたのだから馬鹿げてゐる、折角戰時好況時代に貯め込んだ儲けを此の半年間にすつかりすつてしまつた、まるで線香花火のやうなはかない商賣である。

▼…羅紗問屋は初めから儲けはない、あれだけ需要が多いのに何故儲からないかと云ふに、最後の消費者たる少額サラリーメンが洋服代を踏み倒すところへ、國產愛用で紡毛屋さんは上つたり、それに洋服屋は羅紗代を踏み倒すと來るのだから堪らない、長年の不完全なる商取引は此の事實を如何する事も出來ない。

▼…呉服屋だけは何の變哲もない損の行く所は例のいゝものを高く買りつけて埋合せてやつてゐる、大きな損はしないが、慢性的に大[illegible]りを續けてゐる、扨て問屋さん達は何處へ行く?勞農ロシヤでは生產者より直接消費者へをモットーに仲介業者を全然排して見たが結果は大失敗であつた、需給の圓滑を計るには仲介業者は絕對必要機關である事が明かにされた譯だ、だから本町の問屋さんもいくら不景氣とはいへまさか斃れて了ふ事もあるまいといふ極めて心強い（?）結論に到達するのである

▼—新刊批評—▲

▲鬪爭記（ヘイウッドの手記）ボール・ケート、高津正道共譯）原著者ヘイウッドは米國におけるあらゆる最左翼運動の本流としてあらゆる彈壓の下で鬪つてゐる有名なる國際I・W・W（世界產業勞働者組合）の首領として永年無產者のために戰ひつゞけた米國勞働界の恩人である、而して本書はヘイウッドがカウボーイ、ベルボーイ、果物屋の小僧の幼年時代から、案內人、鑛夫等の奴隷的勞苦を經て初めて反逆兒として立ち上り一昨一九二八年遂にモスコーに於て客死するまでの自己の生活を自ら手記して米國共產黨機關紙デリー・ウオーカーに連載した物である、本書の全篇で彼が其の妻アンに對する濃やかな愛情、インデアンに對する限りない愛寵を知ることが出來るが、そこに彼の大きな人類愛の根底を窺ふことが出來はしなからうか、本書を「不景氣と失業」「知事と軍隊」「暴れる資本家」「銃殺?死刑?」「I・W・W」等十一章に分つてゐるが、幾度か生死の境を切り拔けて來たヘイウッドの面影を充分に知る事が出來る（四六版五百十六頁定價一圓五十錢東京神田表神保町夫人社發行）

畜產工業界の貢獻者【二】

故向井君に關する追憶の數々

難波生

多くの意味において事業は人格の反影であり、人格は傳統と經驗との產物である、向井君の性行にもその一適例を擧げることが出來るが、君が滿洲で骨買ひを始めた動機には、更に數奇な一原因があつた、君の生地は香川縣木田郡庵治村字鎌野、牟禮半島の東北端にある片田舍だが、後に五劍山の峻嶺を負ひ、前に瀨戶內海の急潮を望み、北と東北とに稻本、高島の二島嶼をへだてゝ、遙かに小豆島と相對して居る、祖先は足利時代の落武者らしく「いづれは海賊の船乘りだつたのだらう」と、君は生前よく笑ひながら冗談をいつた

海のほかには交通の最も不便な土地柄で、五十戶許りの住民の大部は、封建當時から重に北國通ひの帆船に乘組み、向井家は代々その元締であつたといふ、君の祖父孫右衛門翁は一廉の漢學者で賴山陽、柴野栗山などゝの交遊深く、一たび緣野を訪問するや、數ケ月間逗留して行くのが常であつた、それ程不便なそれほど香氣な桃源郷であるが

君は先代孫兵衛翁の末子と生れ十六七歲のころ軍人を志して上京し、重野成齋翁の私塾に寄宿したが、當時の塾頭は西村天囚君、その感化は向井君の全生涯を少からず色附けて居たやうだ斯くて二回成城學校の入學試驗を受けたが、二回とも不合格で方針を一變し、乙種船長の免狀を得て朝鮮通ひの船業を始めた青年時代の客氣に任せて、君に適はしい面白い逸話をのこしたが、畜產工業の將來に着眼するに至つたのは、その頃仁川、群山方面から屢々鹿兒島行きの牛骨を託送された經驗からである

朝鮮通ひを止めたゝ、暫く高松市で軍隊の御用商を營んだが、之がまた日露戰役の發生と共に、君に渡滿の志を起させる[illegible]となつた當て第十一師團長だつた乃木將軍に懇願して人夫長となつたが、大連に上陸したのは明治三十七年五月、爾來或は旅順攻圍軍に、或は混成旅團に隨行して後方勤務に服したが、奉天會戰[illegible]解職されて居を遼陽に定め、後家大街に雜貨店向井洋行を開業した、夙に牛骨の利益を認めて居た君は、間もなく營口所在の三井物產支店と交涉して、五百萬斤買出しの契約を結び、人を入方に派遣して買出しに取掛かつたが、その頃の滿洲ではまだ獸骨の利用法を知らず、專ら燃料代りの燃料とされて居た、それだけ却つて疑惑の眼を以て迎へられ、一般人に理解されるまでの苦勞は少なくなかつた

併し價格の低廉なことは驚く許り、今や百斤二圓內外の相場だが、當時は僅かに六錢、それを錢五十錢で三井に渡したのだからボロイい話だ、瞬くうちに六萬圓許りの利益を得て鄉里へ送金したが、その後同業者の數は殖へ、殊は戰後の不況時代となつて、利鞘は少なく荷物も停滯勝ちであつた、併し行詰りは君に轉換策を案出させ、印度骨粉の見本を取寄せて加工業を思ひ立たせたが、大連米國領事館を通じて、クラッシャア一臺を輸入し、更に豚毛を買集めて倫敦との直取引を企てたりしたが明治四十一年火災の爲に類燒の厄に遭ひ、僅かに持出した碎骨機を携へて大連に工場を移轉した、唯夫れ工場とは名のみで苦力小屋同樣、滿鐵から好意的に拂下げられた古鐵板を材料としたに過ぎぬ

殊に當時の向陽臺は不便極まる市外の荒蕪地で、用水の缺乏した、運搬に困難な區域であつたが、君は其處で勞作と研究とを續け、豚毛の頭を嚙ぢりつゝ一週間位徹夜する事も稀でなかつた、最も苦しかつたのは明治四十二年のペスト流行時代で、鐵道からは牛骨の輸送を斷られ、吉林で集めた原料を、同地の水災と大火で失くするなど工業家としての深刻な試練期であつた、併し試練は益々君の決心を固め、製造法に就いての進取的氣分も旺ならしめた、その缺乏と戰ひ、借金と戰ひ、世間の冷評と戰ひつゝ、忍苦努力した當時の面目は、眞に儒夫をして起たしむる概があつた。

人の時

横顔を描く（五）

バロン・シデハラの屋敷

幣原さんは昔から大臣になつても官邸住ひはやらない、震災後から今日に至るまで、ズーッと引込の家に住んでゐる、だが、これは幣原さんの家ではない。岩崎彌太郎男の別邸である。幣原さんは彌太郎氏の二女雅子夫人のお婿さんであるからだ。

何萬坪といふ廣大な屋敷の門口に立つと、見えるのは森のやうに深い樹ばかり。その奧の方にポッチリと——といつても相當に廣いのだが——家が立つてゐる。蟬時雨のやうな邸內、見るからに涼しさうな木蔭。

◇—◇

この屋敷については面白い話がある。かつて某英國大使が、電話をかけて「バロン・シデハラは在宅かどうか」を聞いた。電話にかゝつた女中は「ゐらつしやることは確かにゐらつしやいますが、何處におゐでになるか一寸分りかねますから探した上で御返事申し上げます」と答へた。すると英國大使は「自分の家に居ながら、居るところが判らないなんて、そんなベラボーなことがあるか、人を馬鹿にするにも程がある」とカンカンになつた。

後で外相は「先程は大變失禮したが、御承知のやうに私の家は、ちよつとばかり廣いもんですから、庭でも散步してゐる時は、一寸何處へ行つてゐるか分りかねることがあるのです。どうぞ惡しからず」と謝つたといふことだが、しかし屋敷は廣くても、幣原さん自身は金持ではないから、この屋敷には自分ではあまり金をかけてゐない。

だから、屋敷へ入つて見ても外交官の住居 といつたやうな華やかさはまるでない。

◇—◇

「バロン・シデハラ」は外國ではとても有名な 或人の話によると、若槻內閣の外務大臣をやつてゐた時でも、英國あたりでは、總理大臣の若槻氏よりも、外相「バロン・シデハラ」の方が有名だつたさうだ。

との有名な「バロン・シデハラ」は典型的な大事務官である。眞白い麻の白服をキチンと着て、皺一つ付いてない白靴を穿き大きな黒鞄を小脇に抱かへ（鞄を自分でもつて步くのは歷代大臣中珍しい平民ぶりである）そしてステッキを握つた姿は、いかにも「バロン」らしく、また事務家らしい。

彼は忙がしい時などは一々ベルで次官や局長を呼びつけたりなんかしない。自分でドンドン出かけて行つて、サクサと仕事を片づける。殊に公文書などは自分でドシドシ書き上げてしまふ。

實際また、彼の公文書は有名なもので「バロン・シデハラは世界一の公文書書きである」と、かつてロンドン・タイムスで折紙をつけられた程である。

◇—◇

外國語が[illegible]ばかりでなく「バロン・シデハラ」は日本字も達者だ。

大分前の話だが、貴族院の藤村義朗男が外相に揮毫を求めたことがある。幣原さんが斷ると藤村男からは「いや、永年外國生活をなさつたのだからペンで結構です」といふ再三の頼み。ところで「では……」といふので墨をすり「萬古清風」の四字を一筆にいとも美事に書き上げた。これには「ペンでも」といつた藤村男もアッと驚いたとある。

◇—◇

「バロン・シデハラ」を世界的に有名にさせたのは、いふまでもなく「對支外交」である。

ところが、癖のわるい支那は、夏になると、決つて動亂だ。今年も例によつて南北戰爭から、共產黨の蜂起まで加はつてゐる。で我が「バロン・シデハラ」も、この暑いのに、あの廣い屋敷から毎日霞ケ關に登廳してゐる。あの引締つた顏が、いかにも忙しさうだ。きまつて夏になると忙しくなるのは、いくら「對支外交」の主でも、あまり有り難くないらしい。（東京支社一記者）

探偵小說 女妖（171）

江戶川亂步作 橫溝正史 伊藤幾久造畫

剝がれた假面（五）

千家篤麿が逃げこんだ壁といふのは、厚い羽目板ががんどう返しになつてゐると見えて、それを開く方法を知つてゐるものには、何の雜作もないのだが、それを知らぬ者は打破るより他に方法がない然し、今では豫じめ知らせて置いた警察並に警視廳の役人どもがどやどやとやつて來てゐたので、それはさう大して難しい仕事ではなかつた。

二三人の力で間もなくぽつかりと暗い穴が開く。見れば其處も矢張り拔道の隧道になつてゐるのだ

「さア、その中に入つたのは袋の中の鼠も同然ですわ。この拔道には、この家か、向ふの家の二つしか出口がないのです。かうして兩方とも嚴重に張番をしてゐる以上もう充分大丈夫ですわ。今度こそ逃がしつこありませんよ」

壁が打破られたのを見ると、瀧子は振返つてさう言つた。然し、その言葉に從つて、自分からその拔道へ入つて行かふといふものは一人もゐない。皆さつきのあの千家篤麿の物凄い形相を思ひ浮べたのだ。最早、自暴自棄になつてゐるらしい相手は、何をしだすかしれたものではない。あの鈍色のピストルを振廻して、いつ何時暗闇から躍り出して來るか知れないのだ。

誰も自分から進んで行かうとする者のないのを見ると、瀧子はじれつたさうに、

「おや、皆さん臆病風に吹かれたと見えますね、ぢや、あたしが先に行きませう。勇氣のある方はついて來て下さいよ」

とさう言ふと、自分から先に入つて行かうとする。それを見ると花子は驚いたやうに、

「まア瀧子さま、危なうございますわ。あの男は氣が狂つてゐるのです。どんな事をするか知れたものではありませんわ」

「いゝえ。なに、大丈夫ですわ。花子さん、あなた此處に殘つて、千鶴子の介抱をして上げて下さい。今度こそあの男を逃がしてはならないのです。今度逃すと、もう二度とあの男を捕へる事は出來ないかも知れないのですよ」

瀧子は健氣にもさう言ひ捨てると、つかつかと暗い拔け道の中へ入つて行つた。如何に臆病風に誘はれてゐるとは言へ、これをそのまゝ捨て置くわけには行かない。牛松と刈谷檢事が直ぐその後に續いたのを始めとして、二三の刑事がその後から入つて行つた。後には花子と千鶴子……それにいつ何時千家篤麿が逃げて歸つて來るかも知れぬといふので、二人の刑事が居殘つた。

瀧子を初め五人の男は靜かに要心深い足取で、暗い拔道の中を進んで行く。皆油斷なく、いつ相手が飛び出して來てもいいやうに身構へてゐた。

愈々大詰の場面が迫つて來たのだ。瀧子は何となくそんな事を感じた。切迫した感情が彼女の胸に迫つて、心臓が早鐘のやうに鳴りひびく。

由良子から聞いたあの恐ろしい秘密、今それを眼前に解かうとしてゐるのだ事實か否か、——彼女はまだ半信半疑だ。けれど、もう直ぐにそれも分る事だ。

拔道は曲りくねつて長々と續いてゐる。闇の中を手をつないだ一同は、囁きながら進んで行くのだと、その時、向ふの方から、よろよろと定まらぬ足どりで、此處へ近づいて來る跫音が聞えた。それと同時に、激しい苦痛の息使ひが聞えてくる。

誰か——負傷した人間が此方へ向つてやつて來るのだ。

一同は思はず息を呑み込んだ。

聚落場めぐり

山霧の中に煙る 林間聚落學舍

溪流が峽谷に快よくひゞく

金州は霧雨の裡に煙つて居た。山口書院長に別れて馬車を大和尚山麓に走らせる、響水寺までは二里の道だといふ。

龍王塘道路は大島都督が植林させた場所が二十年の歳月に鬱蒼よく肥えて垂れ下つた綠枝一ぱいに初秋の風を孕んですが〳〵しい。

▽……△

馬車は龍王塘道路を右に折れて大和尚山の裾が迫つた山峽の道を文字通り踏跟と進む、ひどい石塊道だ、大和尚山が州内一の名山で、響水寺が南滿に於ける屈指の名刹で、山口書院長のお自慢になる程の屈指の名所なんだから、せめて馬車で一時間餘搖られる道路位は何んとかも少し滑らしいものにして欲しいと思つた、お尻の痛む所爲でコンな怨めしいことを考へる

▽……△

雨に煙つて大和尚山は見えない登るにつれて斷崖に添ふ山峽の道に、サラ〳〵と流れ落ちる水流が快よく響く「オーイ」誰かの呼聲だ、斷崖一杯に綠を落した欅、楊柳の茂みの中からポッカリ紅と黒との對色を鮮かに浮せて寺の伽藍が覗く、雨は霽たらしい。

左手に深いダムをたゝえた渇流を見て車を捨てる、響水寺と溪谷一つを隔てゝ林間聚落學舍だ。

▽……△

—驛から電話がありましてネ待つてゐたところです、聚落學舍は明日で終りです、いゝ時でしたヨ。

金州小學校の村上先生だ、村上さんは州内から來る聚落兒童の地元の總元締と云ふ役で泊り込みで來てゐるんださうな。

現在來てゐるのが一番殿軍で大河常盤小學校の兒童です、監督の先生が一人に兒童三十八人それに衞生婦が一人聚落開始以來ズッと詰めてあます。

▽……△

深い樹林を背負つて、前方に響水寺を望む聚落學舍は明るくて閑寂だ、溪谷を中に山二つが尾根を重複する後に聳え立つのが大和尚だ、雨後の山霧が白くたゆたつて山巓はすつかり蔭つてゐる。

—樹木が多くつてコンナに谷が深いので、霧は隨分深いのです、大和尚山はいつも霧の中にボンヤリ浮んで淡彩な墨繪の樣です、私は兒童のお伴で今年でもう十數年登りましたよ。

【寫眞は林間學會】

黴の生えた壁の手入れ（二）

滿洲塗工研究會幹事　藤田揚一氏談

黴の除去は壁の種類によつて其の方法が違ひます、普通の壁に生へた黴は壁の乾燥するのを待ち新鮮な靴ブラシが何かで何回にも掃ひ取りにし

▽▽壁の△△表面に浮いた黴を完全に取り去つてからフノリ一匁に水一合五勺の割合でこしらへたネバリ氣のうすい糊を障子刷毛のやうなもので一樣に塗ります、勿論これは間に合せの手入れですがこうして置くのと其のまゝにして置くのとでは壁の生命によほど影響して來るのです、次にソーライトだとかピースなどのやうな水性ペイント塗りの壁はどうするかといふと、これも

▽▽普通△△の壁の場合と同じやうに黴を刷毛で掃ひ取りにし然る後カゼイン一匁に水一合の割合でこしらへた糊を一樣に薄く塗つて置きます、砂壁の場合は黴を前と同樣の方法で除去するのですがフノリを塗る場合にはノリを布にしめして壁を輕く叩くやうにします、油性ペイント塗りの壁も下から黴が出ることがありますが、この場合は濡れた布で

▽▽黴を△△拭き取つた後乾いた布で拭き上げ其の上に亞麻仁油七テレメン三の割合で調合した液に布を浸し一回乃至一日間を置いて二回ほど塗つて置けばペンキがよく固まります（完）

ローマ字は日本語に適せず（五）

ヨシタケ・タケシ

◇

その國の言語の普及はその國の勢力の如何によるものである。現今ベ那ドイツ、チエーコスロバキア國の一部で日本語の研究が盛になり初めたが、日本語が日本式ローマ字で書かれたからではないのである。歐米國と文字の同じであるのが何の役に立つのだらう？語根も發音も文字も似てゐると云つてもいゝ支那語の場合で考へて見ると、こゝに楽器撰なる家を支那人に尋ねた場合タイホワロウと答へられたらタイカローと發音が似てゐてわかりそうなものだが、わからない、その家まで案内されるか文字でも書いて敎へられねばわからない。この時もう支那語を知つておればすぐわかるのだが。ローマ字書きにした場合は文字が共通でも Taihualoo, Taikaroo と發音と語根が違つてゐる。

◇

世界のローマ字國を相手にする現代にはどうしてもローマ字が必要であるから世界的のローマ字を採用しなければならぬと云ふローマ字論者の心は何んと小さな心であることよ現在人として常識としてでもローマ字は知つておかねばならぬが、ローマ字の四十二三字位は習ひ覺えるのに苦勞はないから覺へればいゝ。

入、日本語の習ひ易さ

今迄日本語が廣まらなかつたのは漢字のためである、同一の漢字に幾通りもの讀方があり同一發音に幾通りもの書き方があつた、要するに漢字の弊害があつたためである、共通文字の漢字を使ふ支那人でも日本語はカナで書いてゐる日本語を話せる歐米人が日本語を書けないのは漢字があるためでカナ許りで書いたら自由に表現出來る。漢字があつて日本語が廣まりにくいから世界的のローマ字にせねばならぬとのローマ字論者の考へは餘りに脱はずみではなからうか、今一度ローマ字カナモジのいづれが日本語を廣めるにたやすいかを考へて欲しい。

◇

前述の如くあらゆる方面から見てローマ字は日本語を表はすに適しない。又外國人にしてもローマ字書日本語を讀む場合自國のナマリがローマ字であると云ふ氣持になるに日本語であると出やすい。

そして日本語は習ひ易い事になるは違つた文字の方が却つて良い、それもカナが習ふに困難な文字ならともかく一ケ月もあれば自由に使へる位にはなれる。

又十分日本語は知つてゐるがローマ字のタイプライターしか持つてゐないとか、外國の觀光團に一寸日本語を知つて欲しい場合は勿論ローマ字で結構です。カンバンのカナが讀みたければ名刺の裏に五十音圖と撥音拗音の規則位書いて置いたら讀めるだらう。

◇

以上は大體ローマ字の缺點をあげたまででカナとローマ字の比較にはなつてゐないが後日それに就いて詳細に述べようと思ふ。蝸牛角上に相爭つてゐるローマ字論者に一苦言を呈してカタツムリをゆすぶつて見たまでである（完）

植物採集の旅（5）

北陵附近の植物採集

大連一中採集隊

八月十三日

午前五時起床、撫順の化石採集隊と、北陵の植物採集隊とに分ち各々其の目的に向つて行動を開始した。乃ち、撫順隊は六時三十分奉天を發し、北陵隊は同七時徒步で北行、雨上りの郊外は思ひの外に氣分よく、大澤にマコモの茂つてゐる光景は全く他には容易に見られぬ珍しいものであつた、北陵の入口附近に行くと、道の兩側には濕地がいくつも連なり、水の深く滯つたところには、ミヅアフヒアサヾ等が紫に黄に水面を飾つて其の優美さはたとへやうもないるた

更に松の古木の間に入ると、まるでお花畠を見るやうにシャジクサウ、ダウマツムシサウ、ワレモカウ、シロバナワレモカウ、ハナスゲ、ノコギリサウ等が其の美を競ひ、艶を誇つてゐる、水田のほとりにはヤナギ、エゾノウハミヅサクラ、エゾノコリンゴ等叢林をなし、腐朽した樹皮には苔の珍しいものが二三あり、我々は大喜びで採集した

張氏の別莊附近の水澤からは、サンセウモ及滿洲唯一の食蟲植物たるタヌキモを採集した

せめて陵廓内迄と思つたが中々警戒が嚴重で寄りつけない、一回小便すれば、たちどころに五圓の罰金を課せられるといふので、恨みを呑んで引かへした

水田のほとりで、イボクサ、ホソバオモダカ、ヒルムシロ、コバノヒルムシロを採集、道々マンシウヒンジモなどを可愛がりつゝ、午後二時歸途につき、敎育專門學校を見學したり、自由に散步したりした

撫順隊は、松柏科又は闊葉樹等第三紀植物の化石、肩の痛むほども採掘して、午後五時二十分意氣揚々歸來、風呂を浴びて、夕食を濟ませ、元氣を再び恢復して、新聞を見たり、雜誌を讀んだりする

午後九時半、學校に禮をつげて御土産をドッサリ肩に負ひ、同十時四十分大連行の急行に間に合はすべく驛へ急いだ。（寫眞は採集隊の一行）—終り—

旅大道路突破 夜行記（二）

大連二中五年　近藤重克

間もなく、思ひ出深い宿舍の前迄來た。僕等はかつて世話になつた隊長や敎官の名前を、聲高く叫んで過ぎた。

益々郊外である。又道の兩側は樹木と草。そして此度は虫の音が喧しい。

後の方で僕等四人に遲れた五年生の一隊が歌を高唱して居る。中々の元氣だ。速度は中々減じない

重砲隊の前へ出た。門衞の兵士に敬意を表して通つた。

あたりは兩側のコンモリとした樹木でやゝ暗いが前方に眞直に、長く續く旅大道路は白く浮いて見える。

今や僕等四人は夜行軍の一隊の最先頭になつた。勿論、レコード破りを除いてゞある。

單調な道、兩側の景色を眺めて進む。步調は變らぬ。道の傍らに立つた、白い石柱、それには旅二粁と書いてあつた。此の石標が以後我々の意氣を如何に引き立てたことか

道はひどいカーブをした所に來た。やつとこのあたりから兩側の樹木は、影淡くなつて吾等の氣持ちは伸び〳〵とした。不圖旅順の町を振り返つて見ると、點々とした燈火の中に赤い電燈が二つ際立つて見えた、表忠塔の電燈が闇の中に瞬いてゐる。

邊の草原から虫の音が、心地よく聞えて來た。さつき僕が喧しいと云つた虫の音も、單調な此の行進をどれだけ慰めて呉れた事だらう。間もなく道の兩側に山が見えて來た。道もいやに曲りくねつて來た。

月光は明るい、虫の音は澄む。實に何とも云へぬ心地だ。バス等でドライブしたのでは到底此氣持は味はへない。

けふのラヂオ

支那語初等科　第十一課

秩父固太郎

（一）1 在。那兒　2 在這兒　3 在。那兒　4 在那。兒

（二）1 你在。那兒　2 我在這兒　3 他在。那兒　4 他在那。兒

（三）1 帽子在那兒　2 帽子在上頭　3 鞋在那兒　4 鞋在底下

（四）1 狗在那兒　2 狗在外頭　3 貓在那兒　4 貓在裏頭

（新字）在。上。頭。底。下。狗。外。貓。裏

譯文

（一）1 何處に有るか（居るか）　2 此處に有る（居る）　3 何處に有るか（居るか）　4 そこ（あそこ）に有る（居る）

（二）1 貴方は何處に居ますか　2 私は此處に居ます　3 彼人は何處に居ますか　4 彼人はそこ（あそこ）居ます

（三）1 帽子は何處に有りますか　2 帽子は上に有ります　3 靴は何處に有りますか　4 靴は下に有ります

（四）1 犬は何處に居ますか　2 犬は外に居ます　3 猫は何處に居ますか　4 猫は内に居ます

新刊教育兒童書紹介

▲兒童の諸問題（越川直作著）大連春日小學校越川直治氏が十數回に亘つて愛兒と家庭誌上に載せたのをまとめたものである、ヴイタミンについての各方面の研究が集録されてゐる（非賣）

▲蛍雪八月號（十錢大連語學校螢雪會）

祝創刊二十五周年並に社屋新築記念
扇家
大連磐城町
電話二一四七三 四二五一
新浜
大連浪速町
電話六四三九
つる家
大連春日町
電話七二三九 七二五四
蝶々
大連浪速町
電話七〇四九
三田尻樓
大連逢阪町
電話七九八三 四二五八
月の家
大連老虎灘
電話三四五九
快樂
大連逢阪町
電話四七四九 六四二二
一方亭
大連老虎灘
電話七五五二
南華園
大連緑山
東茶寮電話四七九二
南茶寮電話四二三一
逢坂町遊廓組合
大連逢阪町電話四七四二

海の唄 「二一七」

仲木貞一作　一木弴画

醜惡の美（四）

翌日、母親は朝から京子を急き立てゝ、美容館へやらしたり、風呂屋への世話までした

「何を、そないに愚圖々々してるなはるのか……貴方かて、もう、えい年齢して、そないに蹴るもんやおまへんえ」

今朝に限つて、この母と娘の日頃の性格が、まるで逆戻りする車輪のやうに反對に働きかけてゐた

だが、然うして母親が急きたてれば、たてるほど彼女は落付けてきた。然し、今までのとから考へても、今日はどうしても兩親の命令によつて伴れて行かれることを思ふと、殘酷に賊落された騎士のやうな憐みに撫辱にされずにゐられなかつた。そして、いろ〳〵と口實を考へてみた。だが、かうした彼女の考へも時間の追迫が無益に終らしてゐた。

そのうちに、幸吉の家からは二度も使ひが來て、芝居の方は、もう座敷がとつてあるから時間までには彼女を同道して欲しいと云ふことだつた。

か弱い女性の者へ方で、この苦計を逃れることは最早家出するより外に途は失はれてゐた。然し、こんな時和娘が京都にゐるならばと思ふと、次の瞬間、臉の裏の熱くなるのを覺えた。そして、愚痴の瞬に待ちかまへてゐる諦めが、彼女を再び茫然とそこに佇ませた。

「京さん！もう何時でもよろしおまつせ、早う爲やはらんか？」

だが、まだ京子は帶を締つたまゝ姿見の前で愚圖々々してゐた。

母親が後から帶をしめるのを手傳はうとすると、彼女は急にそれを擬ひ退けるのだつた。

その時、父親が京子の部屋の障子を細目にあげて覗んだ。そして時計をふり返りながら

「一時ぢやの……」

と、云うた。

母親は機嫌をとるやうに、今度は二三尺離れた彼の方を、娘の後姿にみとれてゐるやうな恰好である。仕方なく彼女は帶を〆……

いつか、約束の時間が三十分も過ぎた。京子は母親の後から重々しく、フエルトを引きずりながら從いて行つた。

裏通りへ出ると、どこからかジヤズが微かに彼女の耳許を聽く流れて行つた。彼女は急に――どうでもなれだ――と云つた氣持ちが全身を襲はしてきた。

「御免やす……」

と、母親は丹波屋の店の入口から、ちよつと中を覗いた。

「あら、此方だつせ……京子さん！」

と、奥の方から幸吉の聲がした。

彼は例の薄い髪の毛を綺麗に梳き分けて、金縁の素通しか何かを形のよくない鼻の上に光らせてゐた。

それでもなりだけは、流石に結城御召か何んぞの緻んだ柄で派手な長襦袢の模様を、兩方の袖口から出すぎるほどに匂はせてゐた。

「おい、外套と帽子を取つてんか……」

と、彼は女中らしいのに向つて云ひ付けると、母親の方を向いて

「えらうおやつしとみえて、遲うおましたなア……先刻にから、門に出てみたり……へヽヽ、居たり去つたり、ちう襖で待つてましたんえ」

「そりや、大きに……」

然う云つて母親は幾つも頭を下げた。

丹波屋の商標のはいつた法被を着た小僧が一人、其處に幸吉の外套と帽子を持つて來ると、時間がおくれたといふので、そのまゝ三人は酒樽樽の方へと自動車を走らせた。

新刊紹介

▲少女倶樂部（九月號）百科圖解「少女文藝畫帖」他ひ高き白百合（永谷まさる）愛の使者（與原健二郎）月宿日笛（吉川英治）花ならべの遊び方（大森敏幸）赤貧美談「双翼一萬哩を翔けた」（中正次）等其の他例によつて附錄には「花ならべ競技號」「名士蹟寫眞」といふ美くしいのがある（定價五十錢東京本鄉駒込坂下町大日本雄辯會講談社發行）

▲拓殖公論（八月號）定價三十錢東京麻布六本木町共社發行

▲共存（八月號）定價二十五錢東京豊多摩大久保百人町新日本協會發行

滿日俳壇　募集規定

次回課題「立秋」「蟲」

「萩の花」▲句數無制限▲用紙半紙、各題別紙▲各紙に雅號氏名記入の事▲締切八月二十五日▲封筒に「滿日俳句」と明記▲原稿送り先、東京市牛込區若町松入二扇田青蜂宛